

釧路労災病院 2017年 年報

やちぼうず 第22号



目次

I. 事業報告 3	III. 委員会報告 57
(1) 巻頭言..... 5	(1) 委員会一覧..... 59
(2) 理念・方針・患者さんの権利、責務..... 6	(2) 委員会活動報告
(3) 病院概要..... 7	・倫理委員会..... 60
(4) 医療機関の承認・指定状況..... 8	・地域医療支援病院運営委員会..... 61
II. 診療科及び部門報告 13	・院内研修委員会..... 62
(1) 診療部門	・院内感染対策委員会..... 63
・内 科..... 15	・化学療法委員会..... 64
・精 神 科..... 18	・臨床研修管理委員会..... 66
・神 経 内 科..... 19	・医師研修プログラム委員会..... 67
・循環器内科..... 20	・薬事／臨床研究審査委員会..... 69
・外 科..... 21	・DPC／クリニカルパス委員会..... 73
・整形外科..... 23	・地域医療連携総合センター運営委員会..... 75
・形成外科..... 26	・HIV運営委員会..... 76
・脳神経外科..... 29	・診療医事業務／査定減対策委員会..... 77
・泌尿器科..... 31	・診療情報／個人情報管理委員会..... 78
・眼 科..... 33	・医療安全推進委員会..... 80
・耳鼻咽喉科..... 34	・医療情報システム委員会..... 82
・放射線科..... 36	・機器等整備委員会..... 84
・麻 醉 科..... 37	・救急診療運営委員会..... 85
・歯科口腔外科..... 38	・緩和医療委員会..... 86
・健康診断部..... 40	・臓器提供委員会..... 89
・栄養管理部..... 41	・禁煙実行委員会..... 90
(2) 中央診療部門	・がん診療連携拠点病院運営委員会..... 91
・中央リハビリテーション部..... 42	・診療材料等検討委員会..... 92
・中央放射線部..... 44	・血液浄化室安全管理委員会..... 93
・中央検査部..... 45	・在宅医療運営委員会..... 94
(3) 診療支援部	・公舎管理委員会..... 95
・臨床工学部..... 47	・栄養管理／NST委員会..... 96
(4) 薬 剤 部..... 50	・図書委員会..... 99
(5) 看 護 部..... 52	・省エネルギー推進委員会..... 100
	・防災委員会..... 101
	・手術部運営委員会..... 102
	・輸血療法委員会..... 103
	・医療ガス安全管理委員会..... 104
	・褥瘡対策委員会..... 105
	・放射線部安全運営委員会..... 107
	・中央検査部管理運営委員会..... 108
	・保育委員会..... 110
	・健診業務体制整備委員会..... 111
	・広報編集委員会..... 112
	・病院誌「やちぼうず」編集委員会..... 114
	・衛生委員会..... 115
	・患者サービス向上委員会..... 117

• 病院機能評価委員会	119
• ドクターズクラーク運営委員会	120
• 勤務医／看護職員負担軽減対策委員会	121
• 医学系研究利益相反管理委員会	122
IV. 医療統計	123
患者数の推移（入院・外来）	125
診療科別入院患者数の推移	126
診療科別外来患者数（平成29年度）	127
診療科別入院単価の推移	128
診療科別外来単価の推移	128
紹介率・逆紹介率の推移	129
病床利用率の推移	129
平均在院日数の推移	130
時間外取扱患者数 総数と1日平均の推移	131
救急車受入件数（総数と1日平均）	132
手術件数の推移（手術室内）	132
全身麻酔件数の推移	133
化学療法件数の推移（入院・外来）	133
透析件数の推移（入院・外来）	134
内視鏡件数の推移（上部・下部）	134
放射線治療件数の推移	135
解剖件数の推移	135
2017年度後発医薬品指数	136
D P C 14桁 診断群分類上位頻度表（全科共通）	136
D P C M D C 6桁 診療科別上位頻度表	137
K c o d e 診療科別上位頻度表	140
V. 講演会等活動実績報告	143
学術講演会	145
学術研究会	148
VI. 業績目録	151
原著・論文	153
学会報告	156

I. 事業報告

- (1) 巻頭言……………5
- (2) 理念・方針・患者さんの権利、責務……………6
- (3) 病院概要……………7
- (4) 医療機関の承認・指定状況……………8

巻頭言



独立行政法人 労働者健康安全機構
釧路労災病院 院長

野々村 克也

イスラエル米大使館のエルサレム移転、米国のイラン核合意離脱などで中東情勢が緊迫する一方、一発触発であった米朝が北朝鮮の態度の豹変により首脳会談が実現し、何等かの関係改善の方向に動いております。一方、本邦では盛・掛け問題（釧路名物かしわ（頭）抜きであれば問題なかったが）が引きずっており、財務省を始め各省庁の不祥事が明るみになり、国政がストップしている感があります。スポーツ界でも不祥事が相次ぎ、旧態然とした指導体制にその原因があると考えられ、変革が求められています。

医療の分野では喫緊の課題としての新規薬剤・後発医薬品などに象徴される膨らみ続ける医療費の抑制や地域医療構想を睨んだ診療報酬改定が行われました。即ち、2025年に向けて急性期病床の削減を図るべく、重症度・看護必要度を細分化すること等により新たな病院機能の評価基準を設けています。これにより、一定の基準を満たさなければ、細かく診療報酬に跳ね返る仕組みであります。当院は急性期病院として、まさに渦中にあるとあってよいでしょう。昨年度は休床であった50床を返上し、化学療法センター、血液浄化センターを立ち上げ、採血室・内視鏡室の拡充を行うなど、病院全体のスリム化、外来機能の活性化を図りました。また、従来対応が消極的であった救急受け入れ体制を見直し、釧路地区の基幹病院としての矜持を保つべく努力してきました。

このような病院の活性化の礎として、十分な医師の確保が前提であります。しかしながら、この地域の医師不足は厳しいものがあり、当院も例外でなく最近注目されている長時間・荷重労働は避けられるべくありません。また、我々は職業柄不断の自己研鑽の為の時間確保が必要であります。CPCを始めUpToDate、電子ジャーナルなどの昼夜を問わず活用が図られる環境を整えることしかできない状況であります。ここからは全職員の健康維持を考慮し、効率が良く、ストレスの少ない職場環境の追求が必要と思っております。衛生委員会、ドクターズクラーク運営委員会、勤務医／看護職員負担軽減対策委員会の実のある提言を期待している処であります。

足元をみると、少子高齢化・人口減の波は釧路市にも例外なく押し寄せており、各種産業が低迷する中、北大通りの再開発、高速道路の延伸、市立釧路総合病院や釧路駅の改築などのハードルの高い課題を抱えております。翻って、観光立国ショーケースとして、国際バルク戦略港湾として等、外に向かって羽ばたく足場を固めつつあります。当院も地域住民に良質の医療を提供することは勿論、広い視野に立ったGlocalizationの精神で医療を展開していく必要性を感じております。その為には、本冊子（病院全体・各科・各部の種々の臨床指標が示されている）で1年を振り返り、更なる高みに向かって変わっていく必要があります。周囲の医療情勢は指数関数的速度で変化しております。それ以上の速度で当院も前進していかなばなりません。職員の皆さんには本冊子により地域の医療を支える急性期病院としての当院を俯瞰し、一人ひとりが自分の役割を自覚し、軌道を一にして邁進するようお願い致します。また、拙誌をご縦覧頂きます関係各位には、これからのより一層のご指導・ご鞭撻をお願い致します。

2018年6月25日
（院長室にて）

理念・方針・患者さんの権利、責務

理 念

- ・最新の知識と技術に基づき、良質で信頼される医療を実践します。

基本方針

1. 安全で質の高い医療を実践します。
2. 患者さんの権利を尊重し、十分な説明と同意に基づく医療を実践します。
3. 透明性の高い医療を実践します。
4. 地域住民と勤労者の健康づくりのために、予防医療を実践します。

臨床倫理方針

1. 患者さんの人権を守ります。
2. 患者さんの自己決定権を尊重します。
3. 生命倫理に関する法律及びガイドラインを遵守して診療を行います。
4. 患者さんの信条や生命の尊厳に関する問題については審議を行い、治療方針を決定します。

患者さんの権利

- ・患者さんは、人格を尊重した良質な医療を公平に受ける権利があります。
- ・患者さんは、診療上の個人のプライバシーを守られる権利があります。
- ・患者さんは、自らの診療記録の開示を求め、情報を得る権利があります。
- ・患者さんは、自らの意思で医療に同意・選択・決定する権利があります。
- ・患者さんは、診断や治療などについて、他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。

患者さんの責務

- ・患者さんには、自身に関する正確な情報の提供をお願いします。
- ・院内の取り決めを守り、他の患者さんの療養生活や病院職員の医療提供に支障を与えないようお願いします。

病院概要 (2018年4月1日現在)

開設者	独立行政法人 労働者健康安全機構 理事長 有賀 徹
管理者	院長 野々村 克也
所在地	郵便番号 085-8533 住所 北海道釧路市中園町13-23 電話番号 0154-22-7191(代) FAX番号 0154-25-7308
開院	昭和35年1月22日
病床数	450床
手術室	10室
標榜診療科 (21診療科)	内科／消化器内科／循環器内科／神経内科／外科／脳神経外科／整形外科／形成外科／ 精神科／小児科／皮膚科／泌尿器科／婦人科／眼科／耳鼻咽喉科／リハビリテーション科／ 放射線科／病理診断科／麻酔科／歯科／歯科口腔外科
院内標榜科 専門センター等	腫瘍内科／血液内科／乳腺外科 勤労者医療総合センター／アスベスト疾患センター／消化器病センター／ 勤労者リハビリテーションセンター／勤労者メンタルヘルスセンター／ 脊椎外科センター／関節鏡・人工関節センター／脳・脊髄外科センター／ 末梢神経外科センター／化学療法センター／血液浄化センター／ 地域医療連携総合センター
特殊外来	働く女性のための外来／禁煙外来／緩和ケア外来／ストーマケア外来 睡眠時無呼吸外来／フットケア外来／セカンド・オピニオン外来／リンパ浮腫外来
主な特色	(1) 地域医療支援病院 (2) 地域がん診療連携拠点病院 (3) エイズ治療中核拠点病院 (4) 日本医療機能評価認定施設 (一般病院2 3rdG : Ver.1.1) (5) 治療就労両立支援モデル事業
その他の施設	釧路労災看護専門学校
敷地面積	39,684.57㎡
建物延面積	41,690.5㎡ 地上9階 屋上ヘリポート有

病棟案内図



外来棟案内図

3階	管理部門・総務課
2階	内科・中央採血室・内視鏡室・眼科・泌尿器科・歯科口腔外科 働く女性のための外来・禁煙外来 勤労者医療総合センター・アスベスト疾患センター
1階	神経内科・外科・整形外科・形成外科・脳神経外科・婦人科 耳鼻咽喉科・皮膚科・麻酔科・救急診療室・薬剤部・総合案内 医事課・地域医療連携総合センター・循環器内科・病理診断科 レストラン・コーヒージョップ(ドトール)・売店

医療機関の承認・指定状況

1. 病院開設承認等

区分

独立行政法人 労働者健康安全機構 釧路労災病院

承認年月日

昭和35年1月22日

2. 法令による医療機関の指定等

法令等の名称

保険医療機関

(健康保険法、国民健康保険法、労災保険法)

生活保護法指定医療機関

身体障害者福祉法指定医療機関

法令等の名称

母子保護法指定医療機関

結核予防法指定医療機関

原子爆弾被爆者に係る指定医療機関

3. 政策医療等の対応状況

区分

厚生労働省指定臨床研修病院（医科・歯科）

釧路圏二次救急医療機関

日本医療機能評価機構認定

地域がん診療連携拠点指定病院

区分

臓器提供施設

エイズ治療中核拠点指定病院

地域医療支援承認病院

メディネットたんちょうネットワーク加盟施設

4. 学会認定施設等の対応状況

区分

日本内科学会認定医制度教育関連病院

日本外科学会外科専門医制度修練施設

日本病理学会研修登録施設

日本神経学会専門医制度准教育関連施設

日本形成外科学会認定医研修施設

日本形成外科学会認定施設

日本整形外科学会認定医制度研修施設

日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設

日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設

日本泌尿器科学会専門医教育施設

日本消化器病学会認定施設

日本乳癌学会認定施設

日本臨床細胞学会認定施設

日本静脈経腸栄養学会 NST専門療法士認定教育施設

日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設

日本がん治療認定医機構認定研修施設

日本眼科学会専門医制度研修施設

日本口腔外科学会専門医制度准研修施設

日本肝臓学会関連施設

日本消化器外科学会専門医修練施設

日本血液学会血液研修施設

日本臨床腫瘍学会認定研修施設

乳房再建用エキスパンダー実施施設

乳房再建用インプラント実施施設

日本核医学専門医教育病院

日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設

日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設

日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設

日本脊髄外科学会認定訓練施設

日本病院薬剤師会HIV感染症薬物療法認定薬剤師養成研修施設

医科・歯科点数表

基本診療料

平成30年3月31日現在

承認事項	項承認年月日
1 入院時食事療養（Ⅰ）・ 入院時生活療養（Ⅰ）	昭和58年6月1日
2 臨床研修病院入院診療加算 （基幹型）	平成19年4月1日
3 医療安全対策加算	平成20年4月1日
4 歯科外来診療環境体制加算	平成29年6月1日
5 がん診療連携拠点病院加算	平成21年4月1日
6 救急医療管理加算	平成22年4月1日
7 地域歯科診療支援病院歯科初診料	平成22年4月1日
8 栄養サポートチーム加算	平成23年4月1日
9 患者サポート体制充実加算	平成24年4月1日
10 データ提出加算	平成24年10月1日
11 無菌治療室管理加算 1	平成25年4月1日
12 一般病棟入院基本料	平成29年1月1日
13 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	平成27年4月1日

特掲診療料

平成30年3月31日現在

承認事項	承認年月日
1 補綴物維持管理料 （現：クラウン・ブリッジ維持管理料）	平成29年12月1日
2 血液細胞核酸増幅同定検査 （現：造血器腫瘍遺伝子検査）	平成12年4月1日
3 高エネルギー放射線療法	平成14年4月1日
4 放射線治療専任加算	平成15年4月1日
5 直線加速器による定位放射線治療	平成16年4月1日
6 歯科治療総合医療管理料（Ⅰ） 及び（Ⅱ）	平成18年9月1日
7 脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込 術を含む。）及び脳刺激装置交換術	平成18年10月1日
8 医療機器安全管理料 1	平成20年4月1日
9 医療機器安全管理料 2	平成20年4月1日

承認事項	項承認年月日
14 感染防止対策加算	平成27年4月1日
15 療養環境加算	平成27年7月1日
16 診療録管理体制加算 1	平成27年9月1日
17 医師事務作業補助体制加算 1 （25対1補助体制加算）	平成29年4月1日
18 歯科診療特別対応連携加算	平成28年4月1日
19 地域歯科診療支援病院入院加算	平成28年4月1日
20 25対1急性期看護補助体制加算	平成28年9月1日
21 10対1一般病棟入院基本料 （看護必要度加算）	平成29年9月1日
22 重症者等療養環境特別加算	平成28年9月1日
23 病棟薬剤業務実施加算 1	平成28年9月1日
24 退院支援加算	平成24年4月1日
25 認知症ケア加算	平成29年4月1日
26 精神疾患診療体制加算	平成29年6月1日

承認事項	承認年月日
10 外来化学療法加算 1	平成20年4月1日
11 無菌製剤処理料	平成20年4月1日
12 集団コミュニケーション療法料	平成20年4月1日
13 外来放射線治療加算	平成20年4月1日
14 医科点数表第2章第10部手術の通則5（歯科点数表 第2章第9部の通則4を含む。）及び6に掲げる手術	平成20年4月1日
15 歯周組織再生誘導手術	平成20年6月1日
16 糖尿病合併症管理料	平成20年10月1日
17 ペースメーカー移植術及び ペースメーカー交換術	平成21年12月1日
18 大動脈バルーンパンピング法 （IABP法）	平成21年12月1日

承認事項	承認年月日
19 医療機器安全管理料（歯科）	平成22年2月1日
20 検体検査管理加算Ⅳ	平成22年4月1日
21 乳がんセンチネルリンパ節加算1及び2	平成22年4月1日
22 肝炎インターフェロン治療計画料	平成22年4月1日
23 センチネルリンパ節生検併用及び単独	平成22年4月1日
24 透析液水質確保加算Ⅰ	平成22年4月1日
25 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	平成22年4月1日
26 薬剤管理指導料	平成22年4月1日
27 膀胱水圧拡張術	平成22年4月1日
28 輸血管管理料Ⅱ	平成22年11月1日
29 がん治療連携計画策定料	平成30年1月1日
30 脊髄刺激装置埋込術及び脊髄刺激装置交換術	平成29年10月1日
31 夜間休日救急搬送医学管理料	平成24年4月1日
32 外来リハビリテーション診療料	平成24年4月1日
33 がん治療連携管理料	平成24年4月1日
34 在宅患者訪問看護・指導料	平成24年4月1日
35 同一建物居住者訪問看護・指導料	平成24年4月1日
36 時間内歩行試験	平成24年4月1日
37 ヘッドアップテイルド試験	平成24年4月1日
38 CT撮影（16列以上64列未満のマルチスライスCT）	平成24年4月1日
39 MRI撮影（1.5テスラ以上3テスラ未満）	平成24年4月1日
40 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	平成24年4月1日
41 輸血適正使用加算	平成24年4月1日
42 人工肛門・人口膀胱増設術前処理加算	平成24年4月1日
43 広範囲顎骨支持型装置埋入手術	平成29年4月1日
44 院内トリアージ実施料	平成24年5月1日
45 画像誘導放射線治療（IGRT）	平成24年10月1日

承認事項	承認年月日
46 開放型病院共同指導料	平成24年11月1日
47 画像診断管理加算1	平成25年4月1日
48 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	平成25年6月1日
49 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	平成26年4月1日
50 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	平成26年4月1日
51 糖尿病透析予防指導管理料	平成26年4月1日
52 持続血糖測定器加算	平成26年4月1日
53 1回線量増加加算	平成26年4月1日
54 歯科口腔リハビリテーション料2	平成26年4月1日
55 外来放射線照射診療料	平成27年3月1日
56 麻酔管理料Ⅰ	平成29年1月1日
57 胃瘻造設時嚥下機能評価加算	平成27年4月1日
58 がん患者指導管理料3	平成27年4月1日
59 がん患者指導管理料1	平成29年12月1日
60 がん患者指導管理料2	平成29年12月1日
61 がん患者リハビリテーション料（Ⅰ）	平成29年7月1日
62 がん性疼痛緩和指導管理料	平成29年12月1日
63 神経学的検査	平成27年9月1日
64 組織拡張期による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る）	平成28年2月1日
65 ゲル充填人口乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	平成28年2月1日
66 ニコチン依存症管理料	平成29年7月1日
67 検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	平成28年4月1日
68 遺伝学的検査	平成28年4月1日
69 コンタクトレンズ検査料1	平成28年4月1日
70 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）	平成29年4月1日
71 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	平成27年4月1日

医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術

区分1に分類される手術

頭蓋内腫瘍摘出術等
 黄班下手術等
 鼓膜形成手術等
 肺悪性腫瘍手術等
 経皮的カテーテル心筋焼灼術

区分2に分類される手術

靭帯断裂形成手術等
 水頭症手術等
 鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等
 尿道形成手術等
 角膜移植術
 肝切除術
 子宮附属器悪性腫瘍手術等

区分3に分類される手術

上顎骨形成術等
 上顎骨悪性腫瘍手術等
 バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）
 母指化手術等
 内反足手術等
 食道切除再建術等
 同種死体腎移植術等

その他の区分に分類される手術

人工関節置換術
 乳児外科施設基準対象手術
 ペースメーカー移植術及び
 ペースメーカー交換術（電池交換を含む）
 冠動脈、大動脈バイパス移植術及び
 体外循環を要する手術
 経皮的冠動脈形成術
 経皮的冠動脈血栓切除術及び
 経皮的冠動脈ステント留置術

医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術

胃瘻造設術

II. 医療報告

(1) 診療部門	
・内 科	15
・精 神 科	18
・神 経 内 科	19
・循 環 器 内 科	20
・外 科	21
・整 形 外 科	23
・形 成 外 科	26
・脳 神 経 外 科	29
・泌 尿 器 科	31
・眼 科	33
・耳 鼻 咽 喉 科	34
・放 射 線 科	36
・麻 酔 科	37
・歯 科 口 腔 外 科	38
・健 康 診 断 部	40
・栄 養 管 理 部	41
(2) 中央診療部門	
・中央リハビリテーション部	42
・中央放射線部	44
・中央検査部	45
(3) 診療支援部	
・臨床工学部	47
(4) 薬 剤 部	50
(5) 看 護 部	52

内科

副院長 宮城島 拓 人

2018年度の目標と方針

2013年度から、内科という大きな括りの中に、消化器内科、血液内科、腫瘍内科を院内標榜し、それぞれの専門性を生かした内科を構築している。これをさらに発展させ、それぞれの専門分野のレベルを上げ、医療の均てん化を目指すことで地域医療にさらに貢献することを目標とする。

消化器内科分野では、消化管、胆膵、肝臓の各専門医が配置され指導体制も整い、消化器悪性腫瘍の診断と内視鏡的治療をさらに発展させる。特に肝炎治療の拠点病院として、大学との連携のもと、臨床研究を推進することを目的として月2回の肝臓病外来を新規創設した。また次世代の胆道鏡を駆使して、一歩進んだ胆膵診断治療を追求する。また、腫瘍内科との連携により、消化器癌の最新治療を担保し、臨床治験にも積極的に参入しながら、地域での最先端の治療を目指す。

血液内科は根拠地区唯一の専門施設として、地域の血液疾患の診断治療に主導的役割を果たすとともに、特に移植分野では大学と連携を強固にしていく。

また、内科という大きな括りはそのままとし、三つの専門分野以外の疾患についても、地域医療を担う責任として関わっていく体制を維持することにより、地域貢献はもとより、研修医の懐の深い（守備範囲の広い）人材育成に寄与する。

釧路労災病院内科の伝統的な『広く深く』を合言葉にした診療体制を今年度も維持発展していく。

2018年度の具体的な重点項目

- (1) ESD（内視鏡的粘膜下層分離術）による食道、胃、大腸早期がんの切除数150件、および、若手の育成。
- (2) 上部内視鏡6000件、下部内視鏡3000件。検診での内視鏡件数の増加。
- (3) 肝炎外来の充実とデータのまとめ。
- (4) 外来化学療法センターの一日利用者数25件。
- (5) 移植患者の長期フォローアップ体制の確立。
- (6) 平日日中の初診救急搬送患者の受け入れ再開とその体制の確立。
- (7) 各種学会発表、論文文化の推進。

2017年度診療実績

(件)

入院患者疾患分類集計		平成29年度	平成28年度	平成27年度
総	計	3,854	3,877	3,626
結腸、直腸、肛門及び肛門管の良性新生物		449	525	508
胃の悪性新生物		225	178	274
結腸の悪性新生物		213	199	172
膵の悪性新生物		179	175	147
びまん性非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫		174	193	172
胆石症		171	135	130
肝及び肝内胆管の悪性新生物		149	111	82
気管支及び肺の悪性新生物		121	133	167
食道の悪性新生物		112	112	79
その他及び部位不明の消化器の上皮内癌		92	94	109
その他		1,969	2,022	1,786
侵襲的治療、検査実績		平成29年度	平成28年度	平成27年度
上部消化管内視鏡		4,996	5,028	5,574
下部消化管内視鏡		3,153	3,180	3,317
食道ESD		37	21	11
胃ESD		60	71	83
十二指腸ESD		2	0	1
大腸EMR		539	584	622
大腸ESD		34	33	41
小腸鏡（ダブルバルーン）		6	8	8
内視鏡的止血術		40	64	98
食道静脈結紮術・内視鏡的硬化療法		4	15	41
異物除去		27	19	29
イレウス管		54	45	57
食道拡張術		36	61	59
胃瘻造設術		25	34	28
気管支鏡/経気管支気管生検		40	45	35
内視鏡的乳頭切開術（EST）		99	85	84
内視鏡的バルーン拡張術（EPBD）		23	28	12
内視鏡的胆道ドレナージ（EBS）		128	148	142
内視鏡的経鼻胆管ドレナージ（ENBD）		80		
内視鏡的金属ステント留置術（EMS）		51	70	63
経動脈塞栓術・動注療法（TACE/TAI）		52	41	20
超音波内視鏡		272	220	147
EUS（FNA）		79	89	88

2017年度の評価

副院長を含めた部長・副部長クラスの指導医が8名、三年目、四年目の後期研修医が5名プラス初期研修医というやや中堅不在の印象があったが、上下間で十分

II. 医療報告
(1) 診療部門

な意思疎通と指導がなされ、内科としてはモチベーション高く診療を維持できた。

一日平均入院患者は150人を下回ったが、そのなかでも血液疾患が常時50床を埋める状態で、地域における血液疾患の需要が見取れる。さらに胆膵に関する紹介も昼夜を問わず増加傾向にあり、透視室で夜遅くまで治療に当たるのが、日常茶飯事になっていた。医師の負担のみならず、介助にあたる看護師やME（臨床工学士）の負担は相当なものだったと思われる。少なくとも内視鏡看護師の待機制が必要である。

内視鏡検査は上部で4996件、下部で3153件と目標を上回ったが、現在のパフォーマンスでは妥当な数字だと理解している。内視鏡治療（ESD）はほぼ高橋部長が専従であり負担が相当なものであった。今後は安孫子部長を中心に若手の育成が必須と思われる。

化学療法センターが一新され治療環境が格段に良くなったことで、患者の評判はすこぶる良好である。治療ベッド数が16床に拡大されたが、マンパワーが充足せず、まずは現状維持に徹した。

学問的などころでは、国際学会3題、国内全国学会（総会）13題、地方会12題を発表した。また論文は4本が掲載された。

■ 2017年度スタッフ構成

副院長

宮城島 拓 人

- ・日本エイズ学会 認定医・指導医
- ・日本感染症学会 推薦インфекションコントロールドクター
- ・日本肝臓学会 認定肝臓専門医
- ・日本がん治療認定機構 認定医・暫定指導医
- ・日本血液学会 血液専門医・指導医
- ・日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医
- ・日本消化器病学会 専門医・指導医
- ・日本内科学会 認定総合内科専門医・指導医
- ・日本内科学会 認定内科医
- ・日本臨床腫瘍学会 暫定指導医
- ・日本医師会 認定産業医

消化器内科部長

小 田 寿

- ・日本消化器内視鏡学会 専門医
- ・日本静脈経腸栄養学会 認定医
- ・日本内科学会 認定内科医

高 橋 一 宏

- ・日本消化器内視鏡学会 専門医
- ・日本消化器病学会 認定消化器病専門医
- ・日本内科学会 認定内科医

寺 下 勝 巳

- ・日本肝臓学会 認定肝臓専門医
- ・日本消化器内視鏡学会 専門医
- ・日本消化器病学会 専門医
- ・日本内科学会 認定内科医

佐 野 逸 紀

- ・日本内科学会 認定内科医

腫瘍内科部長

小 林 良 充

- ・日本肝臓学会 認定肝臓専門医
- ・日本がん治療認定機構 認定医
- ・日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医
- ・日本消化器病学会 専門医
- ・日本内科学会 認定内科医
- ・日本内科学会 総合内科専門医
- ・日本臨床腫瘍学会がん薬物療法 専門医

腫瘍内科副部長

原 田 一 顕

- ・日本内科学会 認定内科医
- ・日本臨床腫瘍学会がん薬物療法 専門医

血液内科部長

松 川 敏 大

- ・日本エイズ学会 認定医
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定医
- ・日本がん治療認定機構 がん治療認定医
- ・日本血液学会 血液専門医
- ・日本内科学会 認定内科医

内科医師

平 田 甫

- ・日本内科学会 認定内科医

更 科 耕 一 郎

松 田 宗 一 郎

須 藤 啓 斗

西 田 千 尋

臨床研修医

小 田 総 一 郎

■ 主な対象疾患

消化器癌

（食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆管癌、胆嚢癌、膵癌、その他）

肺癌、血液悪性腫瘍

（リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病、MDS、その他）

他の血液疾患

（貧血、多血症、血小板減少症、凝固異常症、その他）

炎症性疾患

（肝炎、膵炎、胆管炎、胆石症、肺炎、胸膜炎、そ

の他)

気胸、糖尿病、他の代謝性疾患、自己免疫性疾患、腎不全 など。

■ 特色

消化器領域、血液領域、癌化学療法の専門領域の疾患については全国レベルを維持し、均てん化に寄与している。それ以外の領域疾患についても、地域の実情を鑑み積極的に対応している。また、専門性を生かしてセカンドオピニオンの提供も積極的に行っている。

■ 臨床研修教育内容

日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本臨床腫瘍学会認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本肝臓学会関連施設、日本胆道学会指導施設、日本血液学会認定血液研修施設、など多彩な教育施設となっており、それぞれの専門医・指導医を持つ部長が、若手をOn Jobで指導し、専門医を育成する環境が整っている。

また、各種学会へも積極的に参加することで知識技術のブラッシュアップを図っている。

完全主治医制で、研修医でも責任を持って患者、家族と対応することになるが、一人で抱え込まないように、全員参加のカンファレンスを充実している。

週二回の病棟カンファレンスでは、研修医が主治医として受け持ち患者をプレゼンし、指導医から指摘や教育を受ける。これにより主治医として関わらなくても、多岐にわたる多くの疾患を経験することができ、疾患の偏りが無い経験値が格段に向上する。少なくとも新しい内科専攻医研修制度で求められる疾患のほとんどを網羅できる。

2018年度の目標と方針

初診患者さんの総数に対して再来継続となる患者さんの割合が引き続き昨年よりも増加している。これは当科初診患者さんの占める割合が当院入院中の患者さんと比較して院内他科外来および他院からの紹介が多くなってきていることによると思われる。また他都府県からの紹介(必ずしも当院が指定されてはいないが)も増えてきているように思われる。入院中初診患者さんの状況(入院中で一過性に精神症状が悪化した場合にだけ対応する、退院後は地元他院へ通院する、本人が退院後当科通院に同意しない等)が再来に移行しにくい面があるがそれ以外の紹介患者さんは比較的多くが再来に移行している。しかし通院が必要であるにもかかわらず不規則通院であったり自己中断で悪化するまで再来受診しない患者さんも散見され、そのことにより精神症状が悪化し医療保護入院などに至る場合もあり注意すべきところである。これらの状況改善が昨年に引き続き今年度も当科の目標、方針となる。初診申し込みから受診までの日数は昨年と比較して殆ど変化はない。

2018年度の具体的な重点項目

入院患者さんに対して当院退院後も継続的な対応ができるようにすることが重点目標となるが居住地の関係から近隣市町村へも適宜紹介して患者さんの通院距離負担を軽減する必要がある。これにより不規則通院を可能な限り是正することも目標とする。当院には精神科病棟がないため精神症状から明らかに入院治療が必要な場合には精神科病棟のある病院に対応をお願いすることになるが釧路では対応して戴ける病院を探すことに苦慮することが多く何か対策が必要であると思われる。時に釧路周辺地域の精神科にも入院をお願いすることもあるがやはり地元優先とのことで受け入れて戴くことが難しい。

2017年度の評価

精神科外来再開後4年目であったが若干の外来患者数の増加に止まっている。ただし初診患者さんの受診依頼から初診までの期間は短いと思われる。他県からの初診患者さんも少なくないと思われる。

2017年度スタッフ構成

精神科部長

村田佳應

- 日本精神神経学会 精神科専門医・指導医
- 精神保健指定医
- 日本医師会 認定産業医

主な対象疾患

当院には入院病棟がないこと、精神保健指定医が1名であることから措置入院(緊急措置入院を含む)、医療保護入院、応急入院、任意入院のいずれもができない。中心となる疾患は精神病圏ではなく神経症圏である。最初から入院が必要と判断される患者さんは入院病棟を保有する病院にお願いすることになる。最近では神経発達障害と思われる患者さんが増加しており年齢によっては小児科にお願いすることもある。認知症患者さんは初診患者数はあまり変化がないと思われる。

特色

当科では新患、再来とも完全予約制となっている。外来での対応が可能であれば比較的待ち日数は短く初診対応が可能であるが以前よりは待ち時間は延びてきている。また患者さんから曜日、時間指定の希望があると更に待ち時間は延びることになる。当科では心理士が常駐しているので必要と判断されれば精神科カウンセリング、各種心理検査が可能である。最近では成人の発達障害に関する心理検査が多くなり、その他の心理検査も増加してきている。

神経内科

部長 津坂和文

2018年度の目標と方針

当院の神経内科は帯広以東の唯一の、神経内科専門医による科である。広範囲の地域のニーズに応えるべく、ほぼすべての神経疾患について、全国的に見ても遜色のないスタンダードな医療を目指している。

競合施設が近隣にないため、数値目標には意味がないと思っている。依頼のある患者を可能な限り受け入れて、地域医療への貢献をしていきたい。

当科は神経学会准教育施設であり、研修医への教育指導にも力を入れている。

2018年度の具体的な重点項目

- 1 地域からの受け入れをいとわない。たとえ休日でも、できうる限り患者の受け入れをして、地域医療機関に貢献していく。
- 2 学会発表を通して、研修医、若手医師の教育、指導をしていく。
- 3 保健師と連携し、難病患者の在宅医療、地域での療養を支援していく。(難病患者在宅ケア連絡会議が年4回。難病対策地域協議会にも参加。)
- 4 訪問診療の継続

2017年年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計	平成29年度	平成28年度	平成27年度
総計	221	184	176
脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	36	14	14
パーキンソン<Parkinson>病	23	22	28
炎症性多発(性)ニューロパチ<シ>	15	8	7
自律神経系の障害	14	11	14
多発性硬化症	14	18	22
ウイルス(性)髄膜炎	10	2	1
てんかん	10	4	1
脳梗塞	10	3	4
神経系のその他の変性疾患,他に分類されないもの	9	10	5
脳炎, 髄膜炎及び脳脊髄炎	8	7	2
その他	72	85	78

2017年度の評価

地域医療機関のニーズに応えることは、十分に達成できたと思っている。直接の依頼は基本的に断っていない。

入院患者はここ数年増加している。

2017年度スタッフ構成

神経内科部長

津坂和文

- 日本内科学会 認定医
- 日本神経学会 専門医

神経内科医師

江口克紀

嘱託医

伊藤芳子(月2回 2日)
 新野正明(隔月1回 1日)
 中村雅一(隔月1回 1日)
 上床尚(月1回 2日)

主な対象疾患

神経疾患(脳・脊髄疾患)
 神経筋疾患(末梢神経疾患、筋疾患) など

特色

神経疾患・神経筋疾患全般についての、診断、治療、療養の相談を行い、これらの疾患の「医療空白地帯」とならないよう努力している。

臨床研修医教育内容

日本神経学会 准教育施設である。帯広以東の道東地区の神経疾患を一手に引き受けている当科は、症例も豊富であり、片寄りなく、広く症例を経験することが出来る。それらの症例の診断から、治療、さらには終末期まで当科で経験することが出来る。新外来患者のプレゼンテーション、入院患者の方針検討は毎日行っている。研修医にはトレーニングの機会が十分にあると思われる。神経学会地方会には毎回演題を出しており、研修医にもその機会を提供している。

2018年度の目標と方針

当科では現在、常勤1名、非常勤1名で（週2回勤務）、外来中心の診療活動を行っています。今年度も基本的には現行の態勢を継続する方針で、外来では、主に慢性心不全、虚血性心疾患の慢性期、高血圧、不整脈の症例に加え、末梢血管疾患の状態評価、投薬管理などの経過follow、他科（外科系）の術前症例の心機能評価などを行っています。患者数はここ1～2年はほぼ同様ですが、予約枠は慢性的にオーバーブッキングとなることが多く、待ち時間が長くなり、患者様にはご迷惑をおかけすることが多々ある状況です。

入院診療としては、当科の自前の症例に関しては、心臓ペースメーカー植え込み症例の診療を行っています。そのほか、他科入院患者の循環器系合併疾患の状態評価、経過観察・加療を、関連各科にご協力いただき、行っています。外来患者の心不全増悪例については、内科のご協力を頂き、入院での管理を行っていますが、状態に応じ、他施設でのご加療を依頼する場合があります。

新規症例についても、スクリーニングなど評価を積極的に行い、必要に応じて高度医療可能な施設への連携を保つよう努めています。

2017年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計 (人)

	平成29年度	平成28年度	平成27年度
総 計	0	1	4
その他の不整脈	0	1	3
心房細動及び粗動	0	0	1
リンパ管及びリンパ節のその他の非感染性障害	0	0	0
房室ブロック及び左脚ブロック	0	0	0

(2) 手術実績 (件)

<麻酔別>		平成29年度	平成28年度	平成27年度
総 計		0	1	4
局 所		0	1	4
<疾患・術式別>		平成29年度	平成28年度	平成27年度
総 計		0	1	4
その他の不整脈		0	1	3
心房細動及び粗動		0	0	1
房室ブロック及び左脚ブロック		0	0	0

2017年度スタッフ構成

循環器科部長

鮫 島 睦 生

- 日本胸部外科学会 認定
- 日本外科学会 認定医・専門医

主な対象疾患・特色

慢性心不全 高血圧 虚血性心疾患のスクリーニング、慢性期follow

不整脈 大動脈瘤・末梢動脈疾患のスクリーニング、経過follow

外科系手術症例の術前心機能・耐術能評価

静脈系疾患の状態評価、follow

2018年度の目標と方針

消化器外科、乳腺外科、緩和ケアを三本柱として地域医療へ貢献します。昨年度途中から欠員が補充され、定期手術はのみならず臨時手術にも対応できる体制を確立、より充実した医療を展開できるものと期待しております。がん治療ならびに救急医療を通じて地域の皆様に安心して生活できる医療環境を提供することを目標とします。

2018年度の具体的重点項目

・腹腔鏡手術の適応拡大と合併症対策

消化器外科の分野では、患者さんにやさしい手術（低侵襲手術）としての腹腔鏡手術をさらに推進し、合併症の減少と合わせて早期社会復帰に努めます。

・乳がん治療の多様化に対応

癌の進行度と生物学的特徴に応じた最適な治療法を提案します。手術では、温存療法から形成外科との協働による一次・二次乳房再建まで、多様なニーズに応えられる体制を確保します。

・緩和ケア外来の強化

院外からの紹介や院内他科からの要請に対応すべく、がん看護専門看護師とのチーム連携による緩和ケア外来を強化します。地域在宅医療システムとの連携を深めて地域のニーズに応えます。

・新たな専門医制度に対応する教育体制

多くの手術を経験できることはもちろん、大学や関連病院から技術認定医・指導医の応援を得て、高度な技術を持つ専門医を育成します。

2017年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計

(人)

	平成29年度	平成28年度	平成27年度
総 計	816	876	910
乳房の悪性新生物	194	232	217
そけい<鼠径>ヘルニア	92	84	90
結腸の悪性新生物	75	77	83
胆 石 症	74	80	83
急性虫垂炎	44	38	37
その他の外因の作用	32	26	26
直腸の悪性新生物	29	40	51
胃の悪性新生物	28	31	31
直腸S状結腸移行部の悪性新生物	24	9	14
消化器系の処置後障害、他に分類されないもの	23	24	15
そ の 他	201	235	263

(2) 手術実績

(件)

<麻 酔 別>	平成29年度	平成28年度	平成27年度
総 計	551	608	580
全 麻	535	561	537
脊 椎	1	2	1
局 麻	15	43	42

<疾患・術式別>	平成29年度	平成28年度	平成27年度
総 計	551	608	580
そけい<鼠径>ヘルニア	91	85	87
胆 石 症	73	93	77
乳房の悪性新生物	80	79	58
結腸の悪性新生物	67	74	70
急性虫垂炎	40	32	38
胃の悪性新生物	27	34	45
直腸の悪性新生物(Rs含む)	24	45	36
大腿<股>ヘルニア	7	4	6
腹 壁 ヘル ニ ア	7	1	0
そ の 他	135	161	163

※ ICD-9CM分類に基づき入院中に手術を実施した患者数を計上。(実患者数)

例) 入院中に手術を2回実施した場合でも1件で算出。このため、上記の手術件数とは異なる。(上記件数は手技ごとに計上)

2017年度の評価

外科医の減少・手術枠の削減により、目標とする手術件数を達成することはできませんでした。しかしながら、現代の外科医の仕事は手術だけではありません。がん検診、労働災害に対する外来・入院診療、禁煙外来、緩和ケアチームを通じての活動など、幅広い業務に力を発揮しました。

2018年度スタッフ構成

副院長

小笠原 和 宏

- ・日本外科学会 外科専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会 消化器外科専門医・指導医
- ・日本消化器病学会 消化器病専門医・指導医
- ・日本乳癌学会 乳腺専門医
- ・日本がん治療認定医機構 認定医・暫定教育医
- ・日本医師会 認定産業医
- ・日本職業・災害医学会 労働災害補償指導医

外科部長

小 林 清 二

- ・日本外科学会 専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会 認定医
- ・日本内視鏡外科学会 技術認定医

河 合 朋 昭

- ・日本外科学会 認定医・指導医
- ・日本消化器外科学会 専門医
- ・日本消化器病学会 消化器がん外科治療認定医
- ・日本乳癌学会 認定医

江 本 慎

- ・日本外科学会 認定医・指導医
- ・日本消化器外科学会 認定医・専門医
- ・日本内視鏡外科学会 技術認定医

外科医師

石 川 倫 啓

坂 本 沙 織

佐 野 修 平

臨床研修医

徳 廣 泰 貴

長 井 惇

主な対象疾患および特色

- ・消化器がん（胃癌・大腸癌・肝胆膵癌・食道癌など）
- ・乳がん
- ・胆石症やなど消化器良性疾患
- ・急性虫垂炎など手術を必要とする感染性疾患
- ・鼠径ヘルニア、大腿ヘルニアなど
- ・手術後の合併症や後遺障害など

臨床研修医教育内容

臨床研修指定病院であるとともに、日本外科学会修練指定施設、日本消化器外科学会認定施設、日本乳癌学会認定施設であり、豊富な手術経験を積んで早いタイミングで外科専門医を取得するための基礎を学ぶことができます。多数の消化器外科専門医のほか、内視鏡外科技術認定医や乳腺専門医を育成した実績があります。外科医の経験を基盤として緩和ケア専門医に転身した医師もいます。幅広い臨床経験を約束できる環境です。

整形外科

部長 放生 憲博

2018年度の目標及び方針

整形外科は運動器疾患を診断・治療する分野で、主にその疾病は変性疾患と外傷に大別されます。今年度も6名（7月までは5名）体制で診療活動を行っており、脊椎専門医（放生）と上肢専門医（松橋）、下肢専門医（加藤）が常勤し、それぞれの分野で手術をはじめとした専門的な治療に当たると同時に、若手医師の育成を行っております。脊椎専門医は日本脊椎脊髄病学会指導医であり、脊椎疾患の治療はもちろんのこと、脊椎外科医の育成を行っております。その他、運動器疾患のあらゆる分野において専門性の高い高度な医療を提供しております。

釧路市内のみならず、道東全域および道北・十勝地区からも患者さんを紹介して頂き、地域の中核病院としての役割が強求められております。その期待に応えるべく、高い医療水準を保ちながら、患者一人一人に合わせた柔軟な治療を心掛けています。

2018年度の具体的な重点項目

• 脊椎外科専門治療の推進

当科脊椎専門医は釧路地区で唯一人の日本脊椎脊髄病学会指導医です（学会HP）。脊椎外科治療には豊富な知識と高度な技術が要求されることが多く、その専門性を生かした治療を推進していくと同時に、脊椎外科医育成にも重点的に注力していくことを目指しています。

• 肩・肘関節疾患の専門治療

昨年度から、上肢、特に肩・肘関節の専門医が加わり、専門性の高い治療を行っております。疾患患者数が多い分野であるにも関わらず、釧路地区には本分野の専門医が不在であったため、当科の地域医療への貢献が高まると考えています。

• 膝関節疾患治療の重点化

変形性股関節症に対し、前方進入人工股関節置換術を重点的に行っております。前方進入はこれまでの後側方進入に比べて、術後人工関節脱臼を少なくすることができる、術後の脚長を厳密にコントロールできるなど、多くの利点を有します。高度な技術を要しますが、当科では本術式に積極的に取り組んでいます。

• スポーツ医学

整形外科の特徴的な分野であるスポーツ医学を通じて、競技レベルからレクリエーションレベルまで、患者に合わせた診断・治療を行います。

• 運動器外傷への積極的な取り組み

地域の中核病院における整形外科として、救急医療に欠くことのできない運動器外傷に積極的に取り組みます。

• 骨粗鬆症の社会啓蒙活動と検査・治療の推進

骨粗鬆症は50歳以上の女性の3人に1人が患っていると言われていますが、実際に治療を受けているのはその1/6未満とされています。本疾患の存在と治療の重要性を社会に啓蒙すると同時に、検査・治療を推進していきます。

• 整形外科専門医の育成

当院は日本整形外科学会研修施設であり、整形外科専門医教育を積極的に行ってきました。これからも、臨床および学術的な指導を行うことにより整形外科医学教育にも注力していきます。

• 地域の整形外科医への指導

釧路市整形外科医会（当科部長が会長を兼任）の取り組みとして、症例検討会・講演会などを積極的に開催し、地域の整形外科診療レベルの向上を図ります。

2017年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計 (人)

	平成29年度	平成28年度	平成27年度
総計	1,042	833	1,069
大腿骨骨折	110	98	71
膝関節症 [膝の関節症]	89	64	86
その他の脊椎障害	80	52	61
下腿の骨折, 足首を含む	80	57	51
腰椎及び骨盤の骨折	69	44	35
膝の関節及び靭帯の脱臼, 捻挫及びストレイン	65	74	116
前腕の骨折	50	53	49
その他の椎間板障害	46	52	32
肩及び上腕の骨折	38	37	37
肩及び上腕の筋及び腱の損傷	35	24	63
その他	380	278	468

(2) 手術実績 (件)

<麻酔別>		平成29年度	平成28年度	平成27年度
総	計	680	592	854
全	身	481	428	554
脊	椎	81	90	164
伝	麻	87	58	126
局	所	26	16	10
そ	の	5	0	0

<疾患・術式別>		平成29年度	平成28年度	平成27年度
総	計	680	592	854
膝関節症 [膝の関節症]		87	62	86
大腿骨骨折		80	82	64
膝の関節及び靭帯の脱臼、捻挫及びストレイン		64	72	116
下腿の骨折、足首を含む		57	50	50
前腕の骨折		49	52	46
肩及び上腕の筋及び腱の損傷		34	21	63
肩及び上腕の骨折		32	31	31
その他の脊椎障害		31	31	24
手首及び手の骨折		26	10	20
滑膜炎及び腱鞘炎		18	2	2
その他		202	179	417

2017年度評価

当科は整形外科3分野（脊柱・上肢・下肢）の各専門医が揃っており、全ての領域で高度な治療を行うことが可能です。今後も地域の中核病院としてさらに重要な役割を果たしていくことが求められており、地域の期待に応えていきたいと考えています。

2017年度スタッフ構成

整形外科部長

放生 憲 博

- ・日本整形外科学会 運動器リハビリテーション医
- ・日本整形外科学会 専門医
- ・日本整形外科学会 リウマチ医
- ・日本整形外科学会 脊椎脊髄医
- ・日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科指導医

松橋 智 弥

- ・日本整形外科学会 専門医
- ・日本体育協会公認 スポーツドクター

藤田 勝 久

藪内 康 史

- ・日本整形外科学会 専門医

校条 祐 輔

- ・日本整形外科学会 専門医
- ・日本整形外科学会 認定脊椎脊髄病医

整形外科医師

竹内 博 紀

主な対象疾患

<脊椎疾患>

- ・腰部椎間板症
- ・腰椎椎間板ヘルニア
- ・脊椎分離症・すべり症
- ・腰部脊柱管狭窄症
- ・腰椎変性すべり症
- ・腰椎変性側弯症
- ・頸椎椎間板ヘルニア
- ・頸椎症・頸髄症
- ・頸椎後縦靭帯骨化症
- ・骨粗鬆症・脊椎圧迫骨折
- ・脊椎腫瘍
- ・脊椎脊髄損傷
- ・胸髄症（ヘルニア、脊椎症、靭帯骨化）
- ・化膿性・結核性脊椎炎
- ・脊柱側弯症

<上肢疾患>

- ・肩腱板損傷
- ・変形性肩関節症
- ・肩関節周囲炎
- ・リウマチ肩
- ・変形性肘関節症
- ・離断性骨軟骨炎

<下肢疾患>

- ・変形性股関節症
- ・変形性膝関節症
- ・膝前十字靭帯損傷
- ・膝半月板損傷

特 色

整形外科の主要疾患はすべて対象としています。脊椎疾患に対して高度な専門性の高い治療を行っております。昨年度から上肢専門医が加わり、上肢、特に肩・肘関節の高度な治療を行っております。下肢疾患に対しては、今年度から股関節専門医が就任し、罹患患者の多い膝関節疾患はもちろんのこと、股関節疾患にも積極的に取り組んでいます。その他、北海道大学整形外科と協力しながら最先端の治療を提供してまいります。

臨床研修医教育内容

当院は日本整形外科学会研修施設であり、整形外科専門医教育を積極的に行っています。整形外科カンフ

II. 医療報告

(1) 診療部門

ァレンスを毎日行い、整形外科学の基礎的な知識から検査・診断へのプロセス、実際の保存・手術治療まで、個別の症例ごとに全員で検討しています。また、学会や研究会への発表・論文作成指導も行っており、様々な方面からの教育を目指しています。

■ 2018年度の目標及び方針

当科は釧路医療圏、根室医療圏における唯一の形成外科学会認定施設であり、多くの形成外科疾患に対応しています。北海道大学病院形成外科、蘇春堂形成外科との連携により、最先端の医療を提供できるように体制を整え、また必要に応じて大学病院をはじめ適切な医療機関への紹介を行っています。

褥瘡や外傷など地域の他施設からの患者も多く受け入れています。

初期臨床研修医や形成外科専攻医への教育指導についても随時行っており、形成外科専門医を目指す人材の育成を図っております。

■ 2018年度の具体的な重点項目

• 免疫チェックポイント阻害剤、新規分子標的薬による悪性黒色腫の治療

腫瘍内科医とも協力し、抗PD-1抗体を始めとする免疫チェックポイント阻害剤による悪性黒色腫の治療を開始して3年になります。頻回の通院が必要な外来化学療法についても外来化学療法センターを中心に対応しています。悪性黒色腫の治療に関しては、放射性同位元素を用いたセンチネルリンパ節生検など当院で実施できない一部を除き、当院で一貫して診断、治療を行っています。

新たな薬剤が順次発売されており、これらについても必要に応じて使用した治療ができるよう準備を行っております。

• 人工物を用いた乳房再建（一次再建および二次再建）

2015年度より外科との協力で北海道内で7番目の乳房再建用エキスパンダー実施施設（一次・二次両方）として認定を受け、治療を行っております。本術式に豊富な経験を持つ蘇春堂形成外科との協力により、高水準な再建技術を提供できるよう努力しております。

• 地域の糖尿病性足病変治療の取り組み

例年11月に糖尿病性足病変について講演を行っております。現在の釧路・根室医療圏では、糖尿病の専門的治療と下肢の血行再建、形成外科の入院治療を全て同時に行うことができる施設が存在しないため、多施設の協力が不可欠です。当科では皮膚灌流圧（SPP）測定を行うことで虚血肢の評価が可能であり、足部での小切断や壊死組織のデブリードマン、

植皮などの手術治療や高圧酸素療法などの保存的治療を行っております。

• 術後電子線照射、あるいはステロイド局注を併用したケロイド治療

2014年度より外傷や手術後の肥厚性瘢痕やケロイドの治療について、従来の切除＋術後電子線照射による治療の他に、術後ステロイド局注による治療を行っています。この2つの治療法は術後再発率に差がないと報告されており、通院頻度等について患者の希望に沿った治療を選択しています。

この治療については主に北海道大学形成外科で行われた治療に関し、部長（池田）が2016年1月の瘢痕・ケロイド治療ジャーナルに論文として報告もしています。

• 手術用顕微鏡を用いた眼瞼手術

当科では年間100例以上の眼瞼手術（眼瞼下垂、眼瞼内反等）を行っており、高齢化に伴い患者数は増加傾向です。現在は手術用拡大鏡（ルーペ）を用いた術式を中心に行っておりますが、必要に応じてさらに倍率が高く、明視野で手術を行うことができる手術用顕微鏡による術式も取り入れています。

• 医療スタッフへの教育活動を活発化する

当院併設の看護学校において、学生への授業を年に4回担当しております。また新しい治療を導入する際には院内勉強会を開催し、関係部署のスタッフの教育に努めております。

病棟、手術室、外来のスタッフを対象とした勉強会を定期的に開催し、知識の共有と日々の診療の質の向上を目指しています。

• 形成外科専攻医の学術的活動および研修の奨励

専攻医は形成外科専門医取得のため年1回の学術講習会出席を行うことを目標とし、また努力目標として学会発表、あるいは論文投稿を年1回行う方針としています。専門医はその際に必要な指導を行い、また新制度に対応するため指導医の取得に必要な講習会や分野専門医の申請を行う予定です。これらと並行して当院の施設認定を維持することを目標とします。

■ 2017年度の評価

診療スタッフ2名による診療を行い、手術件数は過去最高の件数を記録しました。入院外来患者数は概ね前年並みでした。Qスイッチルビークーラーレーザー機器を更新したことで、従来よりもスムーズなレーザー治療が可能となりました。免疫チェックポイント阻害剤による悪性黒色腫の治療、人工物を用いた乳房再建を継続中です。

■ 2017年度のスタッフ構成

形成外科部長

池田正起

- ・日本形成外科学会 専門医
- ・日本創傷外科学会 専門医
- ・日本形成外科学会 皮膚腫瘍外科分野指導医
- ・日本がん治療認定医機構 認定医

形成外科副部長

杉井政澄

- ・日本形成外科学会 専門医

■ 主な対象疾患

※形成外科学会の項目に準じて記載

[外傷]

熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷

顔面軟部組織損傷・顔面骨折：眼窩骨折、頬骨骨折、鼻骨骨折など

頭部・頸部・体幹・上肢・下肢の外傷

外傷後の組織欠損

[先天異常]

唇裂・口蓋裂（北海道大学病院や釧路赤十字病院と連携）

頭蓋・顎・顔面・頸部の先天異常

四肢・体幹（その他）の先天異常：多指（趾）症など

[腫瘍]

良性腫瘍：粉瘤、色素性母斑（ほくろ）、脂肪腫など

悪性腫瘍：悪性黒色腫、有棘細胞癌、基底細胞癌など
腫瘍の続発症

腫瘍切除後の再建（一次・二次再建）

[瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド]

外傷後や手術後の瘢痕・肥厚性瘢痕・ケロイド、ピアスケロイド等

[難治性潰瘍]

褥瘡・その他の潰瘍（糖尿病性潰瘍、虚血性潰瘍など）

[炎症・変性疾患]

眼瞼の変性疾患：眼瞼下垂、眼瞼内反など

爪の変性疾患：巻き爪、陥入爪など（手術、超弾性ワイヤー）

[美容]

美容外科に類する保険外診療は現在行っておりません

[その他]

腋臭症（手術、保存的治療）

顔面神経麻痺（リハビリ指導、再建術など）

[レーザー治療]

色素レーザー・Qスイッチ付キルビークーラー

単純性血管腫

毛細血管拡張症

異所性蒙古斑

太田母斑

外傷性色素沈着症

扁平母斑

しみ（保険外）

刺青除去（保険外）

■ 特色

ほぼ全ての形成外科疾患を対象としています。

釧路・根室医療圏において形成外科認定施設は当院のみとなっており、外傷、先天異常、炎症・変性疾患（特に眼瞼下垂・内反）のニーズが総じて高いことが特色です。悪性腫瘍についても地域での治療を希望する患者が多く、当科でも可能な限り多くの治療法を提供できるよう努力しております。加えて必要に応じて北海道大学病院をはじめ他施設とも連携をとって診療にあたっています。

形成外科はチーム医療に携わることが多いのですが、当院においても再建を中心に多くの科と合同手術を行っております。また内科から悪性リンパ腫のリンパ節生検などの依頼にも対応しています。

2015年度より開始した免疫チェックポイント阻害剤による悪性黒色腫の治療と人工物を用いた乳房再建に関して、現在も継続して実施しております。

また2017年5月に故障していたQスイッチ付キルビークーラーレーザー機器が更新され、再びルビークーラーレーザー機器が更新され、再びルビークーラーによる治療が可能となりました。

臨床研修医教育内容

当科での研修を選択した初期臨床研修医を対象とし、疾患の知識や診察法についての教育から、具体的な手術手技に至るまで個別に指導を行っています。研修期間に応じて習得できる内容は変わりますが、形成外科疾患に対する基本的な考え方や対処法の理解、また手術手技の基本と技術のトレーニングについて学ぶことを目標としています。

診療実績

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
形成外科新患者数	1,295	1,326	1,293
形成外科入院患者数 (延べ人数ではない)	389	419	372
全手術件数	1,099	997	1,279
入院手術	388	411	531
外来手術	711	586	748
全身麻酔	245	205	219
局所麻酔、その他の麻酔	854	792	1,060
外傷	242	215	223
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷等	10	0	12
顔面軟部組織損傷	104	79	106
顔面骨折	36	40	18
頭部・頸部・体幹の外傷	22	18	16
上肢の外傷	52	56	55
下肢の外傷	18	22	16
先天異常	25	17	20
唇裂・口蓋裂	4	3	1
頭蓋・顎・顔面の先天異常	14	9	12
頸部の先天異常	1	0	1
四肢の先天異常	5	1	2
体幹の先天異常	1	4	4
腫瘍	553	495	606
良性腫瘍(レーザー除く)	444	407	496
悪性腫瘍	105	78	83
腫瘍切除後の組織欠損 (一次再建)	4	9	10
腫瘍切除後の組織欠損 (二次再建)	0	1	17
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	22	32	24
難治性潰瘍	69	43	90
褥瘡	13	8	18
その他の潰瘍	56	35	72
炎症・変性疾患	170	83	86

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
美容外科	0	0	0
その他	0	101	188
レーザー治療	18	11	42
良性腫瘍でのレーザー治療例	17	11	42
美容処置でのレーザー治療例	1	0	0

※2016年度より、眼瞼下垂症など一部が「炎症・変性疾患」から「その他」と変更になりました。

※2017年度より、National Clinical Database (NCD) による手術手技数の集計に変更になりました。

2015年度から2017年度まで、3年間の診療実績については表に示す通りです。

形成外科常勤医2名の施設として認定施設基準を大きく上回る手術症例数を有しており、これを維持しております。手術の内訳として全体の約半数が腫瘍、1/4が外傷であり、その他の手術も眼瞼下垂症などを筆頭に多岐に渡ります。

外来新患者数は概ね安定しており、新しく開始した治療も含め地域の医院、病院との協力の輪を広げ、より多くの患者に適切な形成外科診療を提供できるよう尽力する方針です。

脳神経外科

部長 磯部 正 則

2018年度の目標及び方針・具体的な重点項目

当科の特徴は、以下の二つのセンター名で示している通り、

- ① 脳・脊髄センター：磯部、伊東、進藤
- ② 末梢神経外科センター：井須、松本、三木

脳神経外科だが、脳はもちろん、脳だけでなく脊髄、末梢神経の診療も日々行っている点もあります。

つまり頭から足まで、神経関連に取り組んでおります。

診療内容

脳部門は全領域、ただし小児は少ない

(産婦人科・小児科がない)

救急医療(脳外科関連)

脊髄外科のほか末梢神経外科(腰痛、下肢痛)が特徴

目標は、この診療を皆様に提供することであり、まず労災病院(脳神経外科)に目を向けてもらうこと、かかりたいと思われることになります。

日常診療での対応説明解説を評価してもらうことが一番ですが、他には受診しやすい環境作りもあります。手術日でも空いた時間でできるだけ診療対応しておりますし、診療受付時間外でも、心配な方、紹介の方は対応します。

もちろん救急(車)には、24時間対応しております。

脳の病気でない方(たとえば体調不良や発熱、食事が摂れなくて足元がふらつく方、意識朦朧の方など)も、できるだけ対応しております。ただ、他科・他院に誘導させて頂くこともあります。

市民講演会などでの脳神経外科啓発活動は、続けているが、広めたい。

2017年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計 (人)

	平成29年度	平成28年度	平成27年度
総計	892	892	827
脳梗塞	174	180	174
末梢神経系のその他の障害	134	125	147
脳内出血	68	63	62
その他の脊椎障害	57	57	44
頭蓋内損傷	40	39	35
脊椎症	36	21	18
前庭機能障害	26	30	22
その他の脳血管疾患	25	23	30

	平成29年度	平成28年度	平成27年度
その他の部位の続発性悪性新生物	25	19	14
てんかん	25	36	27
その他	282	299	254

(2) 手術実績 (件)

<麻酔別>	平成29年度	平成28年度	平成27年度
総計	310	370	373
全身	208	237	249
局麻	102	133	124

<疾患・術式別>	平成29年度	平成28年度	平成27年度
総計	310	370	373
その他の脊椎障害	38	45	47
末梢神経系のその他の障害	30	71	72
脊椎症	25	28	15
その他の部位の続発性悪性新生物	22	17	9
下肢の単ニューロパチ<シ>	20	8	5
脳内出血	20	21	33
脳梗塞	17	18	6
くも膜下出血	17	35	28
その他の脳血管疾患	17	16	16
頭蓋内損傷	14	19	12
その他	90	92	130

2017年度の評価

手術件数

343件(2016:321、2015:332、2014:430)

主な手術

脳腫瘍摘出術:43件 破裂動脈瘤手術:16件

未破裂動脈瘤手術:13件 開頭血腫除去術:14件

急性・慢性硬膜下血腫:23件 脳室シャント:17件

MVD:7件 CEA・バイパス:7件 血管内手術20件

変形性脊椎症:59件 椎間板ヘルニア:20件

末梢神経外科手術:65件

3年前までより減少で推移。適応の変化、医師の質の問題があったが2018年度は改善された。数の問題は残っているが。

入院病床

50床(6西病棟)+a(aは多い、他病棟となります)

■ 2017年度スタッフ構成

脳神経外科部長

磯 部 正 則

- 日本脳神経外科学会 指導医

井 須 豊 彦

- 日本脊髄外科学会 指導医
- 日本脳神経外科学会 専門医

脳神経外科副部長

松 本 順太郎

- 日本脳卒中学会 専門医
- 日本脳神経外科学会 専門医

脳神経外科医師

三 木 浩 一

- 日本脳神経外科学会 専門医
- 日本脳卒中学会 専門医
- 日本神経内視鏡学会 認定医

小 林 聡

- 日本脳神経外科学会 専門医

館 澤 諒 大

藤 原 史 明

進 藤 崇 史

泌尿器科

部長 佐々木 芳 浩

2018年度の目標及び方針

泌尿器科は、泌尿器科疾患全般に対応することはもちろんであるが、がん診療連携拠点病院として、腎・腎盂尿管・膀胱・前立腺・精巣癌に対する診断、治療、フォローアップに重点を置いている。腎癌、腎盂尿管癌に対しては腹腔鏡手術を標準術式として早期腎癌や腎機能低下例に対しては部分切除による腎温存術を行っている。膀胱癌に対しては経尿道的手術、膀胱全摘術と尿路変更（回腸導管、代用膀胱）、前立腺癌に対してはQOLも考慮した開腹前立腺全摘除術を行っているが、近年急増しているロボット支援手術を希望した場合は関連施設を紹介している。進行癌や再発・転移癌に対しては、分子標的治療薬や化学療法、放射線治療も患者の状態を十分考慮した上で積極的に施行している。免疫チェックポイント阻害薬の使用も可能となった。各種癌に対する治療成績に関しても標準的治療が行えていることを検証・発表することを重要視している。

腎不全に関しては、保存期の内シャント造設と血液透析導入以後の維持透析管理をメインに行っており、昨年4月に透析機器を一新し血液浄化センターと名称を変更し治療にあたっている。さらに本年5月からはオンラインHDF（iHDF）も開始し、患者さんにとって負担の少ない透析を目指している。

尿路結石に関しては、レーザーを用いた内視鏡的碎石術を施行している。

2018年度の具体的な重点項目

- ・診療全般に関しては、紹介患者の増加に伴い、外来・入院・手術件数が増加しており、外来の34診体制を確立して待ち時間の短縮、予約外患者の可及的受け入れ等を図っていく。
- ・釧根地区全体の泌尿器科手術待ちの期間短縮を図るため、市立釧路総合病院泌尿器科と連携して、患者とDr.の交流を進めていく。
- ・癌診療に関しては、特に化学療法患者が増加しており、外来化学療法センターを利用しての前立腺癌や尿路上皮癌での通院化学療法を積極的に進めていくとともに免疫チェックポイント阻害薬の使用にも対応していく。
- ・血液浄化部門に関しては、血液浄化センターの運営を安全に進めていくとともに、オンラインHDFの導入や栄養指導の充実、服薬指導の工夫等によって透析患者のQOL向上にも努めていく。

- ・排尿障害に対してはウロダイナミクス測定機器の更新により前立腺肥大症や神経因性膀胱患者の検査体制を強化していく。

2017年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計

(人)

	平成29年度	平成28年度	平成27年度
総 計	545	526	481
前立腺の悪性新生物	148	119	94
膀胱の悪性新生物	88	70	76
その他及び部位不明の上皮内癌	52	51	47
前立腺肥大(症)	42	38	52
腎盂を除く腎の悪性新生物	32	32	21
前立腺の炎症性疾患	19	0	9
閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患	19	27	17
男性生殖器の良性新生物	17	3	2
下部尿路結石	13	15	9
腎結石及び尿管結石	9	2	3
そ の 他	106	169	151

(2) 手術実績

(件)

<麻酔別>	平成29年度	平成28年度	平成27年度
総 計	376	341	336
全 身	101	81	68
脊 椎	262	238	248
局 麻	13	21	20
無 麻 酔	0	1	0

<疾患・術式別>	平成29年度	平成28年度	平成27年度
総 計	376	341	336
前立腺の悪性新生物	81	70	65
その他及び部位不明の上皮内癌	52	51	46
膀胱の悪性新生物	50	43	44
前立腺肥大(症)	40	37	52
腎盂を除く腎の悪性新生物	18	17	13
男性生殖器の良性新生物	17	3	2
閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患	16	23	15
前立腺の炎症性疾患	14	12	9
下部尿路結石	13	15	9
精巣<睾丸>水腫及び精液瘤	9	4	8
そ の 他	66	66	73

2017年度の評価

診療スタッフ5名にて診療を行い入院・外来・手術件数とも順調に増加したが、常勤医が3名となったため時間外労働が大幅に減少し労働環境が改善した。

2018年度スタッフ構成

院長

野々村 克也

- ・北大腎泌尿器外科 名誉教授
- ・日本泌尿器科学会 専門医・指導医

泌尿器科部長

佐々木 芳 浩

- ・日本泌尿器科学会 専門医・指導医
- ・日本泌尿器科内視鏡学会 腹腔鏡技術 認定医

泌尿器科医師

古御堂 純

平 田 由里絵

渡 邊 絢 子

- ・日本泌尿器科学会 専門医・指導医

主な対象疾患

- ・腎細胞癌
- ・腎盂尿管癌
- ・皮膚科膀胱癌
- ・前立腺癌
- ・精巣癌
- ・副腎腫瘍
- ・後腹膜腫瘍
- ・前立腺肥大症
- ・神経因性膀胱
- ・過活動膀胱
- ・腎不全（腎前性・腎性・腎後性）
- ・尿路感染症
- ・先天性尿路・性器疾患

特 色

泌尿器科疾患全般に対応することはもちろんであるが、がん診療連携拠点病院として、腎・尿管。膀胱・前立腺・精巣癌に対する診断、治療、フォローアップに重点を置いている。腎癌、腎盂尿管癌に対しては腹腔鏡手術を標準術式として早期腎癌に対しては部分切除による腎温存術を行っている。膀胱癌に対しては経尿道の手術、膀胱全摘術と尿路変更（回腸導管、代用膀胱）、前立腺癌に対してはQOLも考慮した前立腺全摘除術を行っている。進行癌や再発・転移癌に対しては、分子標的治療薬や化学療法、放射線治療も患者の状態を十分考慮した上で積極的に施行している。各種癌に対する治療成績に関しても標準的治療が行えていることを検証・発表することを重要視している。

臨床研修医教育内容

日本泌尿器科学会認定教育施設である。研修医は腎・尿路疾患のプライマリー・ケアができるように、疾患の診断・標準的な治療・基本的な処置についての知識を習得するため、入院患者を中心に泌尿器科疾患全般に触れ、代表的な疾患に関しては自分自身の力で、複雑な疾患については指導医と相談しながら的確に対応できる能力を取得することを目標とする。また、手術に参加することはもちろん小手術の執刀を経験することも出来る。可能であれば地方学会等での症例報告も行うことが出来る。

眼科

藤戸達彦

■ 2018年度の目標及び方針

今年度より医師が交代となり、医師一人体制はそのまま継続されます。昨年度、電子カルテシステムへの移行に伴い、新規の検査機器も導入され、若干ながら検査所見の蓄積もされてきた中、より正確な診断、病状の把握を行うよう勤めてまいります。

手術は、白内障を中心に入院下で行っておりますが、遠方よりの紹介患者も多く、各患者に応じた入院期間の調整を行っています。また、手術件数は若干減少の見込みですが、同水準を維持できるようにしていきたいと考えています。

■ 2018年度の具体的な重点項目

- ・一診療体制が継続されるが、外来待ち時間は可能な限り延長の無いようにしていく。
- ・眼科電子カルテシステムに更に適した形で、診療体制の改善を行っていく。
- ・高齢化に伴い点眼のアドヒアランスが不安定な症例が増加しており、症例ごとの点眼状況を可能な限り確認していく。

■ 2017年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計 (人)

	平成29年度	平成28年度	平成27年度
総計	172	179	187
老人性白内障	166	175	171
結膜のその他の障害	5	4	3
その他の白内障	1	0	7
網膜血管閉塞症	0	0	2
他に分類される疾患における白内障及び水晶体のその他の障害	0	0	1
角膜炎	0	0	1
水晶体の障害	0	0	1
他に分類される疾患における虹彩及び毛様体の障害	0	0	1

(2) 手術実績 (件)

＜麻酔別＞	平成29年度	平成28年度	平成27年度
総計	300	310	299
全身	0	0	1
局麻	300	310	298

＜疾患・術式別＞	平成29年度	平成28年度	平成27年度
総計	300	310	289
老人性白内障	293	306	286
結膜のその他の障害	5	4	3
その他の白内障	2	0	0

■ 2017年度の評価

前年度と同様の診療体制であったため、外来診療数及び手術件数には大きな変化はありませんでした。9月より眼科電子カルテシステムが導入され、各検査機器とオンラインで繋がるようになり、ディスプレイ上で説明ができるようになったため、医療者と患者の疾患に対する状況理解の意思疎通がしやすくなったと考えます。また、システムの導入に合わせて各検査機器も更新しましたので、検査精度も向上したと考えます。

当日の受付状況で待ち時間が長くなることはありますが、システム導入後半年が経過し、スタッフも環境に慣れてきましたので、今後も不便をかけないように診療環境の改善を図っていきたいと思います。

■ 2017年度スタッフ構成

眼科副部長

海野茂樹

・日本眼科学会 専門医

眼科医師

藤戸達彦

(2018年度 赴任)

■ 主な対象疾患

眼科全般

白内障・翼状片などについては手術対応

■ 特色

診療担当医師は1名であるため治療できる範囲には限界があるのが現状ですが、眼科疾患全般について診療を行い、当科で対応可能なものかどうか鑑別し、治療に遅れが生じないよう心がけております。糖尿病などに代表される他科疾患と関連した眼病変も多く、近医・当院他科との連携を細かく行い診療を進めています。

釧路赤十字病院と市立釧路総合病院のそれぞれの眼科と連携を図ることで、多くの症例において釧路市内で治療の完結が可能となっています。

2018年度の目標及び方針

札幌・旭川・函館を除く北海道の地方都市の耳鼻咽喉科勤務医は減少する一方である。釧根地区も例外ではない。釧根地区で耳鼻咽喉科勤務医のいる病院は当院のほか市立釧路総合病院・釧路赤十字病院・町立中標津病院・市立根室病院・町立別海病院の6か所である。当院3人、市立釧路総合病院3人、町立中標津病院1人を除く3病院は週に数日間だけ大学からの出張でまかなわれている。市立根室病院に至っては当院から外来診療に出張している現状である。

出張勤務医の場合、喉頭浮腫・扁桃周囲膿瘍・重症鼻出血などの緊急入院を必要とする患者や入院手術を必要とする患者に対応することができない。したがって勤務医の常駐する病院に紹介するしかない。さらに、釧根地区は札幌・旭川などの大都市圏と遠く離れている。当病院はいわば釧根地区の最後のとりでといってもいいような病院である。今後も可能な限り現在の体制を維持して住民の期待にこたえられるようにしていきたい。

また、釧根地区は耳鼻咽喉科医がほかの地域に比べて圧倒的に少ない。近隣の開業の先生と連携して効率の良い医療体制を作っていくたい。

2018年度の具体的な重点項目

1. 地域医療との連携

地域医療機関からの診療依頼は可能な限り引き受ける。ベッドが満床の場合やむなく入院依頼をお断りしたことがあるができる限り地域医療機関の期待にも応えられるようにしていきたい。

2. 救急疾患に対する診療体制を維持する

当科は気道を扱う科で気道閉塞の危険がある疾患も数多い。それだけ緊急性のある疾患も多いわけである。それにもかかわらず先に述べたように釧根地区で救急疾患に対応できる病院が圧倒的に少ない。今後も救急疾患に対応できる体制を維持していきたいと考えている。

3. 耳疾患から頭頸部腫瘍に至るまで幅の広い疾患への対応

耳鼻咽喉科疾患は耳疾患・鼻疾患・咽喉頭疾患・頭頸部腫瘍と多岐にわたり、まれな疾患もある。また医療が進歩するにしたがって患者数、施設の医療体制、医療機器などの点からすべてを賄うのは困難になってきている。その中でできる限り幅広く種々の疾患に対応していきたい。

2017年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計

(人)

		平成29年度	平成28年度	平成27年度
総計		520	530	560
前庭機能障害		95	58	54
扁桃周囲膿瘍		38	37	46
慢性副鼻腔炎		27	41	36
梨状陥凹<洞>の悪性新生物		25	11	16
その他の難聴		24	27	30
気道からの出血		23	23	22
中咽頭の悪性新生物		21	15	13
声帯及び喉頭の疾患, 他に分類されないもの		19	18	18
扁桃及びアデノイドの慢性疾患		19	22	26
睡眠障害		19	26	33
その他		210	252	266

(2) 手術実績

(件)

<麻酔別>		平成29年度	平成28年度	平成27年度
総計		208	222	273
全身		203	218	255
局麻		5	4	18

<疾患・術式別>		平成29年度	平成28年度	平成27年度
総計		208	222	273
慢性副鼻腔炎		27	41	36
扁桃及びアデノイドの慢性疾患		19	21	26
喉頭の悪性新生物		13	5	3
声帯及び喉頭の疾患, 他に分類されないもの		12	13	18
大唾液腺の良性新生物		10	17	12
梨状陥凹<洞>の悪性新生物		9	6	8
その他の非中毒性甲状腺腫		9	4	8
びまん性非ホジキン <non - Hodgkin>リンパ腫		8	3	12
中耳及び呼吸器系の良性新生物		6	9	12
気道からの出血		6	3	3
その他		89	100	135

2017年度の評価

診療スタッフ3名にて診療を行い、年間入院患者数、手術件数ともこの3年間で若干の減少傾向にある。その一方で救急患者は増加傾向にある。入院患者の疾患はめまい・扁桃周囲膿瘍など救急疾患が数多く含まれ

ている。救急疾患に積極的に対応してきた結果といえる。

手術の内容は耳疾患・鼻疾患・咽喉頭疾患・頭頸部疾患など多岐にわたっている。さらに局所麻酔手術に比べて圧倒的に全身麻酔手術が多い。それだけ侵襲が大きく手術時間の長い手術が多いわけである。

以上のことから当科は現在に至るまで地域の中核として機能し続けているといえる。

■ 2017年度スタッフ構成

耳鼻咽喉科部長

北 南 和 彦

- ・日本耳鼻咽喉科学会 専門医
- ・日本医師会 認定産業医

石 井 秀 幸

- ・日本耳鼻咽喉科学会 専門医
- ・日本耳鼻咽喉科学会 補聴器相談医
- ・日本耳鼻咽喉科学会 補聴器適合判定医
- ・日本耳鼻咽喉科学会 騒音性難聴担当医

耳鼻咽喉科医師

寒風澤 知 明

- ・日本耳鼻咽喉科学会 専門医

■ 主な対象疾患

メニエール病、めまい症、突発性難聴、末梢性顔面神経麻痺（ベル麻痺、ハント症候群）、急性中耳炎、慢性中耳炎、滲出性中耳炎、アレルギー性鼻炎、花粉症、肥厚性鼻炎、副鼻腔炎、鼻出血、シェーグレン症候群、睡眠時無呼吸症候群、扁桃周囲膿瘍、扁桃病巣疾患、声帯ポリープ、喉頭麻痺、音声・嚥下障害、甲状腺腫瘍、副甲状腺腫瘍、顎下腺腫瘍、耳下腺腫瘍、上顎癌、舌癌、口腔底癌、咽頭癌、喉頭癌、その他の頭頸部腫瘍など。

■ 特 色

きわめて多岐にわたる疾患を扱っている。地域医療の状況から扱わざるを得ないのであり、裏を返せば特色のある診療を打ち出せない状況にある。その中で、睡眠時無呼吸外来は釧根地区では当院だけが行っている外来である。

2018年度の目標と方針

胸腹部放射線診断・核医学・放射線治療を柱として各科のニーズに対応している。

今後の新しい診断機器や診断技術、治療技術にも迅速に対応できるよう心掛けたい。

2018年度の具体的な重点項目

・MRI更新に伴う検査体制、読影体制の整備

今年末に2台のうちの1台のMRIが最新式の装置に更新される。

これにより、新たな検査方法や高速撮像が可能となるので、これまで出来なかった検査の実施と従来の撮像方法の見直しが必要となる。

撮像された画像から得られる情報も、今まで以上に多くなる。読影もより多岐詳細にわたることとなるので、他科の要請に応じられるよう努力したい。

・IVRの拡充

今年度も昨年同様、一人体制での実施になる。

今年は体幹部出血塞栓の他、未破裂動脈瘤や術前出血予防塞栓等の動脈塞栓術も可能な限り施行していきたいと思う。

・体幹部定位放射線治療の実施

転移性脳腫瘍に対しては年間10例程度の定位放射線治療を実施している。

体幹部（転移性肺腫瘍）に関しては、検証機器がないので所定の点数が取れない状態である。しかし、症例を積み重ね、年間10例程度は施行したい。

・「放射線ワーキンググループ」の設置

院内の多職種（特に看護師）にとって放射線治療は身近ではなく知識不足の傾向がある。放射線治療の看護の均てん化を目的に、「放射線部安全運営委員会」の下部組織として「放射線治療ワーキンググループ」を設置し運営を開始している。

2017年度の評価

IVRについては、術者が一人体制であることから、対象とする疾患は緊急性が高く、致命的なものに限って依頼を受けていた。そのため、院内での施行件数は少なかったが、市立釧路総合病院及び釧路赤十字病院からの依頼が相当数あり、出張で塞栓術を施行してきた。結果としては、釧路地区の救急医療に放射線科と

して貢献出来たと思う。

放射線治療については院外、特に釧路赤十字病院や釧路協立病院からの紹介患者が増加傾向にある。より一層の宣伝及び普及に努めたい。

2017年度スタッフ構成

放射線科部長

永尾一彦

- ・日本核医学会 専門医
- ・PET核医学 認定医

米坂祥朗

- ・日本放射線腫瘍学会 放射線治療 専門医

放射線科医師

梶山政義

- ・日本医学放射線学会 診断専門医

特色

放射線画像診断、核医学、放射線治療いずれにも対応している。

CT・MRIは脳、頭頸部、脊椎、各関節や胸腹部など全身の検査を行っているが、特に悪性腫瘍の精査やスクリーニング、変性疾患の診断が中心になる。

緊急検査は当日中に、また読影レポートについても大半は当日中に作成し迅速な報告を目指している。

MRIは1.5T（テスラ）の高磁場装置2台で一日30～40件程度撮像し、そのうち読影依頼のあるものについて所見をレポートしている、脳・頭頸部・脊椎・各関節や胸腹部など、全身の検査に対応している。レポートは出来るだけ迅速に作成し、遅くとも検査翌日の午前中までには結果を各科に報告している。

IVRについては前途のように、体幹部の動脈性出血の塞栓のみ実施しており、内容としては気管支動脈塞栓、術後仮性動脈瘤、術後出血、術前腫瘍血管塞栓の止血を施行した。

放射線治療については、年間新患が250例程度、照射患者数が350例程度であり、当院規模の地域がん診療連携拠点病院としては、標準的である。

疾患的には偏りなく、広く全身の癌種に対して照射している。

麻酔科

部長 小田俊昭

■ 2018年度の目標および方針

患者の安全を守る手術麻酔の実行

■ 2018年度の具体的な重点項目

年間2,000件の全身麻酔

麻酔科医として安全かつ円滑な手術室運用

局所麻酔困難患者へのかかわり

■ 2017年度の評価

診療スタッフ3名にて診療をおこなった。

全身麻酔件数2,017件（2016年度比83件増）だった。

常勤医1名・応援医2名体制で全身麻酔を安全に施行することができた。

■ 2017年度スタッフ構成

麻酔科部長

小田俊昭

・日本麻酔科学会 認定医

2018年度の目標および方針

歯科口腔外科は、口腔外科疾患を中心として、口腔がんや口腔顎顔面骨折などの高次歯科医療までの診療を、頭頸部領域に関わる各診療科と連携しつつ行っている。また、がんの支持療法を担う診療科としても、内科や外科系診療各科との院内連携により、がん治療に対しての口腔機能管理も多く実施し、その実績も増加している。さらに緩和療法もこのような高次歯科医療および支持療法に特化した診療を今後もさらに強化していく。

また当科は、日本口腔外科学会認定施設であり、口腔外科の研修を希望する歯科医師への教育指導と人材育成を行っており、これを継続する。

2018年度の具体的な重点項目

(1) 地域医療との連携

今まで通り紹介・逆紹介を基本に釧根地区の歯科医院、病院、医院との密な連携を基本に診療を行う。積極的に地域医療における医科と歯科の橋渡し役を担う。

(2) 釧路赤十字病院歯科口腔外科および市立釧路総合病院歯科口腔外科との連携

歯科口腔外科的な疾患において、可能な限り地域完結型の診療を目指す。釧路根室3次医療圏内の3つの病院歯科口腔外科が連携して地域医療に貢献できる体制作りをさらに進める。現在すでに行われている症例検討に加え、2015年度より開始したNR構想に基づく釧路赤十字病院との手術応援体制をさらに充実させる。当科は主に悪性腫瘍や顎顔面外傷、釧路赤十字病院は外科的矯正治療、市立釧路総合病院は障がい児（者）治療を主に担当している。

(3) 薬剤性顎骨壊死の診断・治療・臨床研究

医科・歯科で共に問題となっている薬剤性顎骨壊死に対して、北海道の多施設共同研究の中心となっている知識と経験を生かし、予防や治療、さらに新しい診断技術などの開発を行う。

(4) 周術期等口腔機能管理の強化

がんの支持療法を担う診療科としての機能を強化し、現在の方針である院内他科からの要望への迅速対応を継続する。

(5) 臨床研究活動

道内外の口腔外科施設との共同研究の参加（現在進行中）、学会発表を積極的に行う。

(6) 若手歯科医師の指導体制の強化

外来、病棟、手術室すべてにおいて、若手歯科医師に広く手厚い教育環境を与え、知識と技術の段階的習得をはかる。

(7) 院内活動の強化

病院内での多職種と連携し（NST、緩和、感染、口腔ケアなど）、所属歯科医師全てが病院内での活動に積極的に参加する。

2017年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計 (人)

	平成29年度	平成28年度	平成27年度
総 計	563	524	564
埋伏歯	258	255	276
歯髄及び根尖部歯周組織の疾患	204	187	186
悪性腫瘍	31	18	33
良性腫瘍	9	8	8
顔面骨の骨折	12	10	9
唾液腺疾患	3	3	3
その他	46	43	49

(2) 入院下手術実績 (件)

<麻酔別>	平成29年度	平成28年度	平成27年度
総 計	495	450	481
全身麻酔	268	247	253
静脈麻酔	143	125	134
局所麻酔	84	78	93
なし	0	0	1

<疾患・術式別>	平成29年度	平成28年度	平成27年度
総 計	497	450	481
埋伏歯	265	242	266
歯髄及び根尖部歯周組織の疾患	179	155	149
悪性腫瘍	17	12	20
良性腫瘍	6	8	8
顔面骨の骨折	12	9	8
唾液腺疾患	2	3	3
その他	14	21	27

■ 2017年度の評価

2017年度は前年度末で大坪部長が退職し、4月より小川が着任した。藤盛、嶋崎の勤務交代は無かったものの、西田が9月末で退職して10月からは角が着任し、歯科医師4名体制が維持された。

前年度と同様に、近隣の歯科医院を中心とした医療機関からの紹介が非常に多く、外来初診は1～2週間の予約待ちの状態であった。また全身麻酔下の手術については2ヶ月待ち、静脈麻酔下の手術も1ヶ月待ちではあるが、患者待機期間は若干改善した。

院内他科と連携して手術やがん治療前後の口腔の管理を行い、がん治療中や治療前後の合併症の抑制が期待できる「周術期等口腔機能管理」が定着したと思われる。手術に関する周術期機能管理の算定は2014年度から2017年度にかけて4年間で739→1747→1917→2187件と順調に増加し、化学療法・放射線療法に関する算定も139→623→684→881件と増加した。しかしその反面、通常の外来新患や外来手術の時間が圧迫されることにもなった。

このような外来診療と手術の待機期間を短縮し、周術期口腔機能管理を円滑にすすめるため、歯科医師4名体制の維持とともに歯科衛生士の増員が望まれていたが、4月に嘱託歯科衛生士が採用された。これにより、周術期等口腔機能管理をさらに強化および拡大するための準備が整ったため、10月以降からは整形外科ならびに脳神経外科の患者へも周術期管理を拡大した。

■ 2017年度スタッフ構成

歯科口腔外科第一部長

藤 盛 真 樹

- 日本口腔外科学会 専門医
- 日本口腔科学会 認定医
- 日本救急医学会 ICLSコース認定インストラクター

歯科口腔外科第二部長

嶋 崎 康 相

- 日本口腔外科学会 認定医
- 日本救急医学会 ICLSコース認定インストラクター

歯科医師

角 伸 博 (2017年10月着任)

西 田 佳 織 (2017年9月退職)

小 川 仁

■ 主な対象疾患

口腔顎顔面領域の

- 腫瘍（悪性ならびに良性）
- 炎症
- 薬剤性顎骨壊死
- 外傷
- 嚢胞性疾患
- 粘膜疾患
- 唾液腺疾患
- 顎関節疾患
- 埋伏歯など歯の疾患
- 歯の移植・再植術
- がん支持療法としての歯科疾患全般
- がん緩和療法としての歯科治療全般

■ 特 色

口腔外科疾患全般を対象としているが、顎顔面領域の悪性腫瘍は、形成外科など他の診療科とのチームアプローチによって治療を行う。がん診療連携拠点病院内の歯科口腔外科として、口腔領域のがん支持療法および緩和医療の一翼を担う。

■ 臨床研修医教育内容

院内各科をローテートしている臨床研修医に対して、主診療科の指導医とともに、症例を通して歯科口腔外科的疾患に対する教育と研修のサポートを行う。

■ 2018年度の目標及び方針

疾病の早期発見と生活習慣病の改善により、受診者の健康の保持増進及び満足度の向上を図ることを目標としている。

■ 2018年度の具体的な重点事項

より信頼される医療機関となるために、医療接遇を大切にします。

ホテルのように最上級の敬語をつかい、深々とお辞儀をしてお見送りをする、といったサービス提供ではなく、患者さんの置かれた状況や立場を考えて、患者さんと同じ目線に立って考え行動することです。

地域の方々が安心して笑顔で受診できる健康診断部を目指していきます。

■ 2017年度実績

内 訳 (件)

	平成29年度	平成28年度	平成27年度
一 般 健 診	1,253	1,361	1,409
特 定 健 診	410	418	460
特 定 保 健 指 導	79	23	22
日 帰 り 人 間 ド ッ ク	534	483	470
特 殊 健 診	921	1,249	970

■ 2017年度の評価

概ね適切な健診件数を実施することができたため、個人的には満足している。

■ 2017年度スタッフ構成

健康診断部長

辻 本 和 代

看護師

服 部 佳 子

■ 特 色

当院の健康診断部では、人間ドックをはじめ、特殊健康診断などを実施しております。

人間ドックと脳ドックの併用健診や多数のオプションを設け、様々なニーズに対応しております。また、人間ドックには、患者さんが院内を迷わないように受診者一人ひとりに女性コンシェルジュが受診が終わるまで対応しており、受診者が安心して受診できる環境を整えております。

受診者の要望のある胃カメラのSedationの導入については検討していきたいと思っております。

栄養管理部

部長(事) 宮城島 拓 人

2018年度の目標及び方針

栄養管理室では患者への食事の提供、入院時に栄養管理計画書の作成による栄養評価、栄養相談による患者や家族への適切な栄養管理法の情報提供、NST活動、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム等のチーム医療への参加による適切な栄養管理支援を行う役割がある。

栄養指導件数を増加させることにより患者の療養支援を行い、病院の収益にも寄与することへ繋がる。チーム医療において、管理栄養士としての役割を果たすため、また、効果的な栄養指導を実施するために管理栄養士の栄養管理に関する技術の向上も必要と考える。

また、提供する食事の内容について、試行調査、定期的な検討会を実施し、入院中の患者のQOL向上へ繋がるよう取り組みを行う。

患者の円滑な入退院の支援を行なうこと、また在宅での栄養管理が地域として今後取り組むべき課題であるため地域連携も重要な課題であり、栄養士会の活動及び今年度発足されるCKDネットワークへの参加により院外の同職種、多職種との共同で地域住民の患者の健康管理の向上に関する取り組みに参画していく。

2018年度の具体的な重点項目

(1) 栄養指導件数の増加

昨年度に引き続き、栄養指導件数の増加を目標とする。管理栄養士の院内外の研修参加をサポートし給食管理、栄養指導、チーム医療への参画と段階を経て入院・外来患者の栄養管理を行っていきけるよう栄養管理に関する知識の習得へ繋げていく。

(2) 栄養管理業務の推進

NST介入患者の増加、及びNST回診の円滑な運用を検討し、栄養サポートチーム加算増を目指す。

(3) 給食管理における改善の検討

好中球減少症の患者へ提供している「加熱食」について、従来の調理基準では過度の食事制限を見直すため、ガイドラインに関する学習会及び、調理基準の改定に関する検討会を給食委託会社と共同で実施する。より安全で、食べやすい食事へ改善を行い患者の栄養状態向上へ努める。

(4) 地域連携への参画

栄養士会医療協議会として取り組んでいる、くしろ糖尿病デーへの参加、及び今年後より運用開始となるCKDネットワークの取り組みに参加。かかりつけ医からの紹介患者への栄養指導を実施し、CKD患者の病態増悪防止へ貢献していく。

2017年度の評価

栄養指導件数は外来栄養指導の継続指導強化に取り組み、昨年度より22%の件数増となった。

給食管理ではインシデントの件数は43件と昨年度の42件とほぼ同件数となった。毎月の部署内打ち合わせによるインシデント報告により一昨年52件より少ない発生数を維持出来ている。

地域連携に関しては栄養管理情報書の提供開始に向け運用を検討し運用を継続。転院患者の情報として365件/年の栄養管理情報書を作成した。

特色

給食管理・栄養管理・治療就労両立支援部活動を実施

給食管理

一般食、特別治療食を調理し個々の病態に合わせた食事を調理し提供しているほか、特別メニュー（選択できる食事）を一般食対象に週3日（水、木、金曜日の昼・夕食）に実施。

栄養管理

栄養管理計画書の作成、栄養指導（個別、集団）の他、褥瘡回診、緩和ケアチーム、NSTに所属しチーム医療に参加。NSTは管理栄養士を専従とし、チームマネジメントを実施している。今年度から外来透析回診に参加し、外来透析患者の栄養管理を医師と共同で実施している。

治療就労両立支援部活動：出前講座として生活習慣病予防のための食事について講演を実施している。

2018年度の目標及び方針

リハビリテーション科は、開院当初からの運動器疾患や脳血管疾患に加え、内科や外科の内部障害やがん患者への対応を行い、急性期・周術期から積極的な治療・介入を行っている。リハビリ対象患者のますますの高齢化や疾患・障害構成の多様化・重複化により、対応するスタッフには、一層の充実が求められている。

2018年度の重点項目

・地域医療機関との連携

地域連携パスは勿論、その他パスのない疾患・障害に対しても、従来のノウハウを活かしてスムーズに地域へ移行できるよう取り組む。整形外来でのリハや道東の広域医療圏での連携、地域青少年の支援など専門性を持った人材群で取り組む。

・がんのリハビリテーションの推進

がん患者に対するリハビリについては、廃用予防や心理的効果は勿論、がんそのものによる障害治療に関する機能障害、合併症予防や回復など予防的～緩和的な段階まで広く対応する。がん手術前後に「周術期呼吸リハ」を実施し、呼吸器合併症の予防や早期離床などを図る。また、がん患者の上下肢リンパ浮腫・肩関節拘縮予防などのリハビリの提供を行う。昨年度に引き続き、全スタッフのがんのリハビリテーション研修修了をめざす。

・治療就労両立支援

運動器疾患や脳血管疾患患者への支援に加え、がん患者への治療と就労の両立支援を行っていく。特に長期頻回の化学療法による廃用については、早期からの介入で効果的な結果を期待できると考える。

・内部疾患に対する対応力強化

がんのリハビリテーションに加え、呼吸器疾患や心疾患、外科術前後の全身管理などのスキルを持つ人材を育成し、各科医師・患者・家族からのニーズに的確に応えられるよう体制整備を継続する。

・難病患者のリハビリテーションの充実

長期的な介入が必要でありながらも、現在は入院時の介入に留まっている。地域の中での役割を認識し、入院・外来・地域連携の拠点となることを目指して、情報交換や機器の整備を図る。

2017年度の評価

診療スタッフ17名で診療を行い、入院患者の新患者数は2,538名であった。内訳は整形外科559名、内科772名、脳神経外科631名、外科311名、神経内科150名、泌尿器科64名、形成外科32名、耳鼻咽喉科7名、歯科口腔外科12名となり、全患者の30.9%にあたる785名ががん患者であり、14名のがんのリハビリテーション研修修了者を中心に対応した。

整形外科や脳神経外科からの脊椎脊髄疾患・末梢神経障害患者も414名、運動器疾患753名は全スタッフで対応した。呼吸器疾患や外科の周術期呼吸リハについては呼吸療法認定士資格を有するスタッフに加え、心臓リハビリテーション経験者など対応スタッフの拡大を図っている。充分なりハビリテーション医療を提供するために、今後も人材確保と質の向上が最重要である。

2017年度スタッフ構成

リハビリテーション科部長

津坂 和文

中央リハビリテーション部長（作業療法士）

山田 毅

主任 理学療法士

猪野 勝 ・ 石田 祥雄

小柳 光明

理学療法士

田口 暢秀 ・ 推井 基陽

鈴木 輝未 ・ 小松 広樹

八幡 恒平 ・ 磯貝 由紀子

及川 一也

主任 作業療法士

石田 さえ子

作業療法士

吉川 陽 ・ 久野 紀子

加納 祥子

主任 言語聴覚士

菅野 栄子

言語聴覚士

福井 あい

主な対象疾患

[整形外科]

・変形性関節症 ・上下肢外傷 ・脊椎疾患

[内科]

・がん ・肺炎 ・感染症 ・炎症

[脳神経外科]

- ・脳血管疾患
- ・末梢神経疾患

[外科]

- ・がん
- ・肺・肝・腸・胆道系疾患

[神経内科]

- ・神経難病
- ・脳血管疾患

[形成外科]

- ・がん
- ・褥瘡・潰瘍・熱傷等

[耳鼻咽喉科]

- ・がん

[歯科口腔外科]

- ・がん

■ 特色

中央リハビリテーション部は、30年7月現在、医師1名（兼任）、理学療法士11名、作業療法士5名、言語聴覚士2名の総勢19名で日々の診療を行っている。

リハビリ対象疾患は高齢化やがんサバイバーの増加など、疾患構成の変化で、より広範囲で複雑化・重複化しており、当院開院当初からの運動器疾患や脳血管疾患に加え、内科や外科の内部障害やがん患者へのリハビリテーションが劇的に増加した。

入院、発症早期からのリハビリの提供は、脳血管障害発症3日以内でのリハビリ開始は勿論、整形外科術前からの介入で早期の機能回復はもとより、患者ニーズの把握・不安軽減にも努めている。また高齢化に伴い、複数の疾患・障害を持つ方も多く（例：パーキンソン病で神経内科通院中の方ががんで内科入院、大腿骨頸部骨折で入院中の方が肺炎発症など）、複数の診療科にまたがる疾患・障害に対しても患者さんをトータルにみるという、総合病院のリハビリならではの対応をしている。

がん患者に対するリハビリについては、厚生労働省指定の「がんのリハビリテーション研修会」に療法士18名中16名が受講済みであり、廃用予防や心理的効果だけでなく、がんそのものによる機能障害、合併症の予防・回復など予防的～回復的な段階まで広く対応している。がん手術前後に「周術期呼吸リハ」実施により、呼吸器合併症の予防や早期離床を図っている。がん患者の上下肢リンパ浮腫や乳がん術後のリハの提供も行っている。

昨年度から言語聴覚士2名体制になり、摂食機能障害やコミュニケーション障害の対応も充実し、耳鼻咽喉科や歯科口腔外科領域のがんのリハビリにも取り組んでいる。

今後は職場復帰や治療と就労の両立支援についても、これまで以上にお役に立ちたいと考えている。

平成22年より、整形外科に理学療法士を配置し、診察室から直結したりハビリの提供をしている。内容は、変形性関節症の保存療法や肩・膝・腰痛などの対応、エクササイズやテーピング指導など様々である。

2018年度の目標及び方針

中央放射線部は放射線や磁場を用いた医療機器を使用して診断を行うための画像検査や、放射線を利用した治療を行う部門です。常に患者さんと接する部門ですので患者さん中心の医療が実現するように努めています。法令を遵守し、患者さんの安全に配慮しています。設置後10年を超える機器も多く、少々時代に残されている感は否めませんが、少しでも病院の利益に繋がるようにみんなで頑張っています。放射線関連でも近年は様々な認定資格制度があります。放射線治療専門技師や放射線治療品質管理士、医学物理士など診療報酬にも結びつく資格があり、積極的に取得させていきたいと考えています。

また30年度にはマンモグラフィ装置の更新（トモシンセシス対応）、MRIの更新計画やパノラマ装置（歯科用CT撮影機器）更新、64列CTもバージョンアップ計画があり逐次近似法を用いた「低被ばくCT撮影」が可能になる予定です。

最新の技術と機器を導入することにより病院の「力」になれるよう努力いたします。

2018年度の具体的な重点項目

- (1) 積極的な認定資格取得
- (2) 最新の技術を導入できるよう部内の勉強会
- (3) 計画的な機器更新準備
- (4) PACS等に接続するモダリティの院内ネットワーク整備等

2017年度の実績

一般撮影患者数	44,041件
MRI	7,959件
CT	17,114件
RI	712件
透視検査	2,017件
骨塩	1,736件
放射線治療患者数	269件

2017年度の評価

30年度更新予定のPACS、及び1.5T MRI更新のための準備、計画、勉強会等を積極的に行ってまいりました。特にMRIに関してはコストを抑え予算の中でどうすれば最大のパフォーマンスが実現できるかをMRI認定技師中心に検討を重ね共同購入に臨んでおります。PACS、RISも更新を機に安全に配慮

出来る工夫を盛り込み計画しています。メーカーの既製品をそのまま使用するのではなく、使い勝手や医療安全対策など、こだわりを持って計画しています。また、当院の「資格支援制度」を利用しての放射線関連資格を取得してくれるスタッフが増えました。

2017年度スタッフ構成

受付 2名
診療放射線技師20名(男性技師17名、女性技師3名)

取得認定資格

放射線取扱主任者 3名
放射線治療専門技師 2名
放射線治療品質管理士 2名
医学物理士 1名
磁気共鳴専門技術者 2名
X線CT認定技師 1名
日本放射線技師会画像等手術支援 1名

主な機器構成

- 一般撮影 4室
- 骨塩測定 1室
- 歯科パノラマ（歯科CT付） 1台
- 乳腺撮影装置（トモシンセシス付） 1室
- デジタル透視 2室
- 64列CT 1室
- MRI（1.5T） 2室（2018年12月 1台更新予定）
- RI検査用ガンマカメラ 1室
- アンギオ室 1室
- リニアック10MV 1室
- 治療計画用CTシミュレータ 1室
- ポータブル撮影装置 3台
- ポータブル透視装置 3台

中央検査部

部長 谷口大輔

2018年度の目標及び方針

中央検査部では、勤労者医療の充実・勤労者の安全向上の理念の下、勤労者の健康維持と安全向上に貢献するために、良質な医療の提供を目指す。血液、輸血・血液製剤管理、一般、生化学・免疫、細菌、病理、生理等の部門ごとに技師を配置し、より高度な検査の提供に努力する。更に、院内感染対策・NSTチーム内での活動、資格を活かしての糖尿病教室への患者説明など、チーム医療への積極的な参加を強化し、今年度も引き続き迅速かつ正確な検査を実施するよう心掛けたい。

具体的な重点項目

1. 生理検査に係わる超音波検査や術中モニタリング等の実技を含む勉強会の実施を行い、若手育成に取り組む。
2. 中央検査部の再編の一環とし、スタッフのローテーション、検査機器の見直し、検査項目の院内外への移行により業務効率化を図り、業務拡大に繋げた。
3. 例年通り、院内での日常的精度管理（内部精度管理）に加え、外部組織が主催する精度管理調査などに参加し、検査データ保証を維持する。
4. 病院臨地実習の開始に向けカリキュラム、マニュアルの準備を進め、人材育成に貢献していく。

2017年度検査実績

	平成29年度	平成28年度
尿・糞便等検査	51,166件	52,742件
血液学的検査	225,076件	234,360件
生化学的検査（Ⅰ）	1,134,762件	1,146,945件
生化学的検査（Ⅱ）	41,699件	43,327件
免疫学的検査	101,071件	102,314件
微生物学的検査	25,601件	24,489件
生体検査	24,088件	24,284件
病理学的検査	15,867件	17,276件

2017年度の評価

1. 中央採血室の検査室内への移設

平成29年10月に病院2階に、中央採血室、生理検査室の移設が完了し、円滑な業務が行えるようスタッフ一丸となり取り組んだ結果、外来検査報告時間（TAT）が短縮傾向になった。

2. 外部委託から院内検査への移行（可溶性IL-2レセプター検査）

サイトカインのひとつ可溶性IL-2レセプターについて、平成29年8月から院内実施が可能となった。これにより報告までの日数が短縮され、即日報告体制となった。検査件数も増加した（従来140件/月、院内検査移行後160件/月）。ATLLと非ホジキンリンパ腫の病態や治療効果の評価に役立っているものとする。

3. 平成29年度中央検査部内勉強会

例年どおり毎月1回開催され、検査部スタッフは各自でテーマを決めて発表し日々の業務に活用している。同時に、リスクマネージャーによるインシデント事例検討会も行われ、原因究明、改善策など活発な意見交換を行っている。

4. 検査実施総件数

外来患者数減に影響され減少傾向となった。（平成29年度は平成28年度に比べ1.6%減）

5. 内外部精度管理について、生化学、血液、血液ガスは許容範囲内で良好な結果だった。

外部精度管理

- ①日臨技精度管理調査は、99.1%（100.0%中）と良好であった。
- ②日本医師会臨床検査精度管理調査は、97.4点（100点満点中）と良好であった。

2017年度スタッフ構成

常勤医師 1名

中央検査科部長

高橋 達郎

中央検査部（臨床検査技師）部長

藤井 史郎

谷口 大輔

（2018年赴任）

中央検査部主任

井村 英利 ・ 斎藤 隆二

根本 珠恵 ・ 遊佐 純教

久末 浩樹

中央検査部

下重 龍也 ・ 小笠原 由佳

及川 比佐子 ・ 石橋 芳昭

下重 浩美 ・ 中村 明代

多田 憲司 ・ 北南 文絵

風穴 澄香 ・ 鈴木 勝俊

小竹 美智子 ・ 今野 里南

大門 直美

中央検査部（事務等補助員）

佐藤 小百合（嘱託）

認定資格

中央検査部

- 精度保証認証施設（日本臨床衛生検査技師会、日本臨床検査標準協議会）

個人

- 日本糖尿病療養指導士
- 超音波検査士（健診）
- 第2種ME技術検定合格者
- 細胞検査士（国内）
- 細胞検査士（国際）
- 特定化学物質・四ア鉛等作業主任者
- 有機溶剤作業主任者
- 血管診療技師

2018年度の目標及び方針

MEセンターが移設し「医療機器管理センター」になりました。院内の医療機器の総合窓口としての役割を担う立場として、今後も医療機器を使用するすべての現場に対応できるよう体制を整えます。医師及び看護師の業務軽減に関わる臨床業務の増加により、部内スタッフ同士の情報共有を重点におき、日々の診療の補助及び治療手技に支障をきたさぬよう努めます。臨床業務は分野が多岐にわたるため、各診療科、各業務におけるマニュアルの再整備を行い効率よく職務に全うできる体制づくりを強化します。機器管理においては、トレーサビリティの実践により、機器にかかる時間コスト及び修理コストの軽減を図れるようにします。

2018年度の具体的な重点項目

1) 血液浄化室

- On-LineHDFの導入を見据え、今後も水質管理基準に沿った管理を行う。
- 今年度導入したI-HDFの運用、新規導入患者の検討及びヘモダイアフィルタの使用拡充。
- 新規手技に伴う、血液透析中のトラブル対応についてのマニュアル作成。

2) 高気圧酸素治療業務

高気圧酸素治療（以下HBO）は急性期から慢性期まで幅広い治療です。昨年度より形成外科領域の難治性潰瘍等の依頼が増えました。形成外科領域ではこれ以外に、皮膚移植後の虚血皮弁、急性血行障害などの末梢循環障害の改善の適応もあり、治療目標に沿えるよう業務の臨床提供を出来るようにします。また、整形外科や歯科口腔外科からも、脊髄神経障害や重症軟部組織感染症などの依頼もあり、術前術後の経過観察も含め患者様に安全安心を心がけ治療します。

今年度より、HBOの診療報酬改定がありました。疾患により10回から30回まで算定できますので、適応可能であれば対応いたします。

3) 血液浄化（人工透析を除く）

血液浄化療法は、医師の指示を受けて病棟及び外来で治療を行うため、他職種との情報共有が重要となります。治療方法や疾患により適応基準、使用薬剤、使用物品が異なるため、使用物品の手配など業者と連絡をとり円滑に準備・治療を行える環境作り

を目指します。また、必要時に医師・看護師とディスカッションを行い、患者により良い治療を提供できるよう心がけます。

4) 病棟ラウンド

- 積極的な学会出席、認定資格取得
- 各診療科における人工呼吸器装着患者様への積極的な介入
- 各診療科における古い医療機器の更新から購入までのスムーズな移行のサポート

5) 内視鏡業務

- 内科医師の交代に伴い、医師一人ひとりに合った介助を心がける。
- VPP更新に伴う機器及び内視鏡画像ファイリングシステムの更新による、内視鏡マニュアルの改訂とシステムのトラブルシューティングの作成。
- 内視鏡スタッフとのコミュニケーションをしっかりと、より良い連携をとれるよう心がける。

6) 手術室業務

- 機器安全使用のために定期点検を確実に実施する。
- 機器勉強会、メンテナンス講習に参加し院内修理可能機器の増加。
- 銅製小物を含めた機器管理台数の増加
- サポートエンド対象機器が増加していくので、トラブル及び更新時に手術室スタッフに負担をかけないように迅速に対応していく。

7) MEセンター（医療機器管理）

- 院内医療機器の完全なデータベース化を目指す
- 機器経年劣化の把握及び使用状況を把握することによるトラブルを最小限にとどめ、係るコストを抑えることに努める。
- 打刻器を使用できるメリットを生かした、銅製小物のトレーサビリティを行うことに努める。
- 院内の医療機器に関する総合窓口としての立場を関係各所に理解してもらい、無駄なコストを抑える体制を強化する。

2017年度の評価

「医療機器管理」と「臨床への技術提供・診療の補助」において、臨床業務の割合が増えてきました。これに対応すべくスタッフの業務調整等、より専門的な分野に特化した部門は専属スタッフを置く等の対応をとりました。「臨床」と「機器管理」と両側面にわたるため、部内及び関係各所との情報共有を図り効率よく対応できました。

1) 血液浄化センター

透析装置の操作方法について基本的な操作は問題ないが、「トラブル対応及び操作」はスタッフ全員が対応できるとは言い難く、血液浄化センター内でのマニュアルの充実が必要だと感じた。水質管理については、2018年度から導入した新しいモードに対する適切な水質管理、水質維持は問題なく経過しているので引き続き対応していく。

2) 高気圧酸素治療業務

29年度実績は284件でした。例年と比べやや増加傾向であり、特に形成外科よりの依頼が増加しました。1症例の治療回数が30回となる治療が多かったことが要因としてあります。耳鼻咽喉科では突発性難聴、整形外科では脊髄神経障害、他にCO中毒もありました。治療件数の増加に伴い、高気圧専用治療衣も追加で準備しました。急性期治療が必要なガス中毒や減圧障害などもHBOの適応です。道東地域での減圧障害の対応は、HBO専門医の不在の場合、技士（認定技士）での対応が軸になることがあるため、これに関わる情報提供に対応する体制をとりました。安全管理を基本に、常に患者様の治療条件や適応判断など、情報収集やアドバイス等も心がけました。

3) 血液浄化（人工透析を除く）

血液浄化療法件数は前年度より減少となりました。特に「腹水濾過濃縮再静注法（CART）」が多く、全件数の半数以上を占めているのは変わらず、潰瘍性大腸炎の治療法「白血球除去療法」が増加傾向となりました。2017年度より「末梢血幹細胞採取」に使用する装置が更新となり、マニュアル改訂および準備や治療の操作方法の変更により、一連の治療期間の短縮に繋がりました。

4) 病棟ラウンド

各外来で使用されている医療機器のトラブル対応、病棟で使用されている医用テレメータやベッドサイ

ドモニタ、AED、除細動器の使用前・使用中点検を毎日実施している。今年度途中より3階のMEセンターは、2階（旧人工透析室）へ移動し「医療機器管理センター」として新たにスタートした。これまで以上に院内医療機器の一括管理をすることで、各診療科スタッフ、また患者様にとって安心して医療を受ける事ができる体制を整える上での重要な1年となった。

5) 内視鏡業務

内視鏡センターが新しくなり、内視鏡スタッフが1名増員となり、より良い環境で検査・処置を受けられるようになりました。また、胆道鏡システム（スパイグラス）の導入による、新規手技等のセッティングや材料出しの介助を的確に行うことができました。

6) 手術室業務

例年に比べ手術室で使用している機械や鉗子およびピンセット等の銅製小物をメーカー修理に出した際に、サポートエンドのため修理不能になることが多く、使用機器等の経年劣化が増えてきている現状です。これによるトラブルも多数あったが、機器の修理、更新、導入までの流れをスムーズに実施できた。

7) MEセンター（医療機器管理）

昨年末に医療機器管理センターとなり、面積を拡充し各種医療機器に関する窓口として対応しました。打刻器を使用している銅製小物のデータ管理も軌道にのり登録機器は2,538台となりました。現在継続使用中の経年劣化による機器のトラブルが多く、対応に係るコストが多くなってきています。トラブルを未然に防ぐべく始業点検等の確実な実施および迅速な対応ができる体制の強化が必要です。

2017年度スタッフ構成

部長（泌尿器科部長）

佐々木 芳 浩 日本泌尿器科学会専門医 指導医
泌尿器腹腔鏡技術認定医

主任臨床工学技士

廣 瀬 孝 則 医療機器安全管理責任者
透析技術認定士
呼吸療法認定士
第1種消化器内視鏡技師
MD I C
第2種ME技術認定

臨床工学技士

櫻庭直達	高気圧酸素治療専門技師 呼吸療法認定士 特定高圧ガス取扱主任者 第2種ME技術認定 特定化学物質等作業主任者
関貴洋	透析技術認定士 呼吸療法認定士
山本岳	第2種ME技術認定
綿貫顕太	
川合博貴	第2種ME技術認定
大江悠輔	第2種ME技術認定

■ 特色

道東地域において病床数に対する臨床工学技士数が最も少ないですが、スタッフ全員がどの業務にも従事できるような体制を確保しつつ、各診療科からのオーダーに即時対応しています。関わる業務は多岐にわたり、内科、外科、泌尿器科、眼科における臨床業務にも関わり、診療の補助を行っています。

昨年末は、MEセンターを移設し「医療機器管理センター」となり、登録機器は2,500台を超えました。医療機器に関する院内の総合窓口として、臨床における診療の補助および関わる医療機器の管理も含め、各診療科を横断的にサポートできる体制となっています。

■ 主な対象疾患

(血液浄化室)

- 糖尿病性糸球体腎硬化症
- 慢性糸球体腎炎
- 腎硬化症
- 多発性のう胞腎
- 2型糖尿病
- IgA腎症

(高気圧酸素治療)

- 突発性難聴
- CO中毒
- 閉塞性動脈硬化症
- 皮弁壊死
- 糖尿病性壊疽
- 脊髄梗塞
- 胸髄損傷
- 頸髄損傷
- 皮膚潰瘍
- 難治性潰瘍
- 放射線性潰瘍
- 化膿性脊椎炎
- 重症下肢虚血
- 急性末梢血管障害
- 網脈中心動脈閉塞症 等

血液浄化（人工透析を除く）

- 潰瘍性大腸炎
- クローン病
- TTP（血栓性血小板減少性紫斑病）
- 原発性マクログロブリン血症
- GBS（ギランバレー症候群）
- MS（多発性硬化症）
- CIDP（慢性炎症性脱髄性多発神経炎）
- 急性肝不全

(手術室)

- 消化器外科手術（腹腔鏡手術を伴うもの）
- 泌尿器科領域（腹腔鏡手術を伴うもの）
- 白内障（白内障超音波手術器使用を伴うもの）

2018年度の目標及び方針

薬剤部理念「薬の専門職として、心ある良質な医療を提供します」

基本方針

1. 正しい調剤と薬の適正使用・管理を行います…(物)
2. 安全・安心な医療を提供します……………(心)
3. 各々が成長と貢献を目指します……………(人)

上記を踏まえ、薬剤部のビジョンを「薬剤部に関わる全ての人々に、チーム医療を通して最良の薬物療法を提供・実践する」としました。具体的には、医薬品の適正使用を通じて「安全・安心で効果的な薬物治療」を提供するために、調剤をはじめ、薬品の供給・管理、薬学的管理及び服薬指導、DI（医薬品情報）業務、抗がん剤等の調製など多くの業務に携わっていきます。また、病棟薬剤業務における入院時の持参薬鑑別や病棟担当薬剤師による薬剤管理指導業務を積極的に実施して、患者サービスの向上、医薬品の安全管理と有効性の維持・向上のために鋭意努力します。

これらを通じて、薬剤部は以下の3つの貢献を目標とします。

- ① 診療業務における貢献
- ② 経営と連携における貢献
- ③ 教育・研修と臨床研究における貢献

2018年度の具体的な重点項目

・化学療法センターにおける業務の充実

現在、化学療法センターには3名の薬剤師が常駐して、レジメン管理・確認及び抗がん剤調製を行っている。また、がん患者の薬学的管理及び服薬指導を「がん患者指導管理料 ハ」として実践しているが、本年度は認定資格者を増やしてさらなる充実を図り、質・量ともに診療業務への貢献を目指す。また、機構が取り組んでいる就労支援における薬学的管理や内服抗がん剤における薬薬連携についても関係各位と協力して実施していく。

・病棟薬剤業務の充実

一昨年から開始した病棟薬剤業務は、ほぼ軌道に乗っているが、本年度新設された入退院支援を円滑に実施していくため持参薬鑑別業務に関して医師・看護師らとさらなる密接な連携が求められる。そこで、これまで以上に情報の共有と患者個々に合った処方提案及びポリファーマシー対策を強化していきたい。

・薬剤管理指導業務の充実

本業務については、患者からの要望も強く全ての患者に対して実施すべき業務であり、昨年度はようやく実施率が7割を超えたところである。今後薬剤師を増員しながら100%の実施を早急に目指していきたい。

・抗菌薬適正使用支援チーム

(AST：Antimicrobial Stewardship Team) の実践

昨年度末に組織化されたASTにおいて、薬剤部は重要な役割を担っている。まずは、本年度新設された抗菌薬適正使用支援加算を算定しながら、既存のICTと新たに設置されたASTの取組を連携させ、総合的にAMR対策を推進していく。その中で、感染制御に精通した薬剤師が現在行っている取り組みを拡充し、組織的な抗菌薬の適正使用と薬剤耐性対策を積極的に推進していく。

・医薬品安全管理体制の強化

薬物療法を安全に実施していくため、特に麻薬、毒薬、向精神薬、ハイリスク薬について医薬品安全管理責任者を中心に全てのメディカル・スタッフが手順を励行して安全対策を推進していく。さらに医療安全管理者をはじめとする他部署の職員とも連携して、必要な安全対策・確認作業及び研修・教育を定期的に行い薬剤関連アクシデントの防止に努めていく。

・後発医薬品及びバイオシミラーの導入促進

平成29年度の後発医薬品の数量割合は、すでに最高目標値をクリアしている。これを維持しながら、今後は年間購入金額が大きい品目について、さらに順次切り替えを行っていく。

・治験体制の整備と実施

昨年度は、SMO（治験施設支援機関）の協力のもと治験体制の整備を行って、2件の治験を開始した。本年度も、SMOまたは機構本部治験ネットワークからの紹介案件を中心にその実施可能性を十分検討し、関係各位と協力して治験受託・実施に向け取り組んでいく。

・専門・認定薬剤師の育成

薬剤師が薬の専門職として十分な力を発揮して成果をあげられるよう、常日頃から自己研鑽に励むとともに、各種専門・認定薬剤師の取得・更新をサポートで

きる部内の教育・研修体制を整備し支援していく。

・働きがいのある職場作り

一人一人の薬剤師が働きがいのある職場であることを実感できるよう、薬剤部の環境整備に努めるとともに活気に溢れお互いに協力し合えるような人間関係の構築に努めていく。

■ 2017年度の評価

2017年度は、前年度と同様薬剤師17名（関東労災より荒井宏人新副部長が赴任）と薬剤助手1名で業務を開始した。前年度より開始した病棟薬剤業務と新しい化学療法センターの業務も順調に推移したところで、6月に部内の業務改革を行った。その結果、全般的な業務効率が改善し薬剤管理指導業務の算定件数が前年度7,176件から8,061件に増加し、算定割合も同比較で66.9%から73.8%となった。これにより、臨床現場でより多くの患者さんに薬剤師が関与することができた。

経営面においては、薬剤管理指導業務の算定件数アップと病棟薬剤業務の通年実施による増収があった他、支出面では後発品への積極的な切替えにより薬品費の削減が達成された。加えて、後発品の数量ベースでは前年度の83.2%からさらに増加して87.4%となり、新年度の診療報酬改定における後発医薬品使用体制加算1を取るための算定要件である85%以上をクリアすることができた。

教育・研修、研究面においては、2017年4月より日本病院薬剤師会のHIV感染症薬物療法認定薬剤師養成研修施設としての認定を取得した（道東地区初）。今後当地区のHIV診療を担う薬剤師の育成に尽力していきたい。さらには、各分野を担当する薬剤師が自己研鑽に励むとともに院内・外の研修会の講師や学会発表を行い、他の医療スタッフや保険薬局薬剤師、さらには地域住民とともに連携して教育的な立場で積極的に取り組むことができた。

■ 2018年度スタッフ構成

スタッフ：18名

[内訳]

- ・薬剤師 17名
- ・助手 1名

取得認定

- ・日本医療薬学会指導薬剤師 1名
- ・日本医療薬学会認定薬剤師 1名
- ・日本薬剤師研修センター認定薬剤師 9名
- ・日本病院薬剤師会認定実習指導薬剤師 1名
- ・日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師 7名
- ・日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師 1名
- ・日本病院薬剤師会感染制御専門薬剤師 1名
- ・日本病院薬剤師会HIV感染症薬物療法認定薬剤師 1名
- ・日本糖尿病療養指導士 1名
- ・日本静脈経腸栄養学会認定栄養サポートチーム専門療法士 2名
- ・日本医療情報学会認定医療情報技師 1名

■ 特色

薬剤部では病棟薬剤業務（道東地区初）及び薬剤管理指導業務を中心に、全病棟に担当薬剤師を配置してチーム医療に積極的に関わっています。院内の医師、看護師、他のメディカル・スタッフとも密に連携して薬の専門職としての職能を十分発揮しています。薬剤部内には、日本医療薬学会指導・認定薬剤師をはじめ、がん薬物療法認定、感染制御専門、NST専門療養士、糖尿病療養指導士、HIV感染症薬物療法認定など各種認定・専門資格を有した薬剤師がそれぞれの専門性を生かして多数活躍しています。特に抗がん剤の調製件数は道内トップレベルで、がん治療及び緩和領域の診療実績が多くなっています。また、道内でも数少ない各種研修施設（日本医療薬学会認定、同がん専門、同薬物療法専門、日本病院薬剤師会HIV薬物療法）に認定され、学会発表・論文投稿のサポートなど入局薬剤師の成長に必要な環境が整備されており、日々自己研鑽に励んでいます。

2018年度の目標及び方針

看護部理念

「人としての尊厳を守り、安全、安心、優しさのある看護を実践します」

基本方針

- 患者さんの権利を守り、その人らしさを大切にされた看護を実践します。
- 専門知識・技術を高め、科学的根拠に基づいた質の高い看護を実践します。
- 全ての医療従事者と連携し、チーム医療に貢献します。
- 働く人の持てる力を支援し、健康づくりに貢献します。

2018年度の具体的な重点項目

「私達の目指す看護」を明確にし、日々の看護に取り組みます。

- その時その時に最善を尽くす。

看護の仕事はあらゆる場面で、マニュアル通りに進まない事があります。限られた資源、限られた時間の中でも、相手にとって最善であるように看護します。

- 患者さんが納得して治療、看護を受けられるよう意思決定を支援する。

意思決定支援は看護業務実践の主要な部分です。すべての患者さんは自分の健康状態や治療などについて知り、十分な情報がある中で意思決定する権利があります。私達はその人にとって最良の選択ができるよう、寄り添い支援します。

- 認知症の理解を深め、持てる力を信じて適切な看護を提供する。

認知症を持ち、看護を受けられる方が、日本の高齢化と共に増加しています。認知症の症状を正しく理解し、対応していく必要があります。認知症看護認定看護師を育成し、認知症対応力向上研修の参加を勧めるとともに部署内で伝達し現場の認知症対応力向上を目指します。

- 退院後に必要な医療や介護を調整し、早期に住み慣れた地域に戻れるよう支援する。

地域完結型医療では、暮らしと医療、福祉を繋ぐことが看護師の大切な役割である。進んで、地域の医療機関、介護施設、訪問看護ステーションや行政と連携し、無理なく、その人らしい人生を送られるよう支援します。

2017年度評価

地域包括ケアシステムの実践として、昨年度退院支援リンクナース部会を立ち上げました。2017年度は、退院支援のシステム化を目標に、退院調整部門に専任の師長を配置いたしました。その結果、1,360件の退院支援加算を計上し、効率的な病棟運用の一役を担うことが出来ました。認知症患者の理解では、認知症看護の院外研修会に多数参加し、院内でもe-ラーニングでの研修会を開催し、理解に努めています。

全国労災病院共通の看護職員評価ツールとして「労災病院看護部キャリアラダーガイド」が2017年2月に発行され、当看護部でも2017年4月から導入いたしました。現行の評価ツールと基準が異なり、導入には管理者をはじめとした看護職員全員の意思統一が必要でした。説明会を複数回開催し、今後も周知・浸透に努めてまいります。

地域がん診療連携拠点病院として専門性の高い看護を提供する使命があります。専門・認定看護師は医師の説明時に同席、又は看護師独自で説明指導などあらゆる場面で、意思決定支援を行っております。

日本看護協会事業の「労働と看護の質データベースD i N Q L」に2017年度から参加しています。褥瘡、転倒、感染などのデータを入力することにより瞬時に全国の参加病棟とデータの比較ができ、質改善の手掛かりになります。初年度は入力に慣れることが目標でしたが、全病棟の揃っての入力は困難でした。2018年度は確実なデータが得られるよう病棟を選択し参加いたします。

2017年度活動実績

1. 就業状況

表1 看護部職員状況（平成29年4月現在）

	看護師	准看護師	看護補助者	合計
正 規	311	6	1	318
嘱 託	10 (再雇2)	4	19 (再雇1)	33
合 計	321	10	20	351

表2 平成28年度退職者数及び離職率

	退職者数 (内定年・転任)	離職率
正 規	27(2・2)	8.9%(8.3%)
(内新卒)	0	0%

2. 看護実習生の受け入れ

表3 看護実習生受け入れ実績

学校名	回数	延べ人数
釧路労災看護専門学校	33	2,698
釧路市医師会看護専門学校	2	130

3. 小中高校生の職場体験受け入れ

表4 小中高校生 職場体験受け入れ実績

学校名	学年	人数	実施日
北海道教育大学 附属釧路中学校	2年生	3	7月12日~14日
横浜看護専門学校	2年生 3年生	1 1	8月17日
光陽小学校	6年生	3	9月15日
明輝高校	1年生	3	10月11日~12日
共栄中学校	2年生	3	10月20日
弟子屈高等学校	1年生	3	10月23日
釧路市青陵中学校	2年生	3	10月26日
高校生一日看護体験		18	9月26日

4. 施設間交流研修受け入れ

表5 施設間交流研修受け入れ実績

研修内容	所属施設	人数
感染予防	釧路赤十字病院	1
褥瘡予防	谷藤病院・音別診療所・川湯の森 病院・ケアコートひまわり	7
新人教育	釧路赤十字病院	1
腎臓疾患看護	釧路孝仁会記念病院	1
退院支援	市立釧路総合病院・東北海道病院・ 釧路協立病院・音別診療所	5

5. 研修受講状況

研修参加は、表6～9に示す

表6 労働者健康安全機構 参加実績

研修名	人数	研修名	人数
新任管理職研修	2	継続教育担当者研修	2
管理職2年目研修	2	中堅看護師研修	10
医療安全対策研修	1	認知症対応力向上研修	2
管理者研修Ⅰ	3	医療メデイエーション基礎	1
管理者研修Ⅱ	2	両立支援コーディネーター基礎研修	2
管理者研修Ⅲ	1		

表7 北海道看護協会等主催研修 参加実績

研修名	人数	研修名	人数
看護研究—看護研究 計画書の作り方	3	看護職員認知症対応 力向上研修会	2
新人看護職員研修 —実地指導者—	7	家族看護	1
新人看護職員研修 —研修責任者—	1	看護教員・看護教育 担当者の教育実践力 を高める	1
がん化学療法の基礎 知識	1	看護補助者活用推進 のための看護管理	1
看護管理に必要な基 礎知識	1	看護管理者研修ファ ーストレベル	
問題解決	1	医療安全管理者—フ ォローアップ—	1
認知症高齢者の看護 に必要な知識	1	看護職員認知症対応 力向上	1
現場で活かせるリス クマネジメント	1	看護研究学会	3
ELNEC-J高齢者プロ グラム	1	電子カルテ上の看護 記録の書き方	1
エンドオフライフケ ア	1	HIV看護対象研修	1
研究クリティーク	1	看護倫理	3

表8 学会等資格認定取得研修 参加実績

研修名	人数	研修名	人数
がんリハビリテーシ ョン研修	2	ICLS基礎コース	3
ストーマリハビリテ ーション	2	北海道歯科医師会 BSL&DCLSコース	1
特定行為研修 創傷 管理関連	1	看護必要度評価者院 内指導者研修	3
消化器内視鏡技師認 定	1	下部尿路機能障害の 治療とケア	1
栄養サポートチーム 専門療法士	1		

表9 長期研修受講者実績

氏名	研修名	期間
佐藤 千春	専任教員養成講習	平成29年5月 ～平成30年2月

6. 専門看護師・認定看護師公開講座

開催日：平成29年9月30日（土）13：00～17：00

表10 講義内容と参加人数

分野名	研修テーマ	参加人数
がん性疼痛看護	神経障害性疼痛のメカニ ズムと看護	39名
緩和ケア	スピリチュアルケア	41名
感染管理	感染予防は手から～あな たの手はきれいですか	33名
皮膚・排泄ケア	体験しよう。褥瘡予防の ポジショニング	26名

7. 院外講師派遣実績

表11 平成29年度院外講師等派遣実績

実施日	氏名	研修会名	依頼元・対象など
H29. 3. 25	森 美代子	乳がんセルフチェック講習会	医療ソロプチミスト
H29. 6. 18 /8. 5/11. 18	馬場かおり	日本感染管理ベストプラクティス “Saizen研究会”	日本感染管理ベストプラクティス “Saizen研究会”
H29. 8. 28 /9. 5	門脇 郁美	北海道相談員スキルアップ研修	北海道がん診療連携協議会
H29. 9. 16	杉山 好美	看護の動向	北海道看護協会
H29. 9. 3	小野 紫穂	釧路町健康福祉フェスティバル	北海道看護協会
H29. 9. 16	中田 沙織	日本手術看護学会北海道地区セミナーV	日本手術看護学会北海道地区
H29. 9. 23	佐々木祐美	造血幹細胞移植セミナー	北海道大学
H29. 12. 2	中村 公子 本條友里衣	道東地域ストーマケアセミナー	コンパテックジャパン株式会社
H29. 11. 28	三澤由美子 中山 由紀	釧路市医療・介護連携研修会	市立釧路総合病院
H30. 1. 23	馬場かおり	感染症予防研修会	北海道釧路保健所
H30. 1. 27	細木 五月 川口 美帆 小林百合菜 高橋亜優美 加藤 加奈 鈴木 捺緒 田中 里左	北海道歯科医師会BLS&DCLコース	北海道歯科医師会
H30. 2. 3	細木 五月	ICLS講習会	ICLS講習会
H30. 3. 14	馬場かおり	北海道釧路保健所感染症診査協議会	北海道釧路保健所
H30. 3. 24	伊藤 織恵	くしろCKDネットワークキックオフ講演会	釧路CKDネットワーク委員会

表12 非常勤講師派遣実績

学 科 目	時間数	学生	講 師 名	依頼校
基礎看護学方法論 I 安全と感染予防	10時間	1 学年	感染管理認定看護師 馬場かおり	医師会看護専門学校
成人看護学方法論 I 慢性期 糖代謝	11時間	1 学年	師長補佐 大野澄江	医師会看護専門学校
成人看護学方法論 I 透析両方の看護	5 時間	1 学年	透析看護認定看護師 伊藤織恵	医師会看護専門学校
成人看護学方法論 I 呼吸機能障害	14時間	1 学年	師長補佐 斉藤聡子	医師会看護専門学校
成人看護学方法論IV 終末期	10時間	2 学年	がん専門看護師 門脇郁美	医師会看護専門学校
病態治療学 治療法概説（麻酔・放射線）	5 時間	2 学年	放射線認定看護師 野呂あゆみ	医師会看護専門学校
専門基礎分野 感染症額 感染予防	12時間	1 学年	感染管理認定看護師 馬場かおり	釧路労災看護専門学校
専門基礎分野 治療論 放射線療法	4 時間	1 学年	がん放射線療法看護認定看護師 野呂あゆみ	釧路労災看護専門学校
専門基礎分野 治療論 化学療法	8 時間	1 学年	がん化学療法看護認定看護師 村山由佳子	釧路労災看護専門学校
専門基礎分野 看護事故事例	14時間	2 学年	医療安全管理者 伊在井妙子	釧路労災看護専門学校
専門分野 I 臨床看護総論 急性期・周手術期看護	6 時間	2 学年	手術室認定看護師 中田沙織	釧路労災看護専門学校
専門分野 臨床看護総論 終末期看護	2 時間	2 学年	がん専門看護師 門脇郁美	釧路労災看護専門学校
専門分野 臨床看護総論 放射線療法	2 時間	2 学年	がん放射線療法看護認定看護師 野呂あゆみ	釧路労災看護専門学校
専門分野 成人看護学 血液・造血器官系免疫系	10時間	2 学年	がん化学療法看護認定看護師 佐々木祐美	釧路労災看護専門学校

8. 看護研究発表

①院内発表

5西：松井菜摘 野仁美 宮下明子
急性期病院から在宅療養への移行
－在宅療養に向けた退院支援アセスメント
シートの作成－

6西：山崎さやか 佐藤愛華 鈴木ひかる
長谷川舞
脳神経外科病棟における看護師のストレス
実態調査 －看護現場に見られるストレス
要因のチェックリストを用いて－

外来：野呂あゆみ 小野紫穂 江本慎 米坂祥朗
乳房温存手術を受ける患者の放射線皮膚炎
発症予防のためのスキンケア

②院外発表

感染認定看護師：馬場かおり
易感染状態患者の多い病棟でアウトブレイク
した流行性角結膜炎に対する感染対策
第6回日本感染管理ネットワーク学会学術
集会（H29.9.23）

外来：鳥居彩子 三浦郁恵 勝木香奈子
災害を予期した場合の看護師の不安を明らか
にする
第65回日本職業・災害医学学術大会
（H29.11.25）

7東：吉田早織 苦香苗 大西真由美
急性期病院における退院支援の第2段階の
介入方法のあり方
－退院支援に滞りをきたした大腿骨近位部
骨折患者の事例検討－
北海道看護協会釧路支部看護研究合同発表
会（H29.11.25）

がん認定専門看護師：門脇郁美
専門看護師・認定看護師が行うがん相談と
がん患者指導管理料2算定の両立をめぐる
現状
第22回日本緩和医療学術大会（H29.6.24）

がん化学療法看護認定看護師：村山由佳子
佐々木祐美 佐々木朋子 三浦郁恵
野澤美佳 矢澤敏 小林良充 松川敏大

宮城島拓人
外来化学療法センターでE-Ld療法を受け
る患者の内服アドヒアランス向上へ向けた
取り組み
日本癌治療学会学術集会（H29.10.21）

がん化学療法看護認定看護師：佐々木祐美
遠方の地方市中病院における移植後長期フ
ォローアップ外来開設への取り組み
第2回造血幹移植セミナー（H29.9.23）

III. 委員会報告

(1) 委員会一覧	59
(2) 委員会活動報告	
• 倫理委員会	60
• 地域医療支援病院運営委員会	61
• 院内研修委員会	62
• 院内感染対策委員会	63
• 化学療法委員会	64
• 臨床研修管理委員会	66
• 医師研修プログラム委員会	67
• 薬事／臨床研究審査委員会	69
• DPC／クリニカルパス委員会	73
• 地域医療連携総合センター運営委員会	75
• HIV運営委員会	76
• 診療医事業務／査定減対策委員会	77
• 診療情報／個人情報管理委員会	78
• 医療安全推進委員会	80
• 医療情報システム委員会	82
• 機器等整備委員会	84
• 救急診療運営委員会	85
• 緩和医療委員会	86
• 臓器提供委員会	89
• 禁煙実行委員会	90
• がん診療連携拠点病院運営委員会	91
• 診療材料等検討委員会	92
• 血液浄化室安全管理委員会	93
• 在宅医療運営委員会	94
• 公舎管理委員会	95
• 栄養管理／NST委員会	96
• 図書委員会	99
• 省エネルギー推進委員会	100
• 防災委員会	101
• 手術部運営委員会	102
• 輸血療法委員会	103
• 医療ガス安全管理委員会	104
• 褥瘡対策委員会	105
• 放射線部安全運営委員会	107
• 中央検査部管理運営委員会	108
• 保育委員会	110
• 健診業務体制整備委員会	111
• 広報編集委員会	112
• 病院誌「やちぼうず」編集委員会	114
• 衛生委員会	115
• 患者サービス向上委員会	117
• 病院機能評価委員会	119
• ドクターズクラーク運営委員会	120
• 勤務医／看護職員負担軽減対策委員会	121
• 医学系研究利益相反管理委員会	122

委員会一覧

- 倫理委員会
- 地域医療支援運営委員会
- 院内研修委員会
- 院内感染対策委員会
- 化学療法委員会
- 臨床研修管理委員会
- 医師研修プログラム委員会
- 薬事／臨床研究審査委員会
- DPC／クリニカルパス委員会
- 地域医療連携総合センター運営委員会
- HIV運営委員会
- 診療医事業務／査定減対策委員会
- 診療情報／個人情報管理委員会
- 医療安全推進委員会
- 医療情報システム委員会
- 機器等整備委員会
- 救急診療運営委員会
- 緩和医療委員会
- 臓器提供委員会
- 禁煙実行委員会
- がん診療連携拠点病院運営委員会
- 診療材料等検討委員会
- 血液浄化室安全管理委員会
- 在宅医療運営委員会
- 公舎管理委員会
- 栄養管理／NST委員会
- 図書委員会
- 省エネルギー推進委員会
- 防災委員会
- 手術部運営委員会
- 輸血療法委員会
- 医療ガス安全管理委員会
- 褥瘡対策委員会
- 放射線部安全運営委員会
- 中央検査部管理運営委員会
- 保育委員会
- 健診業務体制整備委員会
- 広報編集委員会
- 病院誌「やちぼうず」編集委員会
- 衛生委員会
- 患者サービス向上委員会
- 病院機能評価委員会
- ドクターズクラーク運営委員会
- 勤務医／看護職員負担軽減対策委員会
- 医学系研究利益相反管理委員会

■ 目的と方針

当院で行われる医療行為について、リスボン宣言及び医師の職業倫理指針を尊重して、医の倫理に基づいて適正に行われることを審査する。

■ 委員会の構成

委員：11名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・院内委員：9名
- ・院外委員：2名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日

倫理委員会（1回開催）

回数	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年11月28日	11名	100.0%

■ 審議内容

(1) 2017年11月28日（火）

- ・倫理委員会規程の変更（案）について

地域医療支援病院運営委員会

委員長 野々村 克也

目的と方針

本委員会は、地域のかかりつけ医等からの要請に適切に対応し、地域における医療の確保のために必要な支援を行うように定めた、地域医療支援病院に関する事項について審議し、外部委員から病院の管理者に意見を述べるものとする。

- 業務実績報告について
- 釧路労災病院に対する要望等事項について

(4) 2018年3月22日(木)「大会議室」

- 業務実績報告について
- 釧路労災病院に対する要望等事項について

2018年度の目標

- (1) 地域医療機関からの紹介患者に対する医療提供を行い、地域医療支援病院の承認要件の達成。
- (2) 地域医療機関との医療機器及び開放病床などの共同利用の促進。
- (3) 救急医療の提供。
- (4) 地域の医療従事者及び市民への研修会や講演会の実施。

委員会の構成

委員：21名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

〔内 訳〕

- 院内委員：11名
- 院外委員：10名

年間活動内容と実績

2017年度開催日と協議内容

地域医療支援病院運営委員会（4回開催）

開催日	出席人数	出席率
2017年5月18日(木)	19名	90.1%
2017年8月28日(月)	21名	100.0%
2017年12月12日(火)	21名	100.0%
2018年3月22日(木)	17名	81.0%

審議内容

(1) 2017年5月18日(木)「大会議室」

- 業務実績報告について
- 平成28年度患者満足度調査報告
- 釧路労災病院に対する要望等事項について

(2) 2017年8月28日(月)

- 業務実績報告について
- 釧路労災病院に対する要望等事項について

(3) 2017年12月12日(火)

年間活動実績

業務実績	29年度実績
紹介率	70.1%
逆紹介率	53.5%
開放病床	
医科	0件
歯科	3件
高額医療機器共同利用	
リニアック	205件
CT	43件
MR I	8件
内視鏡	2件
登録医図書室利用	3件
カンファレンス参加状況	
医科	1件
歯科	9件
講演会	
医療従事者向け講演会	8回
市民向け講演会等	8回
研修会等	3回

■ 目的と方針

院内研修委員会は職員研修会の企画及び実施を円滑に遂行し、職員の資質向上を図ることを目的とする。

■ 2018年度の目標

研修会の開催時期、開催時間等を検討し参加人数の増を目指す。

■ 委員会の構成

委員：14名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内訳]

- ・医師：2名
- ・看護師：1名
- ・医療職：5名
- ・看護学校教員：1名
- ・事務局：5名

■ 年間活動内容

(1) 2017年11月29日(水)「小会議室」

- ・平成30年度職員研修会に係る開催計画の原案作成

(2) 2018年2月7日(水)「持ち回り開催」

- ・平成30年度院内研修委員会規程について、院内必須研修に係る委員会(院内感染対策委員会及び医療安全推進委員会)の委員を本委員会の委員として追加
- ・平成30年度職員研修会に係る開催計画について承認

■ 年間活動実績

2017年度研修会開催実績

開催日	開催時間	講師	参加人数
4月26日	12:30-13:00 17:30-18:00 18:10-18:40	「ケアの現場の言葉遣いとコミュニケーション」 【講師】株式会社日本医業総研東京本社 人材コンサルティング部 主任 石川恵氏 (学研メディカルサポート)	121
5月30日	17:30~19:00	病院スタッフのためのコンプライアンス 【講師】行政書士/法教育研究者 二瓶裕史氏	65
6月16日	18:00~19:00	インフォームドコンセントの注意点(医療安全研修) 【講師】あたと法律事務所 滝澤秀俊氏	187
7月13日	18:00~19:00	食中毒(医療関連感染対策研修) 【講師】ファイザー株式会社 吉川修氏	216
8月9日	18:00~19:00	認知症者が健康に過ごせるように私たちが出来ること 【講師】市立釧路総合病院 認知症看護認定看護師 岩浅庄一氏	78
9月22日	18:00~19:00	釧路・道東地域における地域医療構想について 【講師】釧路総合振興局 保健環境部長(釧路保健所長) 杉澤孝久氏	79
10月25日	18:00~19:00	それハラスメントです!と言われたいために ~職場内の発言・行動の留意点と防止対策~ 【講師】はるとり法律事務所 弁護士 篠田奈保子氏	74
12月18日	18:00~19:00	医療事故調査制度の概要と問題点 ~施行から2年が経過して~ (医療安全研修) 【講師】北海道大学病院医療安全管理部 教授・部長 南須原康行氏	232
1月18日 1月26日	18:00~19:00	飛沫感染予防と新型インフルエンザ対策(医療関連感染対策研修) 【講師】感染管理認定看護師 馬場かおり氏	297

院内感染対策委員会

委員長 宮城島 拓 人

■ 目的と方針

MRSA・HBV・HCV等の感染の防止に資することを目的とした病院長の諮問機関とする。

■ 2018年度の目標

- (1) 院内感染の調査研究
- (2) 院内感染の防止対策
- (3) 院内感染症に対する職員の啓発

■ 委員会の構成

委員：21名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

【内 訳】

- ・医師：7名
- ・看護師：4名
- ・医療職：5名
- ・事務局：5名

■ 年間活動

	開催日	出席人数	出席率
第1回	4月18日(火)	19名	90%
第2回	5月16日(火)	19名	90%
第3回	6月20日(火)	21名	100%
第4回	7月18日(火)	20名	95%
第5回	8月15日(火)	20名	95%
第6回	9月19日(火)	20名	95%
第7回	10月17日(火)	19名	90%
第8回	11月21日(火)	19名	90%
第9回	12月19日(火)	20名	95%
第10回	1月16日(火)	21名	100%
第11回	2月20日(火)	19名	90%
第12回	3月20日(火)	19名	90%

■ 審議内容

- (1) 2017年4月18日(火)「小会議室」
 - ・医療安全手帳の内容について
 - ・平成28年度針刺し・血液曝露事故結果
- (2) 2017年5月6日(火)「小会議室」
 - ・各病棟の冷蔵庫内にある職員の私物飲料水について
 - ・インフルエンザ発生状況について
- (3) 2017年6月20日(火)「小会議室」
 - ・冷却塔水のレジオネラ培養検査報告
 - ・患者浴槽水のレジオネラ培養検査報告

- (4) 2017年7月18日(火)「小会議室」
 - ・院内感染対策マニュアルの改定について
 - ・検出菌薬剤別感受性報告
- (5) 2017年8月15日(火)「小会議室」
 - ・給水・給湯のレジオネラ培養検査報告
 - ・冷却塔水のレジオネラ培養検査報告
- (6) 2017年9月19日(火)「小会議室」
 - ・職員研修会の実施報告について
- (7) 2017年10月17日(火)「小会議室」
 - ・水回りのゾーニングについて
 - ・相互評価ラウンドについて
- (8) 2017年11月21日(火)「小会議室」
 - ・検出菌薬剤別感受性率報告について
- (9) 2017年12月19日(火)「小会議室」
 - ・感染防止対策加算地域連携相互ラウンド結果について
 - ・消化器軟性内視鏡定期培養検査報告
- (10) 2018年1月16日(火)「小会議室」
 - ・保健所立入監査の指摘事項について
 - ・腫瘍菌種別抗菌薬感性率一覧表について
- (11) 2018年2月20日(火)「小会議室」
 - ・平成30年度委員会規定(案)について
 - ・抗菌薬適正使用支援チーム(AST)規程について
- (12) 2018年3月20日(火)「小会議室」
 - ・平成30年度ICTラウンド年間計画表について

■ 年間活動実績

- ・MRSA・MDRP発生報告
- ・主な細菌検出と針刺し状況報告
- ・院内ラウンド報告
- ・耐性菌ラウンド報告
- ・材料・診療科・病棟別検出菌数報告
- ・4類・5類感染症発生件数報告
- ・保育所・栄養管理室、大腸菌検出報告
- ・抗生剤・抗MRSA薬使用状況報告
- ・他施設とのカンファレンス報告

目的と方針

本委員会は、当院における外来化学療法を安全に実施することを目的とする。

2018年度の目標

- 化学療法室の円滑な運営を図るため、また、外来化学療法センター開設に向けて、化学療法の運営に関する事項、その他必要と認められる事項を審議する。
- 院内化学療法レジメンの妥当性を審議し、整備する。
- 化学療法に関する実績分析と安全対策に関することを審議する。

委員会の構成

委員：14名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

【内 訳】

- 医師：5名
- 看護師：4名
- 医療職：3名
- 事務局：2名

年間活動

2017年度開催日と審議内容、実績

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年6月21日(水)	14名	100.0%
第2回	2017年9月12日(火)	13名	92.9%
第3回	2017年12月26日(火)	12名	100.0%
第4回	2018年3月19日(月)	13名	100.0%

審議内容

(1) 2017年6月22日(火)「化学療法センター内カンファレンスルーム」

- 平成29年度委員会規定について
- 新規プロトコルの申請(4件)
- 免疫チェックポイント阻害薬に係るマニュアル制定等の申請について
- がん患者に係るDPC対策の一案について
- 化学療法に係る説明同意書の改訂について
- IR症状出現時のGrade評価及び、フローチャート
- 抗癌剤投与後の廃棄方法について
- DCビーズの運用について

- 平成28年度及び29年度入院・外来化学療法室別患者数調べ

(2) 2017年9月12日(火)「化学療法センター内カンファレンスルーム」

- 新規プロトコルの申請(3件)
- 免疫チェックポイント阻害薬オーダーセットについて
- がん患者におけるDPC対策の一案について
- 免疫チェックポイント阻害薬連携チーム規程について
- 平成29年度入院・外来化学療法室別患者数調べ

(3) 2017年12月26日(火)「化学療法センター内カンファレンスルーム」

- 新規プロトコルの申請(1件)
- 平成29年度入院・外来化学療法室別患者数調べ
- 化学療法センター患者に対する待ち時間等のアンケートについて
- 免疫チェックポイント阻害薬に係る教育セミナーについて

(4) 2018年3月19日(月)「化学療法センター内カンファレンスルーム」

- 新規プロトコルの申請(4件)
- 夜間救急時における免疫チェックポイント阻害薬(ICI)使用患者の受診対応について
- 年度末における化学療法オーダーにかかる入力の依頼について
- 平成29年度入院・外来化学療法室別患者数調べ
- 化学療法時の体重の誤入力防止策について

■ 年間活動実績

● 外来化学療法件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
377	388	438	431	422	372	387	417	370	396	351	352	4,701

※対前年度比：+185件の増

● 入院化学療法件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
224	281	322	252	229	169	251	275	249	241	252	256	3,001

※対前年度比：▲432件の増

■ 目的と方針

臨床研修管理委員会は、臨床研修医（初期・後期）の受入等について円滑な実施を図ることを目的とする。

■ 2018年度の目標

臨床研修プログラムの策定、見直し、臨床研修医の受入体制の整備、臨床研修実施計画を立案し、臨床研修医の評価及び修了認定を行う。

■ 委員会の構成

委員：27名

（2018年3月現在、委員長・書記を含む）

【内 訳】

- ・医師：12名
- ・看護師：1名
- ・医療職：1名
- ・事務局：5名
- ・外部委員：8名

■ 年間活動内容と実績

2018年度開催日

臨床研修管理委員会（1回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2018年3月20日(火)	24名	88.9%

■ 審議内容

（1）2018年3月20日（火）「小会議室」

- ・平成30年度臨床研修総合講座（案）について
- ・平成30年度委員会規程・運営方針・構成（案）について
- ・臨床研修医の研修状況について
- ・平成30年度初期臨床研修（1年次）ローテーション（案）について
- ・北海道の臨床研修病院合同プレゼンテーション2018札幌について
- ・北海道大学たすき掛け研修医の評価方法について

医師研修プログラム委員会

委員長 宮城島 拓 人

■ 目的と方針

医師研修プログラム委員会は、臨床研修医および専攻医の研修に対し、円滑な実施及び評価を図ることを目的とする。

■ 2018年度の目標

臨床研修プログラムの策定、見直し、臨床研修医の受入体制の整備、臨床研修実施計画を立案し、臨床研修医の評価及び修了認定を行う。また、各基幹施設に設置される管理委員会と連携を図り、プログラム委員会として専攻医の研修を管理、評価する。

■ 委員会の構成

委員：19名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：12名
- ・看護師：1名
- ・医療職：1名
- ・事務局：5名

■ 年間活動

2018年度開催日

医師研修プログラム委員会 (11回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年4月18日(火)	17名	89.5%
第2回	2017年5月16日(火)	17名	89.5%
第3回	2017年6月20日(火)	16名	84.2%
第4回	2017年7月18日(火)	15名	78.9%
第5回	2017年8月15日(火)	15名	78.9%
第6回	2017年9月19日(火)	16名	84.2%
第7回	2017年10月17日(火)	15名	78.9%
第8回	2017年11月21日(火)	17名	89.5%
第9回	2017年12月19日(火)	18名	94.7%
第10回	2018年1月16日(火)	17名	89.5%
第11回	2018年2月20日(火)	16名	84.2%

■ 審議内容

(1) 2017年4月18日(火)「小会議室」

- ・委員会規程について
- ・臨床研修医の研修状況について
- ・臨床研修病院合同説明会への参加について
- ・指導医の養成について

(2) 2017年5月16日(火)「小会議室」

- ・臨床研修医の研修状況について
- ・臨床研修病院合同説明会への参加について
- ・北海道の臨床研修病院合同プレゼンテーション2017札幌の結果報告
- ・マッチングスケジュールについて
- ・臨床研修指導医講習会参加状況

(3) 2017年6月20日(火)「小会議室」

- ・平成30年度から研修を開始する研修医の募集定員について
- ・臨床研修医の研修状況について
- ・レジキャリアフェアの結果報告
- ・臨床研修病院合同説明会への参加について
- ・臨床研修医向けの書籍について

(4) 2017年7月18日(火)「小会議室」

- ・臨床研修医の研修状況について
- ・レジナビフェアの結果報告
- ・病院見学・マッチング面接等の実施状況について
- ・平成30年度から研修を開始する研修医の募集定員について
- ・医学生の見学受け入れについて

(5) 2017年8月15日(火)「小会議室」

- ・臨床研修医の研修状況について
- ・病院見学・マッチング面接等の実施状況について

(6) 2017年9月19日(火)「小会議室」

- ・臨床研修医の研修状況について
- ・マッチング登録について
- ・指導医講習会の参加について

(7) 2017年10月17日(火)「小会議室」

- ・「基本的臨床評価試験」の実施について
- ・臨床研修医の研修状況について
- ・マッチング登録について
- ・平成29年度北海道大学病院からのたすき掛け受入人数について
- ・日本医科大学千葉北総病院医師臨床研修プログラム地域医療研修における臨床研修医の受入について

- (8) 2017年11月21日 (火) 「小会議室」
- 臨床研修医の研修状況について
 - 平成30年度臨床研修医採用状況について
 - 2017年度「基本的臨床能力評価試験」の実施について
 - 臨床研修病院実地調査について

- (9) 2017年12月19日 (火) 「小会議室」
- 臨床研修医の研修状況について
 - 平成30年度臨床研修病院合同説明会への参加について

- (10) 2018年1月16日 (火) 「小会議室」
- 臨床研修医の研修状況について
 - 平成30年度北海道大学病院からのたすき掛け受入について
 - 平成30年度初期臨床研修（2年次）ローテーション（案）について
 - 臨床研修管理委員会の開催について
 - 臨床研修病院実地調査について
 - 「基本的臨床評価試験」の実施について
 - 平成30年度臨床研修病院合同説明会への参加について

- (11) 2018年2月20日 (火) 「小会議室」
- 平成30年度臨床研修総合講座（案）について
 - 平成30年度臨床研修合同説明会について
 - 臨床研修医の研修状況について
 - 平成30年度初期臨床研修（1年次）ローテーション（案）について
 - 平成30年度初期臨床研修（2年次）ローテーション（案）について
 - 平成29年度臨床研修病院実地調査結果について

2017年度採用活動

- (1) 北海道の臨床研修病院合同プレゼンテーション2017札幌
会場：札幌パークホテル
日時：平成29年4月23日（日）
- (2) 2017年レジキャリアフェア東京
会場：秋葉原UDX
日時：平成29年6月11日（日）
- (3) 2017年レジナビフェア東京
会場：東京ビックサイト
日時：平成29年7月16日（日）

2017年度採用状況

試験申込数：4名

この4名について、マッチング協議会が行うマッチング制度にかけた結果、当院の臨床研修医受入枠が3名のところ、2名がマッチング確定となった。また、二次募集の選考結果、1名が確定となった。

平成30年度臨床研修医数は1年次3名、2年次1名の合計4名となった。

(薬 事)

■ 目的と基本方針

薬事委員会は、薬剤的観点から診療業務の向上と病院経営に寄与することを目的とし、医薬品の管理・新規医薬品の採用及び既採用医薬品の見直し並びに院内製剤等薬事全般に関わる事項を検討し、医薬品の適正使用を推進する。

■ 2018年度の目標

診療業務に必要な医療安全上の観点から患者のニーズを尊重し最適な医薬品を選定する。また、各科医師の協力を得て採用医薬品の見直しを行い、採用医薬品数の削減に努めるとともに、後発医薬品およびバイオシミラーの採用を推進し、病院経営に貢献する。

■ 委員会の構成

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

委員：12名

委員：16名

(薬事)〔内訳〕

(臨床研究審査)〔内訳〕

- | | |
|--------------|--------------|
| • 医師：6名 | • 医師：7名 |
| • 看護師：1名 | • 看護師：1名 |
| • 医療安全管理者：1名 | • 医療安全管理者：1名 |
| • 医療職：2名 | • 医療職：2名 |
| • 事務局：2名 | • 事務局：2名 |
| | • 外部有識者：2名 |

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と議事内容

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年4月17日(月)	8名	66.7%
第2回	2017年5月22日(月)	10名	83.3%
第3回	2017年6月12日(月)	9名	75.0%
第4回	2017年7月10日(月)	9名	75.0%
第5回	2017年8月22日(月)	11名	91.7%
第6回	2017年9月11日(月)	7名	58.3%
第7回	2017年10月16日(月)	8名	66.7%
第8回	2017年11月13日(月)	9名	75.0%
第9回	2017年12月11日(月)	9名	75.0%
第10回	2018年1月15日(月)	11名	91.7%
第11回	2018年2月15日(月)	10名	83.3%
第12回	2018年3月12日(月)	9名	75.0%

■ 審議内容

(1) 2017年4月17日(月)「中会議室」

- 1) 薬事委員会規定を改定し、経営企画課を委員から除き、新たに医療安全管理者を委員に任命した。
 - 採用薬) 注射薬2品目 内服薬3品目
外用薬0品目
 - 削除薬) 注射薬2品目 内服薬2品目
外用薬1品目

(2) 2017年5月22日(月)「中会議室」

- 1) 先発薬品から後発薬品の「オクトレオチド皮下注用100 μ g」と「ゾレドロン酸点滴静注100mLバッグ」への切替えが承認された。
- 2) 「医薬品共同入札に係る成分名くくり品目リスト」から7品目を共同入札により購入する事が承認された。
 - 採用薬) 注射薬3品目 内服薬1品目
外用薬0品目
 - 削除薬) 注射薬3品目 内服薬1品目
外用薬0品目

(3) 2017年6月12日(月)「中会議室」

- 1) 「レミケード点滴静注用100」のバイオシミラーを先発薬の用法追加後に採用する事が承認された。
 - 採用薬) 注射薬2品目 内服薬4品目
外用薬0品目 (院外専用薬1品目含)
 - 削除薬) 注射薬2品目 内服薬3品目
外用薬0品目

(4) 2017年7月10日(月)「中会議室」

- 採用薬) 注射薬1品目 内服薬6品目
外用薬0品目 (院外専用薬3品目、規格追加1品目含)
- 削除薬) 注射薬1品目 内服薬2品目
外用薬0品目

(5) 2017年8月21日(月)「中会議室」

- 1) 先発薬品から後発薬品の「エスワンタイホウ配合OD錠T20・25」と「エンテカビルOD錠0.5mg」への切替えが承認された。
 - 採用薬) 注射薬1品目 内服薬7品目
外用薬3品目 (院外専用薬5品目含)

- 削除薬) 注射薬 1 品目 内服薬 4 品目
外用薬 1 品目

(6) 2017年9月11日 (月) 「中会議室」

- 1) 手術・内視鏡時の抗血栓薬一覧の改定についての審議を行い承認された。
- 採用薬) 注射薬 0 品目 内服薬 5 品目
外用薬 1 品目 (院外専用薬 2 品目含)
- 削除薬) 注射薬 0 品目 内服薬 3 品目
外用薬 1 品目

(7) 2017年10月16日 (月) 「中会議室」

- 1) 先発薬品から後発薬品の「ロクロニウム臭化物静注用50mg」への切替が承認された。
- 2) 「最適使用推進ガイドラインの取扱い (厚生労働省作成)」を抗癌剤・免疫チェックポイント阻害剤使用時に遵守する事を確認した。
- 採用薬) 注射薬 1 品目 内服薬 5 品目
外用薬 0 品目 (院外専用薬 5 品目含)
- 削除薬) 注射薬 1 品目 内服薬 0 品目
外用薬 0 品目

(8) 2017年11月13日 (月) 「中会議室」

- 1) 使用量が少ない薬品の削除アンケート調査を行う事が承認された。
- 採用薬) 注射薬 2 品目 内服薬 7 品目
外用薬 0 品目 (院外専用薬 3 品目含)
- 削除薬) 注射薬 1 品目 内服薬 5 品目
外用薬 0 品目

(9) 2017年12月11日 (月) 「中会議室」

- 1) 削除薬品の品目を提示しアンケートを行う事が承認された。
- 2) 「ゼチーア錠」を共同入札する為にメーカー変更を行う事が承認された。
- 採用薬) 注射薬 0 品目 内服薬 2 品目
外用薬 1 品目 (院外専用薬 1 品目、
院内製剤 1 品目含)
- 削除薬) 注射薬 0 品目 内服薬 1 品目
外用薬 0 品目

(10) 2018年1月15日 (月) 「中会議室」

- 1) 削除薬品アンケートにより決定された薬品を削除薬品とし、緊急購入薬を新規採用薬に移行する事が承認された。
- 2) 「院外処方箋における事前合意のプロトコル (案)」について審議した。

- 3) 「手術・侵襲的手技時に休薬を要する薬剤の中止期間」を改定した。

- 採用薬) 注射薬 1 品目 内服薬 6 品目
外用薬 1 品目 (院外専用薬 3 品目含)
- 削除薬) 注射薬 1 品目 内服薬 4 品目
外用薬 0 品目

(11) 2018年2月19日 (月) 「中会議室」

- 1) 「院外処方箋における事前合意のプロトコル (案)」の改定案 (ver0.9からver1.0改訂) について審議し承認された。
- 2) 薬事委員会規定の改定が承認され、「医薬品の適正使用」が追加された。
- 採用薬) 注射薬 1 品目 内服薬 9 品目
外用薬 1 品目 (院外専用薬 3 品目含)
- 削除薬) 注射薬 3 品目 内服薬 4 品目
外用薬 1 品目

(12) 2018年3月12日 (月) 「中会議室」

- 1) 「医薬品の適応外使用に係る保険診療上の取扱い (厚労省)」について審議した。
- 2) 薬事委員会規定の改定が承認され、「委任状での出席」が追加された。
- 採用薬) 注射薬 0 品目 内服薬 4 品目
外用薬 1 品目 (院外専用薬 1 品目含)
- 削除薬) 注射薬 0 品目 内服薬 3 品目
外用薬 1 品目

■ 年間活動実績

(2017年度採用・削除薬品 総計)

		品目数 (内 後発薬品数)	
採用薬品数	内服薬	59	8
	注射薬	14	4
	外用薬	8	1
合 計	(院外専用薬27品目含む)	81	13
削除薬品数	内服薬	32	6
	注射薬	15	1
	外用薬	5	0
合 計		52	7

(臨床研究)**■ 目的と基本方針**

本委員会は、当院で実施される臨床研究が、「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」、「医療機器の臨床試験の実施の基準に関する省令」、「個人情報の保護に関する法律」及び、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」に基づいて、科学的かつ倫理的に実施されることを目的とする。

■ 2018年度の目標

- (1) 機構の治験ネットワークなどを利用した開発治験を実施するための審議を行う。
- (2) 医師主導による臨床研究を実施するための審議を行う。
- (3) 医薬品の製造販売後の調査実施のための審議を行う。
- (4) 医薬品の副作用詳細調査報告のための審議を行う。

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と協議内容

臨床研究審査委員会開催日 (11回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年4月17日(月)	10名	71.4%
第2回	2017年5月22日(月)	12名	85.7%
第3回	2017年6月12日(月)	10名	71.4%
第4回	2017年7月10日(月)	10名	71.4%
第5回	2017年4月21日(月)	13名	92.9%
第6回	2017年4月22日(月)	9名	64.3%
第7回	2017年1月16日(月)	11名	78.6%
第8回	2017年2月13日(月)	11名	78.6%
第9回	2017年3月13日(月)	12名	85.7%
第10回	2017年3月14日(月)	11名	78.6%
第11回	2017年3月15日(月)	12名	85.7%

■ 協議内容**(1) 2017年4月17日(月)「中会議室」**

審議事項

- ・新規申請 臨床研究 2件
製造販売後調査 1件

- ・委員会規定の改訂

第2条(3)委員「経営企画課長」の削除

(2) 2017年5月22日(月)「中会議室」

審議事項

- ・新規申請治験 1件 臨床研究 1件
- ・治験実施に関する標準業務手順書(SOP)の改訂
病院名及び委員会名称の変更・押印省略に関する

手順書(補遺)の追加

報告事項(迅速審査)

- ・新規申請 製造販売後調査 5件
- ・継続申請 臨床研究 6件

(3) 2017年6月12日(月)「中会議室」

審議事項

- ・新規申請 臨床研究 2件

報告事項(迅速審査)

- ・継続申請 臨床研究 3件
製造販売後調査 2件

(4) 2017年7月10日(月)「中会議室」

審議事項

- ・新規申請 臨床研究 1件

- ・継続申請 治験 1件

報告事項(迅速審査)

- ・新規申請 製造販売後調査 2件
副作用詳細調査 1件

- ・継続申請 臨床研究 1件

製造販売後調査 6件

(5) 2017年8月21日(月)「中会議室」

審議事項

- ・新規申請 臨床研究 3件

- ・継続申請治験 1件

報告事項(迅速審査)

- ・新規申請 製造販売後調査 2件

- ・継続申請 臨床研究 1件

(その他)

- ・労働者健康安全機構治験ネットワーク 現状報告

(6) 2017年9月11日(月)「中会議室」

審議事項

- ・新規申請 臨床研究 4件

報告事項(迅速審査)

- ・新規申請 製造販売後調査 1件

- ・継続申請 臨床研究 5件

製造販売後調査 2件

(7) 2017年11月13日(月)「中会議室」

審議事項

- ・新規申請 治験 1件 臨床研究 3件

報告事項

- ・終了報告 治験 1件 臨床研究 1件

(迅速審査)

- ・新規申請 副作用詳細調査 1件

- 継続申請 臨床研究 3件

(8) 2017年12月11日(月)「中会議室」

審議事項

- 新規申請 臨床研究 3件

報告事項(迅速審査)

- 新規申請 臨床研究 1件
製造販売後調査 2件
- 継続申請 臨床研究 1件

(9) 2018年1月15日(月)「中会議室」

審議事項

- 新規申請 臨床研究 1件

報告事項(迅速審査)

- 新規申請 製造販売後調査 1件
(その他)
- 労働者健康安全機構治験ネットワーク 現状報告

(10) 2018年2月19日(月)「中会議室」

審議事項

- 新規申請 臨床研究 4件
- 継続申請 治験 1件

報告事項(迅速審査)

- 継続申請 治験 1件 製造販売後調査 1件

(11) 2018年3月12日(月)「中会議室」

審議事項

- 新規申請 臨床研究 1件
- 継続申請 治験 1件 臨床研究 2件

報告事項(迅速審査)

- 新規申請 製造販売後調査 1件
副作用詳細調査 1件

■ 年間活動実績

- 新規申請 治験 2件 臨床研究 26件
製造販売後調査 13件
副作用詳細調査 3件
- 継続申請 治験 5件 臨床研究 22件
製造販売後調査 11件

■ 目的と方針

DPC／クリニカルパス委員会は、DPC対象病院の要件である適切なコーディングを行う体制を確保するための委員会として設置され、医療の標準化と透明化を計り、医療サービスの質の向上およびクリニカルパスの効果的な運用と経営の改善を目的とする。

■ 2018年度の目標

- ・院内電子クリニカルパスの新規作成及び見直し
- ・クリニカルパス勉強会の開催
- ・DPC請求における適切なコーディングの検証

■ 委員会の構成

委員：26名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

【内 訳】

- ・医師：7名
- ・看護師：4名
- ・医療職：5名
- ・事務局：10名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と審議内容

DPC／クリニカルパス委員会開催日（11回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年4月20日(木)	17名	65.4%
第2回	2017年5月18日(木)	16名	61.5%
第3回	2017年6月15日(木)	17名	65.4%
第4回	2017年7月20日(木)	17名	65.4%
第5回	2017年8月17日(木)	16名	61.5%
第6回	2017年10月19日(木)	17名	65.4%
第7回	2017年11月22日(木)	20名	76.9%
第8回	2017年12月21日(木)	19名	73.1%
第9回	2018年1月18日(木)	15名	57.7%
第10回	2018年2月15日(木)	17名	65.4%
第11回	2018年3月15日(木)	14名	53.8%

■ 審議内容

(1) 2017年4月20日(木)「大会議室」

- ・DPC/クリニカルパス委員会規程(案)について
- ・クリニカルパス委員会の組織構成(案)について

(2) 2017年5月18日(木)「大会議室」

- ・クリニカルパス教育セミナーの案内について
- ・クリニカルパスに係る活動報告について

- ・DPC分析について

(3) 2017年6月15日(木)「大会議室」

- ・クリニカルパスに係る活動報告について
- ・DPC分析について

(4) 2017年7月20日(木)「大会議室」

- ・新規作成クリニカルパスの承認について
- ・大腸ポリープ切除術パスの内容修正について
- ・クリニカルパスに係る活動報告について
- ・適切なコーディングについて
- ・DPC分析について

(5) 2017年8月17日「大会議室」

- ・新規作成クリニカルパスの承認について
- ・クリニカルパス使用患者における入院診療計画書について
- ・DPC分析について
- ・クリニカルパスに係る活動報告について

(6) 2017年10月19日(木)「大会議室」

- ・新規作成クリニカルパスの承認について
- ・適切なコーディングについて
- ・クリニカルパスに係る活動報告について
- ・DPC分析について

(7) 2017年11月22日(木)「大会議室」

- ・新規作成クリニカルパスの承認について
- ・DPC分析について
- ・クリニカルパスに係る活動報告について

(8) 2017年12月21日(月)「大会議室」

- ・新規作成クリニカルパスの承認について
- ・患者説明用パスの統一について
- ・市立鉏路総合病院クリニカルパス大会について
- ・適切なコーディングについて
- ・DPC分析について
- ・クリニカルパスに係る活動報告について

(9) 2018年1月18日(木)「大会議室」

- ・患者説明用パスの統一について
- ・DPC分析について
- ・クリニカルパスに係る活動報告について

(10) 2018年2月15日(木)「大会議室」

- 平成30年度DPC/クリニカルパス委員会規程(案)について
- 新規作成クリニカルパスの承認について
- DPC分析について
- クリニカルパスに係る活動報告について

(11) 2018年3月15日(木)「大会議室」

- 新規作成クリニカルパスの承認について
- 適切なコーディングについて
- DPC分析について
- クリニカルパスに係る活動報告について

■ 年間活動実績

【クリニカルパス作成に係る活動について】

- BOMを導入したクリニカルパスの作成(47件)
- バリエーション分析の実施

【適切なコーディングについて】

	事 例	検 証
6月	詳細不明コードの検証	悪性腫瘍疾患の中で詳細不明コード率が高かった肺癌に着目し、医師に詳細部位の記載を依頼した。
10月	胆石症と胆石性胆のう炎のコーディング検証	術前経過に着目し、胆石発作や痛みの訴えなどから炎症ありとしコーディングを変更した。
12月	詳細不明コードの検証	心原性脳梗塞を強く疑っていたが、脳動脈内に血液の途絶があり、動脈硬化性が強く、アテローム血栓性脳梗塞に変更した。
3月	副傷病名について	大腸癌の症例について、術前経過の記事に着目し、結腸狭窄症の副傷病を登録した症例について報告した。

【DPC分析について】

新規作成されたクリニカルパスに対し、DPCコードから症例の検証を行い、収益的観点より設定された在院日数が適切であるか分析を行った。

地域医療連携総合センター運営委員会

委員長 宮城島 拓 人

■ 目的と方針

本委員会は、地域医療連携総合センターの円滑な運営を行うため、各部門より報告を行い、情報共有し連携を図ることで、地域医療の質の向上に貢献寄与することを目的とする。また、機能分担、専門性を明確にした他医療施設との連携強化を推進する。

■ 2018年度の目標

- (1) 地域医療機関との連携強化（広報誌等による情報提供）
- (2) 退院調整部門とMSWの連携を密に行いスムーズな退院・転院をサポートする
- (3) 治療就労両立支援事業の強化（両立支援相談窓口の充実）
- (4) 入退院支援の検討

■ 委員会の構成

委員：23名

（2018年3月現在、委員長・書記を含む）

[内 訳]

- ・医師：9名
- ・看護師：5名
- ・医療職：2名
- ・事務局：7名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と協議内容

地域医療連携総合センター運営委員会（6回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年4月27日(木)	23名	100.0%
第2回	2017年6月22日(木)	23名	100.0%
第3回	2017年8月24日(木)	21名	91.3%
第4回	2017年10月19日(木)	23名	100.0%
第5回	2017年12月20日(木)	22名	95.7%
第6回	2018年2月19日(月)	23名	100.0%

■ 審議・報告内容

(1) 2017年4月27日(木)「大会議室」

- ・委員会規程変更について
- ・紹介率／逆紹介率、地域医療支援病院関係報告
- ・退院調整実績報告
- ・退院施設入所等動向報告 がん相談件数報告
- ・両立支援相談窓口の設置についての報告

(2) 2017年6月22日(木)「大会議室」

- ・紹介率／逆紹介率、地域医療支援病院関係報告
- ・退院調整実績報告
- ・退院施設入所等動向報告 がん相談件数報告
- ・治療就労両立支援の取組について報告
- ・釧路市つながり手帳についての報告

(3) 2017年8月24日(木)「大会議室」

- ・紹介率／逆紹介率、地域医療支援病院関係報告
- ・退院調整実績報告
- ・退院施設入所等動向報告 がん相談件数報告
- ・治療就労両立支援業務報告

(4) 2017年10月19日(木)「大会議室」

- ・紹介率／逆紹介率、地域医療支援病院関係報告
- ・退院調整実績報告
- ・退院施設入所等動向報告 がん相談件数報告
- ・治療就労両立支援業務報告
- ・CCLサロン当院開催についての報告

(5) 2017年12月20日(水)「大会議室」

- ・紹介率／逆紹介率、地域医療支援病院関係報告
- ・退院調整実績報告
- ・退院施設入所等動向報告 がん相談件数報告
- ・治療就労両立支援業務報告
- ・レスパイト入院の受入れについての報告

(6) 2018年2月19日(月)「大会議室」

- ・紹介率／逆紹介率、地域医療支援病院関係報告
- ・退院調整実績報告
- ・退院施設入所等動向報告 がん相談件数報告
- ・治療就労両立支援業務報告
- ・平成29年度病病・病診連携サービス実態調査について報告
- ・平成30年度診療報酬改定についての報告

■ 年間活動実績

- ・2017年度「紹介率」70.1%
「逆紹介率」53.5%
- ・登録医 175名 登録医療機関数 145期間
2018年3月末現在
- ・地域医療連携総合センター業務報告及び検討課題
について、隔週金曜日に実施
開催22回

目的と方針

H I V 運営委員会は、エイズ患者の診断的治療のケア実践及び近隣地域住民を対象にエイズ・性感染症に関する正しい知識の普及・啓発の推進を図ることを目的とする。

2018年度の目標

本委員会は、エイズ患者の診断的治療のケア実践及び近隣地域住民を対象にエイズ・性感染症に関する正しい知識の普及・啓発の推進を図るため、以下の活動を行う。

- 1 近隣医療機関（拠点病院、協力病院等）へのH I V 診療支援及び連携、研修の実施と情報提供による人材育成。（道東地区エイズ拠点病院等連絡協議会・研修会等）
- 2 エイズ・性感染症の予防・啓発に関する支援活動。（H I V 抗体検査会、師走講演会等）
- 3 エイズ・性感染症の予防・啓発に関する情報の収集・発信及び職員の教育。
- 4 エイズ患者における診療体制に関すること。
- 5 その他、当方針を達成するために必要な事案の実施。

委員会の構成

委員：17名

（2018年3月現在、委員長・書記を含む）

【内 訳】

- ・医 師：4名
- ・看 護 師：3名
- ・医 療 職：3名
- ・心 理 判 定 員：1名
- ・M S W：1名
- ・事 務 局：5名

年間活動内容と実績

2017年度開催日と協議内容

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年4月17日(月)	17名	100.0%
第2回	2017年9月11日(月)	17名	100.0%
第3回	2017年10月6日(金)	17名	100.0%
第4回	2018年3月2日(金)	17名	100.0%

審議内容

(1) 2017年4月17日(月)「小会議室」

- ・委員会規程の改定について
- ・エイズ治療中核拠点对策推進事業28年度決算報告・29年度計画
- ・平成29年度H I V 運営委員会活動計画について
- ・第11回道東地区エイズ拠点病院等連絡協議会・研修会について

(2) 2017年9月11日(月)「小会議室」

- ・「くしろ健康まつり2017」について
- ・地平線会議について
- ・師走講演会について

(3) 2017年10月6日(金)「小会議室」

- ・「くしろ健康まつり2017」について（釧路市、釧路保健所合同会議）

(4) 2018年3月2日(金)「小会議室」

- ・委員会規程の改定について
- ・次年度委員会活動計画について
- ・H I V 感染症薬物療法認定薬剤師研修施設カリキュラムについて

実績

6月 第11回道東地区エイズ拠点病院等連絡協議会

日時：平成29年6月3日(土)

①協議会：15:00～16:00

②研修会：16:30～17:30

講師：産経新聞社特別記者 宮田 一雄氏

演題：エイズの流行は終わるのか～キーワードに見るH I V / エイズの現状と課題～

10月 第2回地平線会議

日時：平成29年10月8日(日)

開始：15:00～16:30

くしろ健康まつり 2017 (HIV抗体検査会)

日時：平成29年10月15日(日)

開始：9:00～15:00

12月 第14回 師走講演会

日時：平成29年12月9日(土)

開始：17:00～19:00

講師：ヘルスプロモーション推進センター代表

厚木市立病院泌尿器科非常勤医師

聖マリアンナ医科大学非常勤講師

岩手県陸前高田市地域包括ケアアドバイザー

岩室 紳也氏

演題：オトナのための性教育講座

診療医事業務／査定減対策委員会

委員長 小笠原 和 宏

■ 目的と方針

本委員会は、医事業務の運用にあたって、医療、看護、事務等各部門の調整と問題点の改善を図ることを目的とする。

■ 2018年度の目標

- (1) 医事関連業務の実施、現状分析と不完全事項の確認
- (2) 解決策と実施計画の決定
- (3) 運営上の調整
- (4) 査定減対策
- (5) その他医事業務に関して

■ 委員会の構成

委員：31名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

【内 訳】

- ・医師：15名
- ・看護師：3名
- ・医療職：5名
- ・事務局：8名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と審議内容

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年4月25日(火)	29名	93.51%
第2回	2017年5月25日(木)	28名	90.3%
第3回	2017年6月22日(木)	28名	90.3%
第4回	2017年7月27日(木)	26名	83.9%
第5回	2017年8月24日(木)	28名	90.3%
第6回	2017年9月28日(木)	26名	83.9%
第7回	2017年10月26日(木)	28名	90.3%
第8回	2017年11月30日(木)	28名	90.3%
第9回	2018年1月25日(木)	28名	90.3%
第10回	2018年2月22日(木)	28名	90.3%
第11回	2018年3月22日(木)	29名	93.5%

■ 審議内容

- (1) 2017年4月25日(木)「大会議室」
 - ・高圧酸素治療に関する運用の一部変更について
 - ・査定減報告について
- (2) 2017年5月25日(木)「大会議室」
 - ・査定状況について
 - ・指導料算定について(状況報告等)
 - ・その他
- (3) 2017年6月22日(木)「大会議室」
 - ・可溶性IL-2レセプターの委託検査から院内検査の

導入について

- ・査定状況について
- (4) 2017年7月27日(木)「大会議室」
 - ・査定状況について
 - ・査定症例報告について
 - ・入院基本料加算および医学管理料の算定件数について
 - (5) 2017年8月24日(木)「大会議室」
 - ・査定状況について
 - ・査定症例報告について
 - (6) 2017年9月14日(木)「大会議室」
 - ・入院前サプリメント服用患者に対する対応について
 - ・査定状況について
 - ・入院基本料加算および医学管理料の算定件数について
 - (7) 2017年10月26日(木)「大会議室」
 - ・査定状況について
 - ・入院基本料加算および医学管理料の算定件数について
 - ・免疫チェックポイント阻害薬の査定対策について
 - (8) 2017年11月30日(木)「大会議室」
 - ・年末年始における患者数確保について
 - ・保険適用外実施申請書兼連絡票の更新について
 - ・査定状況について
 - ・免疫チェックポイント阻害薬の査定対策について
 - ・入院基本料加算および医学管理料の算定件数について
 - ・ベッドコントロールについて
 - (9) 2018年1月25日(木)
 - ・平成30年度委員会規定等の見直しについて
 - ・査定状況について
 - ・他院予約済み患者の入院後の受診について
 - ・医学管理料の算定件数について
 - (10) 2018年2月22日(木)
 - ・査定状況について
 - ・医学管理料の算定件数について
 - ・特殊外来の実績報告
 - (11) 2018年3月22日(木)
 - ・査定状況について
 - ・医学管理料の算定件数について
 - ・特殊外来の実績報告

■ 目的と方針

(個人情報)

院内のセキュリティを維持するために必要な手続きや組織内でのマネジメントシステムを構築して、個人情報情報を適切に保護することを目的とする。

(診療情報)

診療情報管理全般について審議し、診療情報整理業務の質的向上を図るため、指導と援助を行う。

■ 2018年度の目標

(個人情報)

- ・ポリシーが遵守されているかの定期的な確認と問題点及び改善
- ・情報セキュリティに関する教育・起毛活動

(診療情報)

- ・入院診療録の退院後2週間以内の回収100%の継続
- ・入院診療録の質的向上

■ 委員会の構成

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

委員：22名 委員：24名

(診療情報) [内訳] (個人情報) [内訳]

- | | |
|---------|----------|
| ・医師：7名 | ・医師：7名 |
| ・看護師：3名 | ・看護師：3名 |
| ・医療職：4名 | ・医療職：4名 |
| ・事務局：8名 | ・事務局：10名 |

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と審議内容

診療情報管理委員会開催日

(12回開催うち個人情報管理委員会3回)

	開催日	出席人数	出席率
第1回※	2017年4月14日(金)	20人	83.3%
第2回	2017年5月12日(金)	21人	95.5%
第3回※	2017年6月9日(金)	23人	95.8%
第4回	2017年7月14日(金)	20人	90.9%
第5回	2017年8月18日(金)	18人	81.8%
第6回	2017年9月8日(金)	17人	77.3%
第7回	2017年10月13日(金)	21人	95.5%
第8回	2017年11月10日(金)	20人	90.9%
第9回	2017年12月8日(金)	18人	81.8%
第10回	2018年1月12日(金)	19人	86.4%
第11回※	2018年2月9日(金)	23人	95.8%

第12回 2018年3月9日(金) 21人 95.5%

※個人情報管理委員会開催

■ 審議内容

(1) 2017年4月14日(金)「大会議室」

- ・診療情報／個人情報管理委員会規程(案)について
- ・拠点個人情報管理者等の業務(個人情報保護規程抜粋)及び個人情報保護管理体制(案)について
- ・個人情報の適正な管理の徹底(案)について(注意喚起)
- ・入院診療録質的監査実施予定表(案)について
- ・診療録未回収状況および2週間回収率について

(2) 2017年5月12日(金)「大会議室」

- ・記載内容について
- ・診療録未回収状況および2週間回収率について
- ・入院診療録質的監査について(8西・8東病棟)

(3) 2017年6月9日(金)「大会議室」

- ・H29年度診療録等の廃棄について(案)
- ・記事のコピー&ペーストの使用について
- ・診療録未回収状況および2週間回収率の報告
- ・入院診療録質的監査について(7西・7東病棟)
- ・不適切と思われる記載表現について
- ・個人情報ファイル管理簿の様式変更について

(4) 2017年7月14日(金)「大会議室」

- ・診療録未回収状況および2週間回収率の報告
- ・入院診療録質的監査について(6西・6東病棟)

(5) 2017年8月18日(金)「大会議室」

- ・診療録未回収状況および2週間回収率の報告
- ・入院診療録質的監査について(5西・5東病棟)

(6) 2017年9月8日(金)「大会議室」

- ・入院診療録質的監査における監査項目の見直しについて(案)
- ・診療録未回収状況および2週間回収率の報告
- ・入院診療録質的監査について(4西)

(7) 2017年10月13日(金)「大会議室」

- ・放射線治療に係るフィルムの取扱いについて

- 入院時診断名の自動表示について (案)
- 診療録未回収状況および2週間回収率の報告
- H29年度診療録等の廃棄について(完了の報告)

(12) 2018年3月9日(金)「大会議室」

- 診療録未回収状況および2週間回収率の報告
- 入院診療録質的監査について (4西)
- 入院診療計画書の不備について

(8) 2017年11月10日(金)「大会議室」

- 診療録未回収状況および2週間回収率の報告
- 入院診療録質的監査について (8西・8東)

(9) 2017年12月8日(金)「大会議室」

- 記事のコピー&ペーストの使用について
- 診療録未回収状況および2週間回収率の報告
- 入院診療録質的監査について (7西・7東)

(10) 2018年1月12日(金)「講堂」

- 診療録未回収状況および2週間回収率の報告
- 入院診療録質的監査について (6西・6東)

(11) 2018年2月9日(金)「大会議室」

- 平成30年度診療情報/個人情報管理委員会規程(案)について
- 診療情報管理規程(案)について
- 診療録未回収状況および2週間回収率の報告
- 入院診療録質的監査について (5西・5東)
- 入院診療計画書の不備について

診療録未回収状況

(委員会報告時の前月分回収率) 2週間回収率

報告月	回収率	退院数	報告月	回収率
4月	100.0%	788	4月	100.0%
5月	99.2%	726	5月	100.0%
6月	98.0%	676	6月	100.0%
7月	100.0%	735	7月	100.0%
8月	100.0%	744	8月	100.0%
9月	95.8%	789	9月	100.0%
10月	99.5%	729	10月	100.0%
11月	97.6%	746	11月	100.0%
12月	94.7%	673	12月	100.0%
1月	99.4%	814	1月	100.0%
2月	96.2%	626	2月	100.0%
3月	95.8%	737	3月	100.0%
			年間	100.0%

入院診療録質的監査

平成29年度 入院診療録監査

項目	H29.4		H29.5		H29.6		H29.7		H29.8		H29.10		H29.11		H29.12		H30.1		H30.2		
	8西(外科)	8東(形成)	7西(神内)	7東(整形)	6西(脳外)	6東(内科)	5西(内科)	5東(内科)	4西(泌尿器)	4東(産科)	3西(外科)	3東(形成)	2西(神内)	2東(整形)	1西(脳外)	1東(内科)	0西(内科)	0東(内科)	4西(耳鼻科)	4東(産科)	
病名	不備 ○	不備 ○	不備 ○	不備 ○	不備 ○	不備 ○	不備 ○	不備 ○	不備 ○	不備 ○	不備 ○	不備 ○	不備 ○	不備 ○	不備 ○	不備 ○	不備 ○	不備 ○	不備 ○	不備 ○	
1 入院時臨床診断名は記載されているか									×	○		×	○								
<医師記載>																					
2 1日1頁は、医師が署名した経過(簡診)が記載されているか	×	○			×	△	×	○	×	○		×	○		×	○	×	○	×	○	
3 少なくとも週に1回以上、アセスメント・診療計画(カンファレンス含む)が記載されているか	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○		×	○		×	○	×	○	×	○	
4 前状説明後、患者本人(家族を含む)の反応は、医師記録に記載されているか	×	○		△	×	○			×	○		×	○	×	×		×	○	×	○	
5 記事あるいはTODOに未解決の問題が記載されていないか												×	○				×	○			
6 多職種にわかるよう情報の共有のために外観照、聴聞の取用がないか																×	○				
<看護記載>																					
7 1日1頁は、看護師が署名した経過(簡診)が記載されているか																					
8 前状説明後、患者本人(家族を含む)の反応や希望を聞き、看護記録に記載されているか			△									×	○			×	○			△	
9 前状説明・処置時において、指示受け及び実施の記録が適当にあるか								×	○	×	○									△	
10 看護師の計画(ケアプラン)の実際と評価修正が正確に記載されているか	×	×			×	○		×	○			×	×		×	○	×	○	×	○	
<プロセス評価>																					
11 前状説明に医師だけでなく、看護師及びその他の医療職が関与しているか		△	△	△			×	×				×	○			×	○			△	
12 多職種(医師・看護師)の協働による適切な医療提供が図られているか		△	△	△			△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
13 前状の評価に適切な指標が用いられているか												×	○	△		×	○	△		△	
14 記録表現は適当か												×	○								
<その他>																					
15 スキヤンを必須とする文章は正しく管理されているか							×	○							×	○	×	○	×	○	
16 入院診療計画書は記載漏れなく作成されて、サインはあるか					×	○			×	○		×	○							×	○

* 改善の有無...○は有、×は無、△は監査日以降該当なし、△印は改善があるが全てではない。

目的と方針

本委員会は、当院における医療事故を防止し、安全かつ適切な医療の提供体制を確立するために必要な事項を定めることを目的とする。

2018年度の目標

医療事故を防止し、安全かつ適切な医療の提供体制を確立する。

- ・侵襲的処置・検査における安全対策の実施定着化を図る。
- ・転倒転落の防止に関する取り組みの強化を図る。

委員会の構成

委員：16名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：3名
- ・看護職：3名
- ・医療職：6名
- ・事務局：4名

年間活動

2017年度開催日と協議内容

医療安全推進委員会開催日（12回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年4月19日(水)	14名	87.5%
第2回	2017年5月17日(水)	15名	93.7%
第3回	2017年6月21日(水)	15名	93.7%
第4回	2017年7月19日(水)	15名	93.7%
第5回	2017年8月16日(水)	16名	100.0%
第6回	2017年9月20日(水)	15名	93.7%
第7回	2017年10月11日(水)	16名	100.0%
第8回	2017年11月15日(水)	16名	100.0%
第9回	2017年12月20日(水)	15名	93.7%
第10回	2018年1月17日(水)	16名	100.0%
第11回	2018年2月21日(水)	15名	93.7%
第12回	2018年3月14日(水)	14名	87.5%

審議内容

(1) 2017年4月19日(水)「大会議室」

- ・委員会規程について
- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・入院患者の縊死について

(2) 2017年5月17日(水)「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・平成28年度概況報告
- ・労災病院間医療安全相互チェックのテーマについて

(3) 2017年6月21日(水)「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・がん患者に対するリハビリテーション時の同意書について

(4) 2017年7月19日(水)「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・特定行為研修の実習に係る緊急時の対応について

(5) 2017年8月16日(水)「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・医療安全研修会の参加状況について
- ・ステロイドカバーのあり方に関する提言について

(6) 2017年9月20日(水)「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・労災病院間医療安全相互チェック実施計画について
- ・患者が服用しているサプリメントについて

(7) 2017年10月11日(水)「小会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・医療器具の再滅菌について

(8) 2017年11月15日(水)「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・平成29年度医療安全推進週間について
- ・除細動器の更新について
- ・医療安全の指針、医薬品安全使用のための業務手順書の一部変更について

- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・手術・侵襲的手技に休薬を要する薬剤の休薬期間一覧表の改訂について

(9) 2017年12月20日(水)「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・平成29年度医療安全週間における取り組み事例の報告について

(11) 2018年2月21日(水)「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について

(10) 2018年1月17日(水)「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について

(12) 2018年3月14日(水)「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について

■ 年間活動実績

【インシデント・アクシデント報告件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
0	37	37	58	44	39	45	45	34	32	32	38	32	473
1	76	86	72	80	73	77	87	81	61	100	69	57	919
2	41	52	34	31	49	34	40	35	39	22	19	32	428
3 a	13	12	5	5	7	12	3	10	12	16	10	8	113
3 b	1	2	5	0	1	3	3	0	3	2	1	0	21
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
合計	169	190	174	161	169	171	178	160	147	172	137	129	1,957

【医療安全対策研修会開催状況】

	開催日	テーマ	出席人数
第1回	2017年6月16日(水)	インフォームド・コンセントの注意点	192名
第2回	2017年8月30日(水)	医薬品安全管理を取り巻く最近の話題 医療事業者だけでなく針刺し事故	197名
第3回	2017年12月18日(月)	医療事故調査制度の概要と問題点 ～施行から2年経過して～	232名
第4回	2018年2月27日(火)	睡眠薬の安全な取り扱いについて 医療安全相互チェック報告	231名

目的と方針

本委員会は、電子カルテシステムを中核として各部門との連携を図り、情報の相互利用・共有化を実施するため、その取扱い及び管理に関し必要な事項を審議し、当院において診療情報を適正に管理・利用することを目的とする。

2018年度の目標

- (1) システム更新を見据え、基幹システム及び各部門システムにおける障害発生を総括し改訂要望を集積する。
- (2) 平成30年度実施するシステム更新について、円滑な移行運用ができるよう管理する。

委員会の構成

委員：13名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：2名
- ・看護師：4名
- ・事務局：6名
- ・IT専門員（業務委託）：1名

年間活動内容と実績

2017年度開催日と審議内容

医療情報システム委員会（14回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年4月25日(火)	12人	92.3%
第2回	2017年5月30日(火)	11人	84.6%
第3回	2017年6月27日(火)	12人	92.3%
第4回	2017年7月25日(火)	12人	92.3%
第5回	2017年8月29日(火)	12人	92.3%
第6回	2017年9月12日(火)	13人	100.0%
第7回	2017年9月26日(火)	11人	84.6%
第8回	2017年10月13日(金)	13人	100.0%
第9回	2017年10月24日(火)	12人	92.3%
第10回	2017年11月28日(火)	12人	92.3%
第11回	2017年12月26日(火)	12人	92.3%
第12回	2018年1月30日(火)	12人	92.3%
第13回	2018年2月27日(火)	12人	92.3%
第14回	2018年3月27日(火)	13人	100.0%

審議内容

(1) 2017年4月25日(火)「大会議室」

- ・血管造影検査に伴う追加オーダー項目について
- ・透析管理システムに関する代替運用（案）について
- ・泌尿器科外来電子カルテ端末増設について
- ・検査オーダー採血指示時間コメント対応に関するアンケート結果について
- ・マスタメンテナンスツール使用者登録について
- ・医療情報システム委員会規程（案）について
- ・インターネット利用規約（案）について
- ・NECからの作業報告（システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定）

(2) 2017年5月30日(火)「大会議室」

- ・泌尿器科外来電子カルテ端末増設について
- ・電子カルテマニュアルのフォルダ名変更について
- ・NECからの作業報告（システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定）

(3) 2017年6月27日(火)「大会議室」

- ・薬剤師の処置オーダー入力権限の追加について
- ・IT化組織体制図の報告について
- ・NECからの作業報告（システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定）

(4) 2017年7月25日(火)「大会議室」

- ・電子カルテ用PC使用状況調査報告について
- ・次期医療情報システムについて
- ・NECからの作業報告（システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定）

(5) 2017年8月29日(火)「大会議室」

- ・電子カルテ用PC使用状況調査報告について（前月引き続き）
- ・次期医療情報システムについて（前月引き続き）
- ・NECからの作業報告（システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定）

(6) 2017年9月12日(火)「持ち回り」

- ・電子カルテシステムに係る手術マスタデータの提供依頼について

(7) 2017年9月26日 (火) 「大会議室」

- 電子カルテシステムに係る手術マスタデータの提供依頼について (事後報告)
- 医療情報システムの更新スケジュールについて
- NECからの作業報告 (システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定)

(8) 2017年10月13日 (金) 「小会議室」

- 医療情報システム更新について

(9) 2017年10月24日 (火) 「大会議室」

- 医療情報システム更新について (進捗状況)
- NECからの作業報告 (システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定)

(10) 2017年11月28日 (火) 「大会議室」

- 医療情報システム更新に係る仕様書について
- ワーキンググループ活動報告
- NECからの作業報告 (システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定)

(11) 2017年12月26日 (火) 「大会議室」

- 医療情報システム更新に係る仕様書について
- ワーキンググループ活動報告
- プロブレムリストについて
- NECからの作業報告 (システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定)

(12) 2018年1月30日 (火) 「大会議室」

- 医療情報システム更新に係る仕様書について
- 電子カルテ端末の増設について
- ワーキンググループ活動報告
- NECからの作業報告 (システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定)
- プロブレムリスト進捗状況について

(13) 2018年2月27日 (火) 「大会議室」

- 平成30年度医療情報システム委員会規程 (案) について
- 平成30年度医療情報システム委員会行動指針 (案) について
- 医療情報システム更新に係る仕様書について
- 電子カルテ端末の増設について
- ワーキンググループ活動報告
- NECからの作業報告 (システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定)
- 電子カルテ操作説明会の実施について (案)
- プロブレムリスト進捗状況について

(14) 2018年3月27日 (火) 「大会議室」

- 褥瘡対策マニュアルのデスクトップ表示依頼について
- 医療情報システム運用管理規程について
- 医療情報システム更新に係る仕様書について
- NECからの作業報告 (システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定)
- プロブレムリスト進捗状況について
- オーダのメニュー画面の作成について

目的と方針

機器等整備委員会は、機器等整備計画の作成及び購入する機種 of 適正な選定に資すること、購入機器の活用状況を確認することを目的とする。

2018年度の目標

1. 医療の向上及び経営基盤の強化を踏まえ、適正な機種を選定し機器等計画を作成する。
2. 機器購入後の活用状況を確認し、更なる活性化を図る。

委員会の構成

委員：25名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

【内 訳】

- ・医師：10名
- ・看護師：2名
- ・医療職：5名
- ・事務局：8名

年間活動内容

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年7月4日(火)	25	100.0%
第2回	2017年10月20日(金)	23	92.0%
第3回	2017年11月29日(水)	24	96.0%
第4回	2018年3月7日(水)	23	92.0%

審議内容

(1) 2017年7月4日(火)「大会議室」

- ・平成30年度機器等整備計画説明書の提出要領について
- ・平成29年度機器等整備計画、計画外機械備品の整備について

(2) 2017年10月20日(水)「大会議室」

- ・平成30年度機器等整備計画の予算額と選定要件について
- ・平成29年度機器等整備計画について

(3) 2017年11月29日(金)「大会議室」

- ・平成30年度の計画機器の選定要件について
- ・巡回試行した採点方式の妥当性について
- ・採点方式の改善について
- ・平成30年度の機器等整備計画について

(4) 2018年3月7日(月)「中会議室」

- ・平成30年度機器等整備機器の追加計画機器等について
- ・平成30年度レンタル機器について

実績

- ・平成29年度機器等整備
- ・平成29年度機器等整備リース
- ・平成29年度機器等整備(計画外機器)

2017年度導入機器一覧表

No.	品名・規格	数量	メーカー名	導入月
1	デンタルX線装置	1式	(株)モリタ	H29.4
2	胆道内視鏡システム	1式	ボストンサイエンティフィック(株)	H29.5
3	Qスイッチルビーレーザー装置	1式	(株)エムエムアンドニーク	H29.5
4	耳鼻咽喉科電動骨ドリルシステム	1式	日本メドトロニック(株)	H29.5
5	脳神経内視鏡システム	1式	オリンパス(株)	H29.5
6	歯科用ユニット	1式	(株)モリタ	H29.6
7	レーザー光凝固装置	1式	日本ルミナス	H29.8
8	高圧蒸気滅菌装置	1式	サクラ精機(株)	H29.10
9	高周波ラジオ波メス	1式	(株)エルマンジャパン	H30.3
	その他9件			

救急診療運営委員会

委員長 小笠原 和 宏

■ 目的と方針

救急診療の運営にあたって、医療、看護、事務等各部門の調整と問題点の改善を図ることを目的としている。

■ 2018年度の目標

- (1) 救急診療関連業務の実施、現状分析と問題点の改善
- (2) 救急診療ガイドライン、要綱等の策定
- (3) 宿日直業務の実施
- (4) 運営上の調整
- (5) その他救急診療業務

■ 委員会の構成

委員：21名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：8名
- ・看護師：4名
- ・医療職：4名
- ・事務局：5名

■ 年間活動

2017年度開催日と協議内容

救急運営委員会開催日（6回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年10月18日(水)	20名	95.2%
第2回	2017年11月15日(水)	19名	90.5%
第3回	2017年12月13日(水)	19名	90.5%
第4回	2018年1月17日(水)	18名	85.7%
第5回	2018年2月21日(水)	20名	95.2%
第6回	2018年3月14日(水)	18名	85.7%

■ 審議内容

(1) 2017年10月18日(水)「大会議室」

- ・救急診療運営委員会規程(案)について
- ・消防署訪問に係る意見聴取結果について
- ・宿日直業務打合せについて

(2) 2017年11月15日(水)「大会議室」

- ・消防署訪問に係る意見聴取結果に基づく各部署の対応状況について
- ・診療科別ガイドライン対応基準について
- ・宿日直業務打合せについて

- ・救急診療実績報告について

- ・救急患者の受入が出来なかった実績報告について

(3) 2017年12月13日(水)「大会議室」

- ・救急診療ガイドライン改訂(案)について
- ・消防署訪問に係る意見聴取結果に基づく各部署の対応状況について
- ・宿日直業務打合せについて
- ・救急診療実績報告について
- ・救急患者の受入が出来なかった実績報告について

(4) 2018年1月17日(水)「大会議室」

- ・救急診療ガイドライン改訂(案)について
- ・消防署訪問に係る意見聴取結果に基づく各部署の対応状況について
- ・宿日直業務打合せについて
- ・救急診療実績報告について
- ・救急患者の受入が出来なかった実績報告について
- ・当院通院中患者の救急受入体制の確認について

(5) 2018年2月21日(水)「大会議室」

- ・救急診療運営委員会規程(案)について
- ・消防署訪問に係る意見聴取結果に基づく各部署の対応状況について
- ・宿日直業務打合せについて
- ・救急診療実績報告について
- ・救急患者の受入が出来なかった実績報告について

(6) 2018年3月14日(水)「大会議室」

- ・消防署訪問に係る意見聴取結果に基づく各部署の対応状況について
- ・宿日直業務打合せについて
- ・救急診療実績報告について
- ・救急患者の受入が出来なかった実績報告について
- ・救急診療ガイドライン適用除外申請について

目的と方針

本委員会は、がん診療および緩和医療の実施にあたり、予防・診断・手術療法・化学療法・放射線療法・免疫療法を効果的に組み合わせた集学的治療および終末期医療の様々な段階に対して、専門的立場から適切な医療を提供する体制を整備し、医療の質の向上を図ることを目的とする。

2018年度の目標

- (1) 院内向けおしかけ勉強会やWebカンファレンスを通して、職員への緩和ケアの質的向上のための教育を行う。
- (2) 患者がんサロンの運営、患者会への協力、ホスピス緩和ケア週間の企画・開催を通して、地域の人々と連携しながら質の高いケアの提供及び緩和ケアについて周知を目指す。
- (3) 在宅療養に係る地域の医師の受け入れ患者についてデータベースを作成する。
- (4) 平成29年度緩和ケア研修会を企画・開催する。

委員会の構成

委員：27名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：8名
- ・看護師：7名
- ・医療職：5名
- ・事務局：7名

年間活動内容と実績

2017年度開催日と審議内容、実績

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年4月9日(木)	24名	88.9%
第2回	2017年5月15日(木)	27名	100.0%
第3回	2017年6月8日(木)	24名	88.9%
第4回	2017年7月6日(木)	26名	96.3%
第5回	2017年8月10日(木)	26名	96.3%
第6回	2017年9月14日(木)	23名	85.2%
第7回	2017年10月12日(木)	27名	100.0%
第8回	2017年11月9日(木)	27名	100.0%
第9回	2017年12月14日(木)	27名	100.0%
第10回	2018年1月11日(木)	27名	100.0%
第11回	2018年2月8日(木)	27名	100.0%
第12回	2018年3月8日(木)	27名	100.0%

審議内容

(1) 2017年4月9日(木)「大会議室」

- ・平成29年度緩和ケアリンクナース部会の活動について
- ・エンゼルメイクセットの購入について
- ・緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について(3月)
- ・緩和ケアリンクナース部会の活動報告について(3月)
- ・平成29年度緩和WG活動部会について(教育研修・地域連携・在宅療養)
- ・緩和ケアスクリーニングシート集計表について
- ・緩和ケア研修会(H29)開催に係る準備等について

(2) 2017年5月15日(木)「大会議室」

- ・緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について(4月)
- ・緩和ケアリンクナース部会の活動報告について(4月)
- ・平成29年度緩和WG活動報告について(教育研修・地域連携・ツール整備)
- ・がん患者緩和ケアスクリーニングシート集計表について
- ・緩和ケア研修会(H29)開催に係る準備等について

(3) 2017年6月8日(木)「大会議室」

- ・教育研修WG
- ・がん患者指導管理料3算定の運用手順について
- ・緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について(5月)
- ・緩和ケアリンクナース部会の活動報告について(5月)
- ・平成29年度緩和WG活動報告について(教育研修・地域連携・ツール整備)
- ・緩和ケアスクリーニングシート集計表について
- ・緩和ケア研修会(H29)開催に係る準備等について

(4) 2017年7月6日(木)「大会議室」

- ・緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について(6月)
- ・緩和ケアリンクナース部会の活動報告について

- (6月)
 - 平成29年度緩和WG活動報告について（教育研修・地域連携・在宅療養）
 - 緩和ケアスクリーニングシート集計表について
 - 緩和ケア研修会（H29）開催に係る準備等について
- (5) 2017年8月10日（木）「大会議室」
 - 緩和ケアマニュアル改訂について
 - 乳がん市民公開講座会場について
 - 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（7月）
 - 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について（7月）
 - 平成29年度緩和WG活動報告について（教育研修・地域連携・ツール整備）
 - 緩和ケアスクリーニングシート集計表について
 - 緩和ケア研修会（H29）開催に係る準備等について
- (6) 2017年9月14日（木）「大会議室」
 - 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（8月）
 - 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
 - 平成29年度緩和WG活動報告について（教育研修・地域連携・ツール整備）
 - 緩和ケアスクリーニングシート集計表について
- (7) 2017年10月12日（木）「大会議室」
 - 委員欠員に伴う補充について
 - 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団研究事業の調査について
 - 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（9月）
 - 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
 - 平成29年度緩和WG活動報告について（教育研修・地域連携・ツール整備）
 - がん患者緩和ケアスクリーニングシートの改訂について
 - エンゼルメイクセット購入後の評価について
 - 緩和ケアスクリーニングシート集計表について
- (8) 2017年11月9日（木）「大会議室」
 - 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（10月）
 - 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
 - 平成29年度緩和WG活動報告について（教育研

- 修・地域連携・ツール整備)
 - 「緩和ケア病床」の表現について
 - 緩和ケアスクリーニングシート集計表について
- (9) 2017年12月14日（木）「大会議室」
 - 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（11月）
 - 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
 - 平成28年度緩和WG活動報告について（教育研修・地域連携・ツール整備）
 - 平成30年度緩和ケア研修会について
 - 緩和ケアスクリーニングシート集計表について
- (10) 2018年1月11日（木）「大会議室」
 - 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（12月）
 - 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
 - 平成28年度緩和WG活動報告について（教育研修・地域連携・ツール整備）
 - 緩和ケアスクリーニングシート集計表について
- (11) 2018年2月8日（木）「大会議室」
 - 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（1月）
 - 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
 - 平成28年度緩和WG活動報告について（教育研修・地域連携・ツール整備）
 - 緩和ケアスクリーニングシート集計表について
- (12) 2018年3月8日（木）「大会議室」
 - 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（2月）
 - 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
 - 平成29年度緩和WG活動報告について（教育研修・地域連携・ツール整備）
 - 平成30年度緩和WG活動報告について
 - 緩和ケアスクリーニングシート集計表について

年間活動実績

緩和ケアチームの活動実績

①緩和ケア外来患者数 (人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6	4	4	4	3	2	2	1	2	1	2	4	35

②緩和ケアチームによる介入件数 (件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
11	7	13	13	15	15	14	15	14	18	13	25	173

③緩和ケア病床患者数 (人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3	1	1	2	4	3	1	1	0	1	2	3	22

がんサロンの活動実績

開催日	学習会内容	参加人数
2017年4月19日(水)	ハンドケア	9名
2017年5月17日(水)	口腔ケア～あなたのお口はきれいですか?～	10名
2017年6月14日(水)	鎮痛(痛みをとる)と鎮静(ぐっすり休む)	12名
2017年7月21日(金)	あなたにもできるリンパ浮腫ケア	14名
2017年8月18日(金)	最後まで自分らしく生きる	15名
2017年9月20日(水)	毎日食事をおいしく食べる工夫	8名
2017年10月17日(火)	痛みとの上手な付き合い方	8名
2017年11月21日(火)	臨床試験・治験について	12名
2017年12月13日(水)	感染予防のお話～あなたの手はきれいですか?～	10名
2018年1月19日(金)	自宅でできるリハビリテーション	11名
2018年2月20日(火)	あなたが利用できる社会制度を知っていますか?	7名
2018年3月16日(金)	その人らしさを支える緩和ケア	13名

講演会の活動実績

① 平成29年度緩和ケア研修会

開催日：平成29年9月9日(土)～10日(日)

研修内容：がん診療に携わる医師に対する「緩和ケア研修会」

② 乳がん市民公開講座

開催日：平成29年10月29日(日)

テーマ：「乳がんについて知りましょう」／「乳がんの診断と治療について」

③ 緩和市民公開講座

開催日：平成29年11月18日(土)

テーマ：「くらしを支える力になりたい ～釧路協立病院での在宅医療の実際～」

臓器提供委員会

委員長 小笠原 和 宏

■ 目的と方針

本委員会は、脳死臓器提供施設である当院において、臓器提供を円滑に行うため、臓器移植に関する職員教育及び市民への啓発活動を目的とする。

■ 2018年度の目標

院内外移植コーディネーター等による講習・研修会の複数開催に努める。

■ 委員会の構成

委員：13名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：4名
- ・看護師：1名
- ・医療職：2名
- ・事務局：6名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と協議内容

臓器提供委員会（1回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年3月13日(火)	10名	76.9%

■ 審議内容

(1) 2017年3月13日(火)

- ・委員会規程（案）及び委員会委員（案）について
- ・平成29年度院内コーディネーター活動報告及び平成30年度活動計画について
- ・ドナーカード所持率について

■ 目的と方針

本委員会は、患者と職員の健康増進のために、院内に於ける受動喫煙防止及び職員の禁煙向上を目的とした病院長の諮問機関であり、病院内の受動喫煙防止に努める。

■ 2018年度の目標

- (1) 院内の禁煙の問題の把握(台禁煙問題報告書)
- (2) 禁煙ポスターの提示
- (3) 禁煙啓発活動の実施(禁煙講演会を行う。禁煙標語の提示)

■ 委員会の構成

委員：10名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医 師：2名
- ・看護 師：1名
- ・医療 職：2名
- ・調理 師：1名
- ・事務 局：4名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と協議内容

禁煙実行委員会開催日(2回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年4月14日(金)	9名	90.0%
第2回	2018年3月13日(火)	7名	70.0%

■ 審議内容

(1) 2017年4月14日(金)「小会議室」

[審議内容]

- ・喫煙による害に関する掲示について(エレベーター内)
 - ・禁煙標語の選定について
 - ・電子タバコの是非について
 - ・年間活動計画について
- ① 4月～3月 禁煙標語の提示
 - ② 5月 世界禁煙デー活動として禁煙講演会の実施

[報告事項]

喫煙問題報告書・禁煙誓約書について

(2) 2018年3月13日(火)「大会議室」

[審議内容]

- ・平成30年度委員会規程・運営方針について
- ・平成30年度の活動について

[報告事項]

喫煙問題報告書・禁煙誓約書について

がん診療連携拠点病院運営委員会

委員長 小笠原 和 宏

■ 目的と方針

がん診療拠点病院としてがん診療の質の向上及びがん診療の連携協力体制を構築すること。

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年5月2日(火)	21名	84.0%
第2回	2018年2月23日(金)	23名	92.0%

■ 2018年度の目標

がん診療連携拠点病院の指定要件を継続できるように、定期的に現状を確認し、がん診療体制の充実にむけて、全職員で指定要件を意識し、満たすことができるように促していく。また、連携協力体制を強化できるように内容の見直しを図っていく。

■ 委員会の構成

委員：23名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：4名
- ・看護師：5名
- ・医療職：2名
- ・事務局：11名

■ 年間活動

2017年度開催日と審議内容

がん診療連携拠点病院運営委員会（2回開催）

● キャンサーボード（9回開催）

	開催日	症例検討内容	出席人数	場所
第1回	2017年4月5日(水)	尿閉、右下肢麻痺を契機に診断された巨大な骨盤内腫瘍を有する悪性リンパ腫（疑い）の一例	43	3階大会議室
第2回	2017年6月7日(水)	膀胱穿孔が疑われた巨大直腸腫瘍の一例	36	3階大会議室
第3回	2017年7月5日(水)	スピリチュアルペインを訴える局所進行膀胱がんの一例	20	3階大会議室
第4回	2017年9月6日(水)	保存的加療後に結腸膀胱瘻を来したS状結腸癌穿孔の一例	25	3階大会議室
第5回	2017年10月4日(水)	がん性胸水による呼吸困難のマネジメントに苦慮するHR陽性・HER2陽性再発乳がんの一例	31	3階大会議室
第6回	2017年11月1日(水)	多発骨転移を契機に診断された肺扁平上皮癌にベンブロリズマブを投与した一例	30	3階大会議室
第7回	2017年12月6日(水)	脾原発組織球肉腫で脾摘後約1年5か月の経過で死亡した剖検例	29	3階大会議室
第8回	2018年2月7日(水)	下肢歩行障害を契機に紹介され、緊急放射線照射に至った前立腺がんの一例	23	3階大会議室
第9回	2018年3月7日(水)	大量の腹水、腹腔内腫瘍散布を示した腭頭部癌の剖検例	33	3階大会議室

■ 審議内容

(1) 2017年5月2日(火)「小会議室」

- ・がん診療連携拠点病院運営委員会規程（案）について
- ・委員構成について
- ・指定要件の確認
- ・その他
緩和ケア研修会について

(2) 2018年2月23日(金)「大会議室」

- ・がん診療連携拠点病院運営委員会規程（案）について

■ 年間活動実績

- ・指定病院の認定後も指定要件を確認
- ・指定要件の一環として、がんに関する研修会や活動に参加
- ・キャンサーボードの開催

目的と方針

診療材料等の適正な管理と効率的な購入を図ることを目的とする。

2018年度の目標

- 安価で質を落とさない医療材料の採用を検討し、コスト削減に努める。
- 医療材料の適正な使用を検討する。

委員会の構成

委員：22名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- 医師：10名
- 看護師：4名
- 医療職：3名
- 事務局：5名

年間活動内容と実績

2017年度開催日と審議内容

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年5月2日(木)	20	90.9%
第2回	2017年6月13日(木)	20	90.9%
第3回	2017年8月8日(木)	20	90.9%
第4回	2017年9月5日(木)	17	77.3%
第5回	2017年11月6日(木)	20	90.9%
第6回	2017年12月4日(木)	18	81.8%
第7回	2018年1月15日(木)	20	90.9%
第8回	2018年2月5日(木)	20	90.9%
第9回	2018年3月5日(月)	19	86.4%

審議内容

- コスト削減についての提案について
- サンプルの調査結果の報告について
- 値下げ品の報告について
- 手指消毒薬の変更について
- 血糖測定器の販売終了について
- 静脈留置針の変更について
- 単回使用医療機器の取り扱いについて

実績

診療材料費用を年間で327万円の削減を見込む。

No.	切替品名	年間見込み効果	備考
1	シュアプラグAD延長チューブロック	▲ 722,452	切替
2	シュアプラグ輸液セット	▲ 576,720	値下げ
3	オールシリコンフォーリーカテーテル	▲ 22,761	値下げ
4	血糖測定装置ワンタッチベリオIQ	▲ 1,125,678	切替
5	ジェントシグナフォームタイプX線透過	▲ 101,925	値下げ
6	ゼオチューブ胆管用チューブステント	▲ 3,600	新規採用
7	清拭タオルHPふつうサイズ	▲ 334,620	切替
8	メディキャットスーパーキャス5	▲ 341,559	切替
9	GHG消毒綿0.2%	▲ 8,960	切替
10	ホイップウォッシュ 無香 泡1000ml	▲ 32,720	切替
	合計	▲ 3,270,995	

血液浄化室安全管理委員会

委員長 佐々木 芳 浩

■ 目的と方針

透析機器の安全管理と安全な透析医療の提供に資することを目的とする。

■ 2018年度の目標

血液透析装置のオンラインHDF化に向けて取り組む。

■ 委員会の構成

委員：7名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：1名
- ・看護師：2名
- ・医療職：2名
- ・事務局：2名

■ 年間活動内容

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2018年2月23日(金)	7	100.0%

■ 審議内容

(1) 2018年2月23日(金)「小会議室」

- ・水質管理報告について
- ・診療報酬改定に伴う課題について

■ 目的と方針

本委員会は、在宅療養を行う患者及びその家族に対して、専門的立場から医療を提供し、地域と連携しながら在宅療養の支援を目的とする。

■ 2018年度の目標

訪問看護、訪問診療など在宅医療を円滑に行うため、組織及び運営について必要な事項を定め、適切な管理を図る。

引き続き在宅医療基準、訪問診療手順等の見直し、修正をしていく。

■ 委員会の構成

委員：10名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：4名
- ・看護師：3名
- ・医療職：1名
- ・事務局：2名

■ 年間活動

2017年度開催日と協議内容

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年5月8日(月)	10名	100.0%
第2回	2017年7月10日(月)	10名	100.0%
第3回	2017年9月11日(月)	10名	100.0%
第4回	2017年12月11日(月)	10名	100.0%
第5回	2018年1月12日(月)	10名	100.0%

■ 協議内容と実績

(1) 2017年5月8日(月)「栄養指導室」

訪問看護・訪問診療実施状況報告 5名の訪問看護、訪問診療

委員会規定の見直し

(2) 2017年7月10日(月)「栄養指導室」

訪問看護・訪問診療実施状況報告 5名の訪問看護、訪問診療

在宅医療基準、訪問診療手順の見直し

(3) 2017年9月11日(月)「栄養指導室」

訪問看護・訪問診療実施状況報告 6名の訪問看護、訪問診療

在宅医療基準、訪問診療手順の見直し

(4) 2017年12月11日(月)「栄養指導室」

訪問看護・訪問診療実施状況報告 5名の訪問看護、訪問診療

在宅医療基準、訪問診療手順の見直し

(5) 2018年1月22日(月)「栄養指導室」

訪問看護・訪問診療実施状況報告 5名の訪問看護、訪問診療

在宅医療基準、訪問診療手順の見直し

公舎管理委員会

委員長 磯部正則

■ 目的と方針

公舎管理委員会は、職員宿舎の効率的利用と貸与の公平を確保することを目的とする。

■ 2018年度の目標

職員宿舎の効率的な運用を検証し検討する。また、宿舎の施設管理に必要な事項を行う。

■ 委員会の構成

委員：11名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：2名
- ・看護師：1名
- ・医療職：1名
- ・事務局：7名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日

公舎管理委員会（1回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2018年3月13日(火)	11名	100.0%

■ 審議内容

(1) 2018年3月13日(火)「小会議室」

- ・平成30年度委員会規程・運営方針・構成（案）について
- ・職員宿舎貸与規程の改定について

目的と方針

職種や診療科の壁を越えたチームにより栄養管理を
実践することにより、患者中心の医療を提供して患者
QOL向上を達成することを目的とする。

2018年度の目標

- (1) 職種を超えたチームにより栄養治療を実施し院
内での栄養治療に関する事項を協議・検討しそ
の効果的な推進をはかる。
- (2) 摂食機能療法算定件数増に向けて取り組む。
- (3) NSTセミナーを年11回、定期的・継続的に実
施する。

委員会の構成

委員：26名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：10名
- ・看護師：5名
- ・医療職：6名
- ・事務局：5名

年間活動内容と実績

2017年度開催日と協議内容

栄養管理／NST委員会 (23回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年4月11日(火)	25名	89.3%
第2回	2017年4月25日(火)	24名	85.7%
第3回	2017年5月9日(火)	27名	96.4%
第4回	2017年5月23日(火)	23名	82.1%
第5回	2017年6月13日(火)	25名	89.3%
第6回	2017年6月27日(火)	23名	82.1%
第7回	2017年7月11日(火)	22名	78.6%
第8回	2017年8月8日(火)	23名	82.1%
第9回	2017年8月22日(火)	27名	96.4%
第10回	2017年9月12日(火)	26名	96.3%
第11回	2017年9月26日(火)	24名	88.9%
第12回	2017年10月10日(火)	24名	88.9%
第13回	2017年10月24日(火)	23名	85.2%
第14回	2017年11月14日(火)	24名	88.9%
第15回	2017年11月28日(火)	21名	81.0%
第16回	2017年12月12日(火)	24名	92.3%
第17回	2017年12月26日(火)	26名	100.0%
第18回	2018年1月9日(火)	25名	96.2%
第19回	2018年1月23日(火)	25名	96.2%

	開催日	出席人数	出席率
第20回	2018年2月13日(火)	23名	88.5%
第21回	2018年2月27日(火)	22名	84.6%
第22回	2018年3月13日(火)	24名	92.3%
第23回	2018年3月27日(火)	21名	81.0%

審議内容

- (1) 2017年4月11日(火) [中会議室]
 - ・栄養管理／NST委員会規程(案)について
 - ・回診・介入報告について
 - ・NST継続介入患者報告について
 - ・NST月別介入人数及び栄養サポートチーム加
算算定件数について
 - ・栄養管理室業務報告について
 - ・WGメンバー選出について
- (2) 2017年4月25日(火) [中会議室]
 - ・NST継続介入患者報告について
 - ・生活習慣病介入報告について
- (3) 2017年5月9日(火) [中会議室]
 - ・回診・介入報告について
 - ・NST継続介入患者報告について
 - ・栄養管理室業務報告について
 - ・特別治療食の飲み物提供の変更について
- (4) 2017年5月23日(火) [中会議室]
 - ・回診・介入報告について
 - ・パン納入業者の変更について
- (5) 2017年6月13日(火) [中会議室]
 - ・回診・介入報告について
 - ・NST月別介入人数及び栄養サポートチーム加
算算定件数について
 - ・栄養管理室業務報告について
 - ・摂食機能療法算定に向けた活動方針について
- (6) 2017年6月27日(火) [中会議室]
 - ・回診・介入報告について
- (7) 2017年7月11日(火) [中会議室]
 - ・回診・介入報告について
 - ・NST月別介入人数及び栄養サポートチーム加
算算定件数について

- 栄養管理室業務報告について
 - 摂食機能療法算定開始について
 - 給食時の配茶について
 - 嚥下困難患者に使用しているトロミ調整剤について
- (8) 2017年8月8日(火)「中会議室」
- 回診・介入報告について
 - N S T月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について
 - 栄養管理室業務報告について
 - W G活動報告について
- (9) 2017年8月22日(火)「中会議室」
- 回診・介入報告について
- (10) 2017年9月12日(火)「中会議室」
- 回診・介入報告について
 - 栄養管理室業務報告について
 - トロミ調整剤の変更について
 - ごっくんゼリーの提供について
 - 経腸栄養ポンプの更新について
- (11) 2017年9月26日(火)「中会議室」
- 回診・介入報告について
 - N S T月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について
 - W G活動報告について
- (12) 2017年10月10日(火)「中会議室」
- 回診・介入報告について
 - N S T月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について
 - 栄養管理室業務報告について
 - W G活動報告について
- (13) 2017年10月24日(火)「中会議室」
- 回診・介入報告について
 - 生活習慣病介入報告について
 - W G活動報告について
- (14) 2017年11月14日(火)「中会議室」
- 回診・介入報告について
 - N S T月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について
 - 栄養管理室業務報告について
 - W G活動報告について
- 栄養管理計画書の作成について
- (15) 2017年11月28日(火)「中会議室」
- 回診・介入報告について
 - W G活動報告について
- (16) 2017年12月12日(火)「中会議室」
- 回診・介入報告について
 - N S T月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について
 - 栄養管理室業務報告について
 - W G活動報告について
 - 栄養管理計画書の作成について
- (17) 2017年12月26日(火)「中会議室」
- 回診・介入報告について
 - W G活動報告について
 - 元旦の雑煮の餅の提供中止について
- (18) 2018年1月9日(火)「中会議室」
- 回診・介入報告について
 - N S T月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について
 - W G活動報告について
 - ごっくんゼリーの中止について
- (19) 2018年1月23日(火)「中会議室」
- 回診・介入報告について
 - 栄養管理室業務報告について
 - W G活動報告について
- (20) 2018年2月13日(火)「中会議室」
- 栄養管理/N S T委員会規程(案)について
 - 回診・介入報告について
 - N S T月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について
 - 栄養管理室業務報告について
 - W G活動報告について
- (21) 2018年2月27日(火)「中会議室」
- 回診・介入報告について
 - W G活動報告について
- (22) 2018年3月13日(火)「中会議室」
- 回診・介入報告について
 - N S T月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について

- 栄養管理室業務報告について
- 来年度の委員会開催回数及びNST回診運用変更について
- WG活動報告について

(23) 2018年3月27日(火)「中会議室」

- 栄養管理/NST委員会規程(案)について
- 回診・介入報告について
- WG活動報告について

■ 年間活動実績

NST介入人数 (人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
11	10	5	6	8	6	7	11	7	10	9	13	103

栄養サポートチーム加算算定件数 (件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
15	14	6	3	9	9	8	16	11	12	14	14	131

図書委員会

委員長 河合 朋 昭

目 的

本委員会は、病院図書の購入、管理保管を目的とし、図書室及び電子ジャーナルの有効的な運用を含めた検討を行う。

2018年度の目標

- (1) 電子ジャーナルの必要理由の確認について
- (2) 研修医向けのジャーナルの検討
- (3) 医学書・看護書巡回展示販売会の開催

委員会の構成

委 員：11名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医 師：5名
- ・看護師：1名
- ・医療職：1名
- ・事務局：4名

年間活動

2017年度開催日と協議内容

図書委員会開催日（4回開催）

	開 催 日	出席人数	出席率
第1回	2017年6月21日(水)	11名	100.0%
第2回	2017年11月22日(水)	10名	90.9%
第3回	2017年12月12日(火)	11名	100.0%
第4回	2018年3月13日(火)	11名	100.0%

審議内容

(1) 2017年6月27日(水)「中会議室」

[審議内容]

- ・平成29年度委員会規程について
- ・医学書・看護書展示販売について

[報告事項]

- ・電子ジャーナルの利用状況について

(2) 2017年11月22日(水)「中会議室」

[審議内容]

- ・平成30年度メディカルオンライン、医中誌、Up to Dateの契約について

[報告事項]

- ・電子ジャーナルの利用状況及び継続について

(3) 2017年12月12日(火)「中会議室」

[審議内容]

- ・平成30年度和雑誌、洋雑誌の購買希望調査について

(4) 2018年3月13日(火)「中会議室」

[審議内容]

- ・委員会の規程見直しについて
- ・電子ジャーナルの必要理由について
- ・研修医向け図書の充実について

[実績]

- ・医学書・看護書展示販売
6月28日(水) 12時～19時

■ 目的と方針

「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づき、病院におけるエネルギーの使用の合理化の適切かつ有効な実施について定め、エネルギー使用の節減とエネルギーの有効な利用を推進することを目的とする。

■ 2018年度の目標

- (1) LEDランプへの変更
- (2) 職員教育等による節電対策の推進

■ 委員会の構成

委員：14名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：2名
- ・看護師：1名
- ・医療職：5名
- ・事務局：6名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と協議内容

省エネルギー推進委員会開催日（1回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2018年3月6日(火)	13名	92.9%

■ 審議内容

- (1) 2018年3月6日(火)「大会議室」
 - ・省エネルギー推進委員会規程(案)について
 - ・釧路労災病院エネルギーの使用の合理化に関する規定について
 - ・エネルギー管理標準について
 - ・平成30年度行動指針について

防災委員会

委員長 北 南 和 彦

■ 目的と方針

災害の防止及び火災時における初期消火並びに適正な避難誘導を訓練することによって、被害の防止に資することを目的とする。

■ 2018年度の目標

火災や地震等を想定した訓練の実施、及び適切な行動の検証を行うことで、職員の防災意識の啓発に努める。もって、災害発生時における在院者の安全確保と病院機能の維持を目指すものとする。

■ 委員会の構成

委員：12名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：1名
- ・看護師：1名
- ・医療安全管理者：1名
- ・医療職：3名
- ・防火・防災管理者：1名
- ・事務局：5名

■ 年間活動内容と実績

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2018年1月24日(水)	12名	100%
第2回	2018年3月23日(水)	9名	75%

■ 審議内容

(1) 2018年1月24日(水)「小会議室」

- ・消防訓練の実施について
- ・委員会規程の改正について

(2) 2018年3月23日(水)「小会議室」

- ・防災訓練の実施について

■ 年間活動実績

- 4月 新規採用職員消火訓練実施
- 2月 消防訓練実施
- 3月 防災訓練実施

■ 目的と方針

本委員会は、手術部の円滑な運営及び的な管理を図ることを目的とする。

■ 2018年度の目標

- (1) 手術室の効果的な運用
- (2) 手術枠の弾力的な見直し

■ 委員会の構成

委員：19名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医 師：9名
- ・看護 師：3名
- ・医療 職：1名
- ・事務 局：6名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と審議内容、実績

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年4月12日(水)	19名	100.0%
第2回	2017年5月10日(水)	19名	100.0%
第3回	2017年6月14日(水)	17名	89.5%
第4回	2017年7月12日(水)	18名	94.7%
第5回	2017年8月9日(水)	17名	89.5%
第6回	2017年9月13日(水)	18名	94.7%
第7回	2017年10月12日(水)	19名	100.0%
第8回	2017年11月8日(水)	19名	100.0%
第9回	2017年12月13日(水)	19名	100.0%
第10回	2018年1月10日(水)	18名	94.7%
第11回	2018年2月14日(水)	17名	89.5%
第12回	2018年3月14日(水)	19名	100.0%

■ 審議内容

- (1) 2017年4月12日(水)「大会議室」
 - ・全身麻酔実施件数及び手術件数について
 - ・29年度麻酔科医の体制について
- (2) 2017年5月10日(水)「大会議室」
 - ・全身麻酔実施件数及び手術件数について
 - ・29度の麻酔科医の体制について
 - ・パウダー付き医療用手袋について
- (3) 2017年6月14日(水)「大会議室」
 - ・全身麻酔実施件数及び手術件数について

- ・29度の麻酔科医の体制について
 - ・麻酔科学会機関の全身麻酔制限について
- (4) 2017年7月12日(水)「大会議室」
 - ・全身麻酔実施件数及び手術件数について
 - ・全身麻酔時の絶飲について
 - (5) 2017年8月9日(水)「大会議室」
 - ・全身麻酔実施件数及び手術件数について
 - ・平成29年度麻酔科医夏季休暇時の麻酔科体制について
 - (6) 2017年9月13日(水)「大会議室」
 - ・全身麻酔実施件数及び手術件数について
 - ・平成29年度麻酔科体制について
 - ・インシデント報告
 - ・手術部人員配置について
 - (7) 2017年10月12日(水)「大会議室」
 - ・全身麻酔実施件数及び手術件数について
 - (8) 2017年11月8日(水)「大会議室」
 - ・全身麻酔実施件数及び手術件数について
 - (9) 2017年12月13日(水)「講堂」
 - ・全身麻酔実施件数及び手術件数について
 - ・麻酔器・モニタ点検による全身麻酔枠の制限について
 - (10) 2018年1月10日(水)「大会議室」
 - ・会議開始時間の変更について
 - ・全身麻酔実施件数及び手術件数について
 - ・全身麻酔枠制限について
 - (11) 2018年2月14日(水)「大会議室」
 - ・平成30年度委員会規程について
 - ・全身麻酔実施件数及び手術件数について
 - (12) 2018年3月14日(水)「大会議室」
 - ・全身麻酔実施件数及び手術件数について
 - ・平成30年度手術予定表の作成について

輸血療法委員会

委員長 宮城島 拓 人

■ 目的と方針

本委員会は、厚生労働省の「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」（平成17年9月6日付）に沿い、病院内の血液製剤の適正使用及び輸血療法の適正化に努めるよう審議することを目的とした病院長の諮問機関とする。

■ 2018年度の目標

- 血液製剤の適正使用のための必要事項を審議する。
- 月毎の血液製剤使用状況を報告する。

■ 委員会の構成

委員：13名

（2018年3月現在、委員長・書記を含む）

[内 訳]

- 医師：6名
- 看護師：2名
- 医療職：3名
- 事務局：2名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と審議内容、実績

輸血療法委員会開催日（6回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年5月23日(火)	11名	84.6%
第2回	2017年7月25日(木)	12名	92.3%
第3回	2017年9月28日(木)	11名	84.6%
第4回	2017年11月30日(木)	11名	84.6%
第5回	2018年1月25日(木)	11名	84.6%
第6回	2018年3月22日(木)	10名	76.9%

■ 報告・審議内容

(1) 2017年5月23日（火）「小会議室」

- 2017年3～4月の輸血製剤使用状況について
- 今年度委員会規程について
- 時間外の血小板製剤について

(2) 2017年7月25日（木）「小会議室」

- 2017年5～6月の輸血製剤使用状況について
- 輸血情報に係る資料について

(3) 2017年9月28日（木）「小会議室」

- 2017年7～8月の血液製剤の使用状況の報告に

ついて

- 輸血前検体保存の採取期間について
- 幹細胞移植後の血液型表示について
- 輸血療法に係る使用指針の改定について

(4) 2017年11月30日（木）「小会議室」

- 2017年9～10月の血液製剤使用状況の報告について
- 電子カルテ上における造血幹細胞移植後の血液型表示について
- 輸血療法説明書の改訂について

(5) 2017年1月25日（木）「中会議室」

- 2017年11～12月の血液製剤使用状況の報告について
- 血小板製剤による細菌感染について
- 来年度委員会規定について
- 多発性骨髄腫の治療薬「ダザラレックス」について

(6) 2017年3月22日（木）「小会議室」

- 2018年1～2月の血液製剤使用状況の報告について
- 来年度委員会規定について
- 血小板製剤による細菌感染について

■ 目的と方針

医療ガス設備の安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的とする。

■ 2018年度の目標

医療ガスに関する知識を普及し、啓発に努める。

■ 委員会の構成

委員：9名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：2名
- ・看護師：1名
- ・医療職：3名
- ・ボイラー技士：1名
- ・事務局：2名

■ 年間活動内容

なし

■ 審議内容

なし

■ 実績

- ・4月18日 新人看護師研修「医療ガス取扱講習会」

褥瘡対策委員会

委員長 池田正起

目的と方針

病院内の褥瘡対策を討議。検討しその効果的な推進を図る。

2018年度の目標

- (1) 定期的な委員会の開催による情報の把握と管理を行う。
- (2) 月毎の褥瘡発生件数データを収集し、動向を把握する。
- (3) 体圧分散寝具・褥瘡予防用具を定期的に見直し、更新時の選定を行う。

委員会の構成

委員：10名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：1名
- ・看護師：5名
- ・医療職：3名
- ・事務局：1名

年間活動内容と実績

2017年度開催日と審議内容、活動実績

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年4月13日(木)	9名	100.0%
第2回	2017年5月18日(木)	8名	88.9%
第3回	2017年6月8日(木)	8名	88.9%
第4回	2017年7月13日(木)	7名	77.8%
第5回	2017年8月10日(木)	8名	88.9%
第6回	2017年9月14日(木)	9名	100.0%
第7回	2017年10月12日(木)	9名	100.0%
第8回	2017年11月9日(木)	8名	88.9%
第9回	2017年12月14日(木)	8名	88.9%
第10回	2018年1月11日(木)	9名	100.0%
第11回	2018年2月8日(木)	9名	100.0%
第12回	2018年3月8日(木)	9名	100.0%

審議・報告内容

(1) 2017年4月13日(木)「小会議室」

- ・褥瘡対策委員会規程について
- ・褥瘡患者について(3月)
- ・褥瘡有病率・褥瘡推定発生率について
- ・平成29年度に向けて(物品購入計画等について)
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について

- ・褥瘡管理者の長期出張中の対応について

(2) 2017年5月18日(木)「小会議室」

- ・褥瘡対策委員規程について
- ・褥瘡患者について(4月)
- ・平成28年度看護部BSC評価
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について

(3) 2017年6月8日(木)「小会議室」

- ・褥瘡患者について
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について

(4) 2017年7月13日(木)「小会議室」

- ・褥瘡患者について
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- ・褥瘡対策マニュアルの改訂について
- ・褥瘡患者報告書の未提出状況について

(5) 2017年8月10日(木)「小会議室」

- ・褥瘡対策マニュアルについて
- ・褥瘡患者について
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について

(6) 2017年9月14日(木)「小会議室」

- ・褥瘡患者について
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について

(7) 2017年10月13日(木)「小会議室」

- ・褥瘡患者について
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について

(8) 2017年11月9日(木)「小会議室」

- ・褥瘡患者について
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- ・サンプル商品の紹介について

- (9) 2017年12月14日 (木) 「小会議室」
- 褥瘡患者について
 - 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
 - サンプル商品使用後評価について
 - 院内研修予定について

- (11) 2018年2月9日 (木) 「小会議室」
- 褥瘡患者について
 - 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
 - 褥瘡対策委員会規程について
 - 褥瘡対策チーム規程について

- (10) 2018年1月11日 (木) 「小会議室」
- 褥瘡患者について
 - 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
 - 褥瘡学会及び院内研修会等の開催予定について

- (12) 2018年3月8日 (木) 「小会議室」
- 褥瘡患者について
 - 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
 - 褥瘡対策チーム規程について
 - 褥瘡に係る平成30年度診療報酬改定について

■ 年間活動実績

- 病棟及びリハビリ科において褥瘡に係る体位変換・除圧方法について研修を行った。
- 医療関連機器損傷予防の材料を導入した。
- N S Tと連携した褥瘡回診を行った。
- 褥瘡に係るサンプル商品の評価
- 院内褥瘡発生要因から自部署の特徴をとらえ、来年度の褥瘡予防活動計画へ反映させた。

● 褥瘡対策に関する診療計画書の作成件数 (件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
86	125	93	124	123	96	125	108	123	131	123	121	1,378

● 褥瘡ハイリスク加算算定件数 (件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
81	75	69	66	63	68	70	69	78	74	71	65	849

放射線部安全運営委員会

委員長 永尾 一彦

■ 目的と方針

本委員会は、放射線障害予防規程及び細則の適正で効率的運用を図るため、予防規程第11条に定める放射線障害防止について必要な事項を企画・審議し放射線関連業務を円滑に運営するための協議機関として放射線安全委員会と放射線部運用委員会が融合した委員会となっている。

■ 2018年度の目標

- (1) MRI更新に係る円滑な導入。
- (2) 放射線測定器（サーベイメータ）の構成について計画的に実施する。
- (3) 個人被曝線量測定器（フィルムバッチ未装置の代替ポケット線量計）を順次更新し従事者の安全を確保する。
- (4) 放射線関連機器の精度管理、早期点検の実施及びCT更新に向けての機器選定準備を実施する。

■ 委員会の構成

委員：20名

（2018年3月現在、委員長・書記を含む）

[内 訳]

- ・医師：6名
- ・看護師：2名
- ・医療職：10名
- ・事務局：2名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と審議内容

放射線部安全運営委員会（3回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年4月6日(木)	19名	95.0%
第2回	2017年11月9日(木)	19名	95.0%
第3回	2018年2月15日(木)	19名	95.0%

■ 審議・報告内容

(1) 2017年4月6日(水)「小会議室」

- ・委員会規程について
- ・下肢全長合成前オリジナル画像のPACS保存について
- ・MRI枠（脳ドック）の改編について
- ・個人被曝線量の注意喚起について

(2) 2017年11月9日(木)「小会議室」

- ・夜間・休日等での造影剤CTに使用する造影剤投与量について
- ・平成30年度放射線部機器等整備について
- ・放射線障害防止法の改定について

(3) 2018年2月15日(木)「小会議室」

- ・平成30年度委員会規程及び行動指針について
- ・平成30年度放射線治療担当技師の追加専任について
- ・シンチ血流相についてオーダーメニュー説明文追加について
- ・平成30年度放射線部門機器等整備について
- ・治療用CT管路交換予定について
- ・放射線同位元素等取扱施設定期検査及び放射線治療線量の第三者評価実施予定について

■ 2018年度計画

- ・平成30年度にMRI更新を予定しており、更新期間においては救急患者等を優先させるため、土曜脳ドックの受入れを中止する。
- ・平成30年度放射線関連機器更新予定について
 - ①MRI（1.5T）更新予定
 - ②PACS・RIS更新予定
 - ③歯科用パノラマ更新予定
 - ④12室CTのバージョンアップメンテナンス予定（逐次近似法による画像提供可）
 - ⑤マンモグラフィ（トモシンセス対応）及びバイオプシー更新予定

■ 目的と方針

中央検査部の円滑な運営及び適切な管理を図ることを目的とする。

■ 2018年度の目標

- (1) 中央検査部内の統計状況（件数・収支など）の報告をする。
- (2) 臨床検査の精度管理状況を報告する。
院内の日常的精度管理に加え、日本臨床検査技師会や日本医師会など外部組織が主催する精度管理サーベイへの参加
- (3) 他部門への連絡事項の発信と提案事項の審議を行う。
検査項目の追加や削除、院内検査から外部委託検査への変更あるいはその逆、検査基準範囲の見直しなど。

■ 委員会の構成

委員：12名

（2018年3月現在、委員長・書記を含む）

[内 訳]

- ・医 師：6名
- ・看護 師：2名
- ・医 療 職：3名
- ・事 務 局：1名

■ 年間活動

2017年度開催日と協議内容

中央検査部管理運営委員会開催日（3回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第56回	2017年6月21日(水)	12名	100.0%
第57回	2017年10月17日(火)	11名	91.7%
第58回	2018年2月21日(水)	11名	91.7%

■ 審議内容

(1) 2017年6月21日(水)「栄養指導室」

- ・精度管理報告：中央検査部内部及び外部組織主催（平成28年度日本医師会臨床検査精度管理調査）
- ・中央検査部統計報告
検査件数、検体管理加算件数・管理加算料等について
- ・委員会規程の一部改正について
構成委員の院内役職名表記の一部変更及び書記を委員から切り離し別枠とする事
- ・「可溶性インターロイキン-2(IL-2)レセプター」検査の院内実施について

外部委託検査から当院検査室での実施に向けての提案が承認

- ・病院2階再開発に伴う検査部の一部移動予定について

平成29年7月3日(月)：生理検査の一部が旧化学療法室に移動予定

平成29年7月8日(土)：中央採血室の現検査室内への移動に伴う改修工事開始予定

平成29年10月2日(月)：新中央採血室稼動開始予定

- ・検体部門主要機器メンテナンス及び故障状況について報告（4件）

平成29年4月1日から平成29年6月19日まで報告

(2) 2017年10月17日(火)「中会議室」

- ・中央検査部内部精度管理報告
- ・中央検査部統計報告
検査件数、検体管理加算件数・管理加算料等について
- ・病院2階再開発に伴う検査部の部門移設状況について

（平成29年7月3日、9月29日、10月2日の状況）

平成29年9月29日(金)：全自動採血準備装置(BCロボ)を新中央採血室に移設

- ・検体部門主要機器メンテナンス及び故障状況について報告（36件）

平成29年4月1日から10月12日まで報告

(3) 2018年2月21日(水)「栄養指導室」

- ・平成30年度委員会の規程について
平成29年度の委員会の規程を平成30年度にも継続する事を承認
- ・精度管理報告：中央検査部内部及び外部組織主催（平成29年度日臨技臨床検査精度管理調査）
- ・中央検査部統計報告
検査件数、検体管理加算件数・管理加算料等について
- ・検体部門主要機器メンテナンス及び故障状況について報告（59件）
平成29年4月1日から平成30年2月6日まで報告
- ・病院2階再開発に伴う検査部の現状と動向について
平成29年4月から平成30年2月まで報告

年間活動実績

- ①平成28年度日本医師会臨床検査精度管理調査報告…93.6点（満点：100点）で良好であった。
 ②平成29年度日臨技臨床検査精度管理調査報告…99.1点（満点：100点）で良好であった。
 ③平成29年度統計結果報告：数値はいずれも表示期間内の月平均である
 （ ）内は同期間の対前年比である

	第56回（2017.6.21） H28年4月～H29年3月	第57回（2017.10.17） H29年4月～H29年8月 ※検査件数は、 H28年4月～H29年9月	第58回（2018.2.21） H29年4月～H30年1月 ※管理加算件数及び加算料、 検査実施料は、 H29年4月～H29年12月
検査件数（件）	137,141（6.7%↓）	135,026（2.9%↓）	135,043（1.6%↓）
検査実施料（千円）	39,589（7.3%↓）	40,038（0.2%↓）	39,703（0.3%↑）
検体管理加算件数（件）	4,702（3.0%↓）	4,665（1.8%↓）	4,652（1.3%↓）
検体管理加算料（千円）	4,755（0.6%↓）	4,777（0.4%↑）	4,708（0.8%↓）
委託検査件数（件）	2,361（3.7%↓）	2,179（10.9%↓）	2,110（10.3%↓）
委託検査支払額（千円）	4,351（12.1%↓）	3,883（16.4%↓）	4,198（4.0%↓）

前年同期に比べ検査件数は減少し、検査実施料は僅かに増加した。管理加算件数及び管理加算料は前年より多少減少傾向である。委託検査件数及び委託検査支払額は、内科外来の依頼件数の減少に伴い減少となった。

- ④「可溶性インターロイキン-2（IL-2）レセプター」検査を平成29年8月1日より院内実施開始となった。

■ 目的と方針

保育委員会は、院内保育所の適正な運営に資することを目的とする。

■ 2018年度の目標

保育所の運営に関する重要事項、保育所管理者の諮問事項を審議し、適正な運営を行う。

■ 委員会の構成

委員：10名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医 師：1名
- ・看護師：1名
- ・保育士：2名
- ・母親代表：1名
- ・職員代表：1名
- ・事務局：4名

■ 年間活動

2017年度開催日

保育委員会（1回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2018年3月13日(火)	10名	100%

■ 審議内容

(1) 2018年3月13日(火)

- ・平成30年度委員会規程・行動指針・構成（案）について
- ・平成30年度院内保育所年間行事予定表（案）について

■ 年間活動実績

【院内保育所年間行事】

- 4月 進級式
- 5月 こいのぼり制作、交通安全教室
- 6月 夏の制作
- 7月 七夕会、夏祭り
- 8月 親子遠足
- 9月 運動会
- 10月 秋の制作、作品展
- 11月 冬の制作、給食試食会
- 12月 クリスマス、お遊戯会
- 1月 参観日
- 2月 豆まき会
- 3月 ひな祭り会、お別れ会

- 毎月 お誕生会、お集まり、身体測定、避難訓練
- 年2回 健康診断

健診業務体制整備委員会

委員長 辻本和代

目的と方針

本委員会は、健診業務体制整備を目的としたものであり、健康診断業務に関する事項の業務遂行を円滑に運営するために審議し検討を行う。

2018年度の目標

- (1) 「健診件数」対前年度と同件数を維持する。
- (2) 受健者に健診結果を迅速に報告する。
- (3) 受健者に安心して検査を受けてもらえるよう配慮する。

委員会の構成

委員：9名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

〔内 訳〕

- ・医師：1名
- ・看護師：2名
- ・医療職：2名
- ・事務局：4名

年間活動内容と実績

2017年度開催日と審議内容

健診業務体制整備委員会（2回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年9月6日(水)	9名	100%
第2回	2018年2月26日(月)	9名	100%

審議・報告内容

(1) 2017年9月6日(水)「大会議室」

- ・委員会規程について
- ・健診実施状況報告
- ・土曜脳ドック開設報告

(2) 2018年2月26日(月)「大会議室」

- ・2018年度委員会規程(案)について
- ・健診実施状況報告
- ・土曜脳ドック運用状況について報告
- ・釧路市消防本部からの肝炎検査実施依頼について報告

年間活動実績

(件)

健診項目	2016年度	2017年度
日帰り人間ドック	483	516
生活習慣病健診	430	454
特定健診	418	424
企業・個人健診	32	32
石綿・塵肺	289	208
有機溶剤	6	19
その他特殊健診	96	171
脳ドック	410	428
土曜脳ドック	0	26
乳がん検診	245	238
子宮がん検診	151	161
合計	2,560	2,677

■ 目的と方針

広報の円滑な発行に資することと及び患者、医療関係者、マスコミ、その他外部機関に対して病院職員が組織横断的に広報活動を行い病院の広報戦略を企画立案し実行する。

■ 2018年度の目標

- 病院の情報を素早く、正確に、わかりやすく地域に伝達する。
- 既成概念にとらわれず、柔軟な発想力を持って委員会を運営する。
- 各委員会が自覚を持ち、委員会の質の向上を図って行く。

■ 委員会の構成

委員：17名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- 医師：1名
- 看護師：1名
- 医療職：5名
- 事務局：10名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と審議内容

広報編集委員会開催日 (13回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年4月10日(月)	16名	91.1%
第2回	2017年5月8日(月)	15名	88.2%
第3回	2017年6月12日(月)	14名	82.4%
第4回	2017年7月10日(月)	14名	82.4%
第5回	2017年7月18日(火)	17名	100.0%
第6回	2017年8月14日(月)	17名	100.0%
第7回	2017年9月12日(火)	13名	76.5%
第8回	2017年10月16日(月)	15名	88.2%
第9回	2017年11月13日(月)	13名	76.5%
第10回	2017年12月11日(月)	16名	91.1%
第11回	2018年1月15日(月)	16名	91.1%
第12回	2018年2月15日(木)	14名	82.4%
第13回	2018年3月12日(月)	14名	82.4%

■ 審議内容

- (1) 2017年4月10日(月) [大会議室]
- 平成29年度年間スケジュールの再確認について
 - ホームページアクセス件数の報告について

- 広報編集委員会構成委員について

(2) 2017年5月8日(月) [大会議室]

- 5月発行分広報紙について
- ホームページアクセス件数の報告について
- 委員会規程について

(3) 2017年6月12日(月) [大会議室]

- 6月発行分広報紙について
- ホームページアクセス件数の報告について
- かわら版に対するアンケートについて
- ホームページについて

(4) 2017年7月10日(月) [大会議室]

- 7月発行分広報紙について
- 「かわら版」<秋号>進捗状況について
- 中央リハビリテーション部院内広報「リハビリニュース」について
- 読者からのご意見・ご要望アンケートについて
- ホームページアクセス件数の報告について

(5) 2017年7月18日(火) [持ち回り]

- 中央リハビリテーション部院内広報「リハビリテーション通信」について

(6) 2017年8月14日(月) [大会議室]

- 8月発行分広報紙について
- 「かわら版」<秋号>進捗状況について
- 読者からのご意見・ご要望アンケートについて
- ホームページアクセス件数の報告について
- リハビリニュース(通信)企画取り下げの報告
- ホームページ全ページにおける「理念」の掲載について

(7) 2017年9月12日(火) [大会議室]

- 9月発行分広報紙について
- 「かわら版」<秋号>ドラフト版について
- ホームページアクセス件数の報告について

(8) 2017年10月16日(月) [大会議室]

- 10月発行分広報紙について
- 「かわら版」<新春号>(案)について

- グループウェア(サイボウズ)運用管理規程(案)について
- ホームページアクセス件数の報告について

(9) 2017年11月13日(月)〔大会議室〕

- 11月発行分広報紙について
- 「かわら版」＜新春号＞進捗状況について
- ホームページアクセス件数の報告について

(10) 2017年12月11日(月)〔大会議室〕

- 12月発行分広報紙について
- 「かわら版」＜新春号＞進捗状況について
- ホームページアクセス件数の報告について
- 登録の紹介について
- ホームページの掲載について

(11) 2018年1月15日(月)〔大会議室〕

- 1月発行分広報紙について
- ホームページ「お知らせ欄(仮称)」について
- 「かわら版」＜新春号＞進捗状況について
- ホームページアクセス件数の報告について

(12) 2018年2月15日(月)〔大会議室〕

- 平成30年度広報編集委員会規程及び行動指針について
- 2月発行分広報紙について
- 平成30年度年間スケジュールについて
- 「かわら版」＜春号＞発行構成(案)について
 - ・ ホームページアクセス件数の報告について

(13) 2018年3月12日(月)〔大会議室〕

- 3月発行分広報紙について
- ホームページ「お知らせ欄(仮称)」について
- 「かわら版」＜春号＞進捗状況について
- ホームページアクセス件数の報告について

■ 目的と方針

病院誌「やちぼうず」編集委員会は、釧路労災病院年報の円滑な発行に資することを目的とする。また、当院が果たせる役割や機能を可能な限り情報提供し、組織の透明性を高めることで、地域との信頼関係を構築させる。

■ 2018年度の目標

- ・年報の円滑な発行に努め、医療活動等工夫を施す。
- ・当院が果たせる役割や機能の情報提供をわかりやすく行う。

■ 委員会の構成

委員：9名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：3名
- ・看護師：1名
- ・事務局：5名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と審議内容

病院誌「やちぼうず」編集委員会（3回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年4月28日（金）	9名	100.0%
第2回	2017年10月4日（金）	9名	100.0%
第3回	2018年2月9日（金）	9名	100.0%

■ 審議内容

(1) 2017年4月28日（金）「大会議室」

- ・2016年病院誌「やちぼうず」の構成案、スケジュールについて
- ・病院誌担当部署について
- ・病院誌「やちぼうず」編集委員会規程（案）について

(2) 2017年10月4日（水）「大会議室」

- ・2016年病院誌「やちぼうず」の進捗状況について
- ・2016年病院誌の校正・表紙（案）について

(3) 2018年2月9日（金）「持ち回り」

- ・平成30年度委員会規程及び行動指針について

衛生委員会

委員長 菅 龍彦

■ 目的と方針

職員の安全及び衛生管理に関して調査・研究審査し、安全衛生活動の推進徹底を図ることを目的とし、長時間労働者の実態把握のみならず、長時間労働となっている医師、診療科ごとの対応策について個別に議論できるよう長時間労働の要因を分析し、労働時間の短縮に努める。

■ 2018年度の目標

- (1) 職員の健康障害を防止するための基本となる対策の樹立
- (2) 職員の健康障害の原因の調査及び再発の防止に係る対策の樹立
- (3) 職員の衛生に係る教育の実施計画の作成
- (4) 健康診断の実施及びその結果に対する対策
- (5) 前各号に掲げるもののほか健康管理に必要な措置

■ 委員会の構成

委員：13名

(2018年3月現在、委員長・労働者代表推薦5名・書記含む)

[内 訳]

- ・医師：2名
- ・看護師：3名
- ・医療職：2名
- ・事務局：6名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と審議内容
衛生委員会 (12回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年4月18日(火)	12名	92.3%
第2回	2017年5月16日(火)	10名	76.9%
第3回	2017年6月20日(火)	12名	92.3%
第4回	2017年7月18日(火)	12名	92.3%
第5回	2017年8月15日(火)	11名	91.7%
第6回	2017年9月19日(火)	12名	92.3%
第7回	2017年10月17日(火)	10名	83.3%
第8回	2017年11月21日(火)	12名	92.3%
第9回	2017年12月19日(火)	13名	100.0%
第10回	2018年1月16日(火)	12名	92.3%
第11回	2018年2月20日(火)	12名	92.3%
第12回	2018年3月20日(火)	10名	76.9%

■ 審議事項

- (1) 2017年4月18日(火)「小会議室」
 - ・定期健康診断日程(案)について
 - ・VDT健診の実施方法(案)について
 - ・ストレスチェックの実施(案)について
 - ・新規採用者ワクチンプログラム(案)について
 - ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について
- (2) 2017年5月16日(火)「小会議室」
 - ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について
- (3) 2017年6月20日(火)「小会議室」
 - ・職場巡視(案)について
 - ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について
 - ・平成29年度健康診断受診状況について
- (4) 2017年7月18日(火)「小会議室」
 - ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について
- (5) 2017年8月15日(火)「小会議室」
 - ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について
- (6) 2017年9月19日(火)「小会議室」
 - ・インフルエンザ予防接種の実施について
 - ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について
 - ・職場巡視について
- (7) 2017年10月17日(火)「小会議室」
 - ・平成29年度特殊業務従事者健康診断について
 - ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について

- ・職場巡視について

(8) 2017年11月21日(火)「小会議室」

- ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
- ・業務上災害及び診断書提出者について
- ・平成29年度インフルエンザ予防接種実施者数について

(9) 2017年12月19日(火)「小会議室」

- ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
- ・業務上災害及び診断書提出者について
- ・職場巡視について
- ・平成29年度4種ウイルス・B型肝炎予防接種実施者数について

(10) 2018年1月16日(火)「小会議室」

- ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
- ・業務上災害及び診断書提出者について
- ・平成29年度特殊業務従事者健康診断受診状況について

(11) 2018年2月20日(火)「小会議室」

- ・平成30年度委員会規程・運営方針・構成(案)について
- ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
- ・業務上災害及び診断書提出者について
- ・職場巡視について
- ・平成30年度ストレスチェック委託業者について

(12) 2018年3月20日(火)「小会議室」

- ・委員会出席に係る委任について
- ・平成30年度職場巡視(案)について
- ・時間外勤務命令簿による出退勤管理の徹底等に係る所属長宛て周知文書(案)について
- ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
- ・業務上災害及び診断書提出者について

■ 年間活動

- (1) 産業医による長時間労働者への面談
- (2) 業務上災害・病気療養者の報告
- (3) ワクチン予防接種の実施(B型肝炎ワクチン、4種流行性ワクチン、インフルエンザワクチン)
- (4) 職員定期健康診断・特殊業務従事者健康診断の実施
- (5) 職場巡視の実施
- (6) 職員ストレスチェックの実施

患者サービス向上委員会

委員長 杉山好美

■ 目的と方針

患者サービスに関する問題点を明確にした上で、その改善策を検討し、これらの継続的な活動を進めることによって、患者に選ばれる病院を目指すことを目的とする。

■ 2018年度の目標

- (1) 接遇改善
- (2) 患者の利便性改善（院内清掃の改善、掲示板の整備・ラウンドの実施等）
- (3) 療養環境の向上（敷地内清掃、フロアの飾り付け等）
- (4) 患者投書の回答掲示・職員への周知

■ 委員会の構成

委員：22名

（2018年3月現在、委員長・書記を含む）

[内 訳]

- ・医師：3名
- ・看護師：5名
- ・医療職：4名
- ・事務局：10名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と審議内容

患者サービス向上委員会（12回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	4月12日(水)	21名	95%
第2回	5月10日(水)	22名	100%
第3回	6月14日(水)	21名	95%
第4回	7月12日(水)	21名	95%
第5回	8月16日(水)	20名	91%
第6回	9月13日(水)	22名	100%
第7回	10月11日(水)	22名	100%
第8回	11月8日(水)	21名	95%
第9回	12月13日(水)	19名	86%
第10回	1月10日(水)	18名	82%
第11回	2月14日(水)	18名	82%
第12回	3月14日(水)	18名	82%

■ 審議内容

- (1) 2017年4月12日（水）「大会議室」
 - ・委員会規定について
 - ・今年度の活動計画について
 - ・投書について
- (2) 2017年5月10日（水）「小会議室」
 - ・グループ年間活動計画について
 - ・投書について
- (3) 2017年6月14日（水）「大会議室」
 - ・グループ活動計画・報告について
 - ・投書について
- (4) 2017年7月12日（水）「大会議室」
 - ・グループ活動について
 - ・テレビカード精算機の設置場所について
 - ・投書について
- (5) 2017年8月9日（水）「大会議室」
 - ・グループ活動について
 - ・投書について
- (6) 2017年9月13日（水）「大会議室」
 - ・グループ活動について
 - ・投書について
 - ・患者満足度調査の実施について
- (7) 2017年10月11日（水）「大会議室」
 - ・グループ活動について
 - ・新設された採血待合室について
 - ・投書について
- (8) 2017年11月8日（水）「大会議室」
 - ・グループ活動について
 - ・投書について
- (9) 2017年12月13日（水）「講堂」
 - ・グループ活動について
 - ・投書について
- (10) 2018年1月10日（水）「講堂」
 - ・グループ活動について
 - ・投書について

- 患者満足度調査の結果について

(11) 2018年2月14日（水）「大会議室」

- 平成30年度の委員会規定（案）について
- グループ活動について
- 投書について
- 患者満足度調査の結果について

(12) 2018年3月14日（水）「講堂」

- グループ活動について
- 投書について

■ 年間活動実績

- ロビーコンサート、クリスマスコンサートの実施
（5月、12月）
- 接遇チェックの実施（1月）
- 敷地内清掃の実施（7月）
- 院内ラウンドの実施（8月）
- 患者満足度調査の実施（9月）
- 院内掲示物の整備（10月）
- 接遇マニュアルの見直し・修正

病院機能評価委員会

委員長 小笠原 和 宏

■ 目的と方針

本委員会は、認定期間中における質改善活動の継続、活性化を図り院内の取り組みを振り返り、文書化・可視化に努める。

■ 2018年度の目標

「期中の確認（中間評価）」でのB評価項目の現状把握と改善

■ 委員会の構成

委員：16名

（2018年3月現在、委員長・書記を含む）

[内 訳]

- 医師：2名
- 看護師：3名
- 医療職：4名
- 事務局：7名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と協議内容

病院機能評価委員会開催日（3回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年6月27日(火)	14名	87.5%
第2回	2017年7月25日(火)	15名	93.8%
第3回	2017年9月28日(木)	15名	93.8%

■ 審議内容

(1) 2017年6月27日（火）「大会議室」

- 「期中の確認」の実施について
- 前回評価に対する現状について

(2) 2017年7月25日（火）「大会議室」

- 「期中の確認」の提出スケジュール、分担表について
- 前回評価を踏まえた現在の取り組み状況について

(3) 2017年9月28日（木）「大会議室」

- 現在の取り組み状況の確認について
- 今後のスケジュールについて

■ 目的と方針

医師の業務負担軽減及び処遇改善に資する計画・評価を行うため、ドクターズクラークの対制及び業務内容の整備を目的とする。

■ 2018年度の目標

- (1) ドクターズクラークが行う業務教育
- (2) ドクターズクラークの適正配置
- (3) 医師が依頼する業務のルール作成
- (4) 年間計画の達成

(4) 2017年12月5日(木)「大会議室」

- ・ドクターズクラーク配置状況について

(5) 2018年2月14日(木)「大会議室」

- ・ドクターズクラーク運営委員会規程(案)について
- ・ドクターズクラーク配置状況について
- ・新年度配置計画(案)及びアンケート結果について

■ 委員会の構成

委員：25名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：13名
- ・看護師：3名
- ・事務局：9名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と協議内容

ドクターズクラーク運営委員会開催日(5回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年6月15日(木)	20名	80.0%
第2回	2017年8月17日(木)	21名	84.0%
第3回	2017年10月26日(木)	22名	88.0%
第4回	2017年12月5日(木)	19名	76.0%
第5回	2018年2月14日(木)	21名	84.0%

■ 審議内容

(1) 2017年6月15日(木)「講堂」

- ・ドクターズクラーク運営委員会規程(案)について
- ・ドクターズクラーク配置状況について

(2) 2017年8月17日(木)「大会議室」

- ・ドクターズクラーク配置状況について
- ・ドクターズクラーク業務に係る意見・要望について
- ・新規業務の取扱いについて

(3) 2017年10月26日(金)「大会議室」

- ・ドクターズクラーク配置状況について

勤務医／看護職員負担軽減対策委員会

委員長 宮城島 拓 人

■ 目的と方針

医師および看護職員の負担軽減及び処遇改善を図ることを目的とする。

■ 委員会の構成

委員：13名

(2018年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- 医師： 4名
- 看護師： 3名
- 医療職： 3名
- 事務局： 3名

■ 年間活動内容

2017年度開催日

勤務医／看護職員負担軽減対策委員会（2回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2017年7月26日(水)	11名	84.6%
第2回	2018年3月22日(木)	12名	92.3%

■ 審議内容

(1) 2017年7月26日(水)「小会議室」

- 平成29年度医師の業務負担軽減計画の進捗状況について
- 平成29年度看護師の業務負担軽減計画の進捗状況について

(2) 2018年3月22日(木)「小会議室」

- 勤務医および看護職員負担軽減対策委員会規程・委員について
- 平成29年度負担軽減計画について
- 平成30年度負担軽減計画について

■ 目的と方針

病院長（及び釧路労災看護専門学校長）から付議された研究者の利益相反（COI）自己申告書の審査及び利益相反回避勧告を行うことを目的とする。

■ 委員会の構成

委員：9名

（2018年3月現在、委員長・書記を含む）

[内 訳]

- ・医師：1名
- ・看護師：1名
- ・医療職：1名
- ・外部委員：2名
- ・事務局：4名

■ 年間活動内容と実績

（1）2018年3月20日（水）「持ち回り開催」

- ・利益相反自己申告書にかかる審査
「スモンに関する調査研究（釧路地区における患者の現状調査）」
- ・平成30年度委員会規程および行動指針の改訂

IV. 医療統計

患者数の推移（入院・外来）	125
診療科別入院患者数の推移	126
診療科別外来患者数（平成29年度）	127
診療科別入院単価の推移	128
診療科別外来単価の推移	128
紹介率・逆紹介率の推移	129
病床利用率の推移	129
平均在院日数の推移	130
時間外取扱患者数 総数と1日平均の推移	131
救急車受入件数（総数と1日平均）	132
手術件数の推移（手術室内）	132
全身麻酔件数の推移	133
化学療法件数の推移（入院・外来）	133
透析件数の推移（入院・外来）	134
内視鏡件数の推移（上部・下部）	134
放射線治療件数の推移	135
解剖件数の推移	135
2017年度後発医薬品指数	136
D P C 14桁 診断群分類上位頻度表（全科共通）	136
D P C M D C 6桁 診療科別上位頻度表	137
K c o d e 診療科別上位頻度表	140

患者数の推移（入院・外来）

年度別 単位		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
入院	承認病床数(床)	500	500	500	467	450
	稼働病床数(床)	450	450	450	450	450
	入院患者延数(人)	139,170	138,231	135,740	134,099	132,724
	1日平均患者数(人)	381	379	371	367	364
	新入院患者数(人)	9,391	8,685	8,643	8,783	8,805
	退院患者数(人)	9,390	8,688	8,647	8,755	8,870
	病床利用率(%)	84.7	84.2	82.4	81.6	80.8
	平均在院日数(日)	13.2	15.9	16.1	15.6	15.3
	病床回転数(回)	27.7	23.0	22.7	23.4	23.9
	1人1日当単価(円)	46,668	46,896	47,878	47,173	47,729
	診療実日数(日)	365	365	366	365	365
	院内死亡患者数(人)	438	402	400	393	353
	院内死亡率(%)	4.5	4.4	4.4	4.3	4.1
	解剖検体数(件)	7	6	9	4	6
	剖検率(%)	1.6	1.5	2.3	1.0	1.7
	労災患者延数(人)	5,404	4,125	3,732	3,197	3,570
	労災患者比率(%)	3.9	3.0	2.7	2.4	2.7
	時間外新入院患者数(人)	1,141	963	962	1,156	1,070

※院内死亡率…患者実数に対する年間死亡患者数の比率を計算したもの

※病床回転数…利用病床(病床数×病床利用率)が年度内に平均何回転したか推定したもの

※平成28年度 4月から11月は500床 12月から3月は467床

年度別 単位		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	外来患者延数(人)	235,009	236,495	241,294	240,156	241,328
	1日平均患者数(人)	963	969	993	988	989
	新外来患者数(人)	19,096	18,231	18,058	16,702	16,212
	新外来患者率(%)	8.1	7.7	7.5	7.0	6.7
	平均通院回数(回)	12.3	13.0	13.4	14.4	14.9
	1人1日当単価(円)	11,169	12,316	13,790	14,169	14,837
	診療実日数(日)	244	244	243	243	244
	入院中外来併診数(人)	38,777	36,512	36,531	42,103	40,251
	労災患者延数(人)	9,772	9,208	8,885	8,766	11,414
	労災患者比率(%)	4.2	3.9	3.7	3.7	4.7
	時間外外来患者数(人)	3,834	3,644	3,691	3,815	3,439

診療科別入院患者数の推移

(単位：人)

	27年度				28年度				29年度			
	入院患者数		新入院患者数		入院患者数		新入院患者数		入院患者数		新入院患者数	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
内科	52,691	144.0	3,630	9.9	52,122	142.8	3,878	10.6	52,554	144.0	3,831	10.5
神経内科	5,239	14.3	175	0.5	5,605	15.4	185	0.5	5,430	14.9	214	0.6
循環器内科	40	0.1	4	0.0	9	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0
小児科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
外科	13,060	35.7	905	2.5	13,890	38.1	888	2.4	12,551	34.4	801	2.2
整形外科	24,849	67.9	1,078	2.9	21,078	57.7	831	2.3	24,185	66.3	1,047	2.9
形成外科	4,891	13.4	356	1.0	5,570	15.3	432	1.2	4,209	11.5	356	1.0
脳神経外科	20,367	55.6	817	2.3	22,268	61.0	898	2.5	20,126	55.1	886	2.4
皮膚科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
泌尿器科	6,345	17.3	486	1.3	5,986	16.4	526	1.4	5,061	13.9	541	1.5
産婦人科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
眼科	1,327	3.6	184	0.5	1,292	3.5	179	0.5	1,342	3.7	172	0.5
耳鼻咽喉科	5,170	14.1	563	1.5	4,767	13.1	533	1.5	5,522	15.1	512	1.4
リハ科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
放射線科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
麻酔科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
歯科口腔外科	1,761	4.8	445	1.2	1,512	4.1	432	1.2	1,744	4.8	445	1.2
合計	135,740	370.9	8,643	23.6	134,099	367.4	8,783	24.1	132,724	363.6	8,805	24.1
労災患者数 (再掲)	3,732	10.2	-	-	3,197	8.8	-	-	3,570	9.8	-	-

診療科別外来患者数 (平成29年度)

(単位:人)

	新 患	再 来	合 計	一 日 平 均 患 者 数		
				新 患	再 来	合 計
内 科	2,822	50,673	53,495	11.6	207.7	219.2
精 神 科	172	1,602	1,774	0.7	6.6	7.3
神 経 内 科	657	9,561	10,218	2.7	39.2	41.9
循 環 器 内 科	662	6,853	7,515	2.7	28.1	30.8
小 児 科	0	0	0	0.0	0.0	0.0
外 科	859	11,384	12,243	3.5	46.7	50.2
整 形 外 科	2,387	34,942	37,329	9.8	143.2	153.0
形 成 外 科	1,268	6,679	7,947	5.2	27.4	32.6
脳 神 経 外 科	1,303	16,735	18,038	5.3	68.6	73.9
皮 膚 科	75	364	439	0.3	1.5	1.8
泌 尿 器 科	647	17,463	18,110	2.7	71.6	74.2
産 婦 人 科	42	300	342	0.2	1.2	1.4
眼 科	560	7,381	7,941	2.3	30.3	32.5
耳 鼻 咽 喉 科	1,374	10,723	12,097	5.6	43.9	49.6
リ ハ 科	730	37,633	38,363	3.0	154.2	157.2
放 射 線 科	201	5,967	6,168	0.8	24.5	25.3
麻 酔 科	9	20	29	0.0	0.1	0.1
歯 科 口 腔 外 科	1,952	6,820	8,772	8.0	28.0	36.0
医 療 相 談 科	492	16	508	2.0	0.1	2.1
合 計	16,212	225,116	241,328	66.4	922.6	989.0
労災患者数(再掲)	-	-	11,414	-	-	46.8

診療科別入院単価の推移

(単位：円)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
内 科	43,192	45,213	48,082	48,121	47,824
精 神 科	—	—	—	—	—
神 経 内 科	35,417	34,583	35,000	36,074	40,211
循 環 器 内 科	91,353	89,896	159,750	184,099	—
小 児 科	—	—	—	—	—
外 科	55,640	54,547	56,371	57,240	55,787
整 形 外 科	49,433	51,518	50,202	46,075	45,282
形 成 外 科	44,961	42,816	41,865	39,858	41,516
脳 神 経 外 科	47,550	44,275	43,161	42,104	47,597
皮 膚 科	—	—	—	—	—
泌 尿 器 科	47,489	45,255	43,831	48,751	51,669
産 婦 人 科	—	—	—	—	—
眼 科	57,154	57,985	63,133	57,182	54,994
耳 鼻 咽 喉 科	42,132	42,638	45,832	46,594	41,785
リ ハ 科	—	—	—	—	—
放 射 線 科	—	—	—	—	—
麻 酔 科	—	—	—	—	—
歯 科 口 腔 外 科	59,328	57,621	62,097	66,321	62,507
医 療 相 談 科	74,930	—	—	—	—
合 計	46,668	46,896	47,878	47,173	47,729

診療科別外来単価の推移

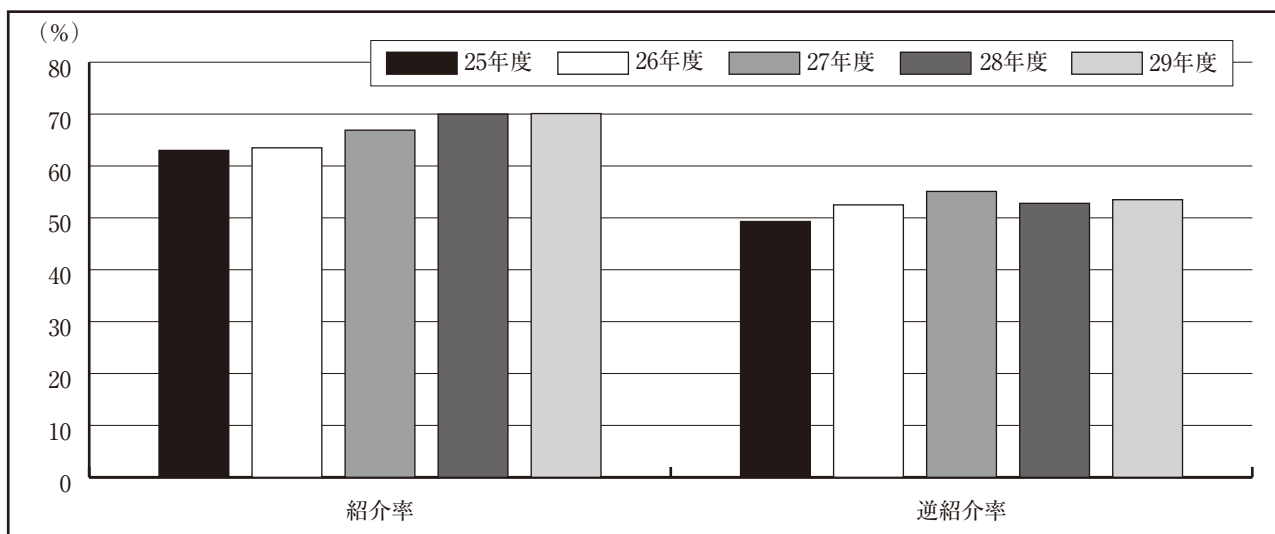
(単位：円)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
内 科	19,529	23,612	29,859	32,192	34,958
精 神 科	—	5,140	5,490	5,524	5,455
神 経 内 科	8,970	9,728	10,302	9,650	10,954
循 環 器 内 科	7,369	7,048	6,753	6,861	6,624
小 児 科	—	—	—	—	—
外 科	18,367	19,106	19,243	19,671	19,519
整 形 外 科	6,565	6,464	6,725	6,568	6,797
形 成 外 科	6,391	6,745	9,232	9,385	8,424
脳 神 経 外 科	8,385	8,497	8,502	9,134	9,362
皮 膚 科	1,479	1,274	1,624	1,896	1,560
泌 尿 器 科	17,842	18,168	18,235	17,965	18,381
産 婦 人 科	6,627	5,127	7,086	5,277	5,798
眼 科	4,586	4,775	4,803	5,223	4,937
耳 鼻 咽 喉 科	6,012	6,409	6,329	6,571	7,251
リ ハ 科	4,356	4,269	3,418	3,510	4,145
放 射 線 科	14,416	14,715	14,852	15,892	17,550
麻 酔 科	8,818	3,765	1,943	1,456	1,516
歯 科 口 腔 外 科	6,833	7,138	7,372	7,328	7,067
医 療 相 談 科	35,610	39,984	37,203	35,908	37,131
合 計	11,169	12,316	13,790	14,169	14,837

紹介率・逆紹介率の推移

(単位：%)

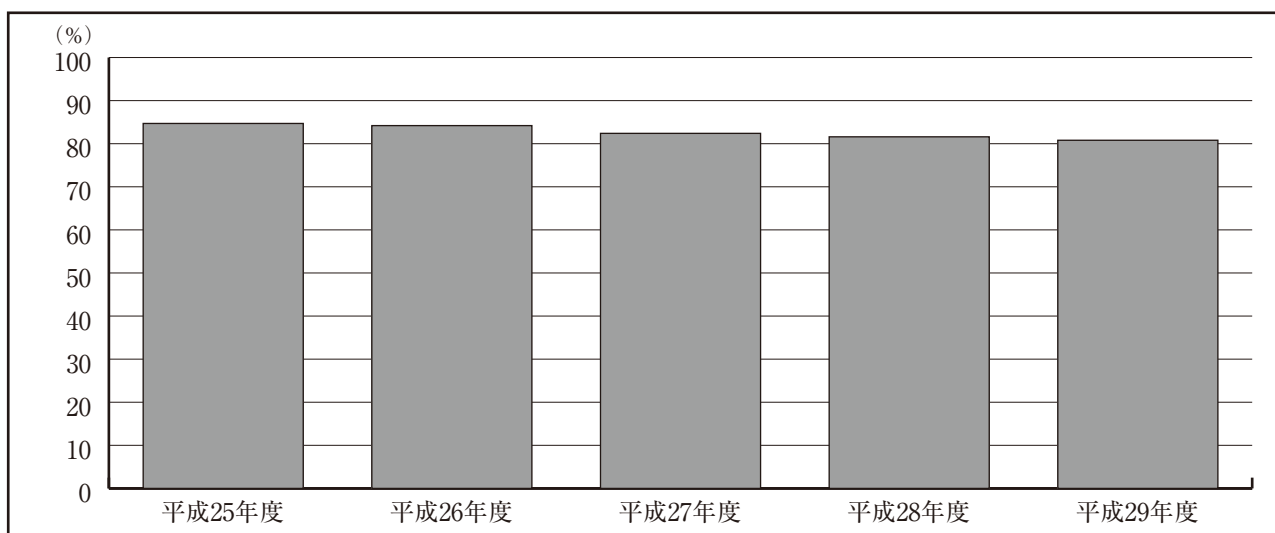
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
紹介率	63.0	63.5	66.9	70.0	70.1
逆紹介率	49.3	52.5	55.1	52.8	53.5



病床利用率の推移

(単位：%)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
病床利用率	84.7	84.2	82.4	81.6	80.8



平均在院日数の推移

(単位：日)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
内 科	13.5	15.8	14.9	13.7	14.0
神 経 内 科	27.7	35.4	31.4	31.5	25.4
循 環 器 内 科	18.6	11.2	10.0	9.0	0.0
小 児 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
外 科	14.0	15.8	15.3	16.8	16.5
整 形 外 科	21.1	21.3	23.5	25.8	23.6
形 成 外 科	13.3	14.3	13.9	13.3	11.8
脳 神 経 外 科	19.5	22.6	25.4	25.5	23.2
皮 膚 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌 尿 器 科	12.8	12.5	13.3	11.6	9.4
産 婦 人 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
眼 科	7.2	8.6	7.2	7.2	7.8
耳 鼻 咽 喉 科	10.7	9.7	9.3	9.0	10.7
リ ハ 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放 射 線 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
麻 酔 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	4.4	4.6	4.0	3.5	3.9
医 療 相 談 科	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合 計	14.8	16.4	16.1	15.6	15.3

時間外取扱患者数 総数と1日平均の推移

(単位：人)

総数	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
内科	1,258	1,023	1,204	1,234	1,139
精神科	0	0	0	1	1
神経内科	74	57	58	62	59
循環器内科	7	3	1	3	6
小児科	0	0	0	0	0
外科	190	162	168	185	157
整形外科	910	1,009	863	927	733
形成外科	337	357	312	274	244
脳神経外科	586	634	669	722	697
皮膚科	0	0	0	0	1
泌尿器科	151	98	117	114	108
産婦人科	0	0	0	0	0
眼科	68	54	52	64	53
耳鼻咽喉科	203	197	207	203	211
リハ科	0	0	0	0	0
放射線科	1	0	0	0	0
麻酔科	0	0	0	1	0
歯科口腔外科	49	50	40	25	30
医療相談科	0	0	0	0	0
合計	3,834	3,644	3,691	3,815	3,439

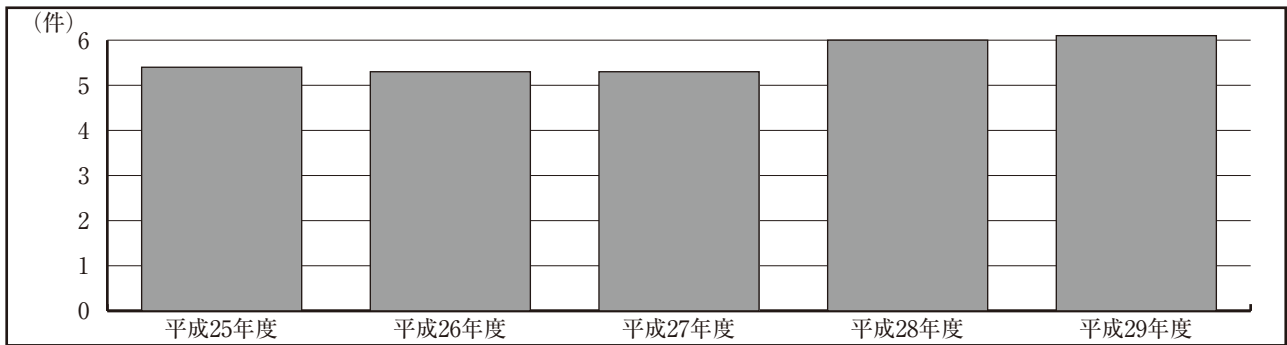
(単位：人)

1日平均	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
内科	3.4	2.8	3.3	3.4	3.1
精神科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
神経内科	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
循環器内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小児科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
外科	0.5	0.4	0.5	0.5	0.4
整形外科	2.5	2.8	2.4	2.5	2.0
形成外科	0.9	1.0	0.9	0.8	0.7
脳神経外科	1.6	1.7	1.8	2.0	1.9
皮膚科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3
産婦人科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
眼科	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1
耳鼻咽喉科	0.6	0.5	0.6	0.6	0.6
リハ科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放射線科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
麻酔科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
歯科口腔外科	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
医療相談科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	10.5	10.0	10.1	10.5	9.4

救急車受入件数（総数と1日平均）

（単位：件）

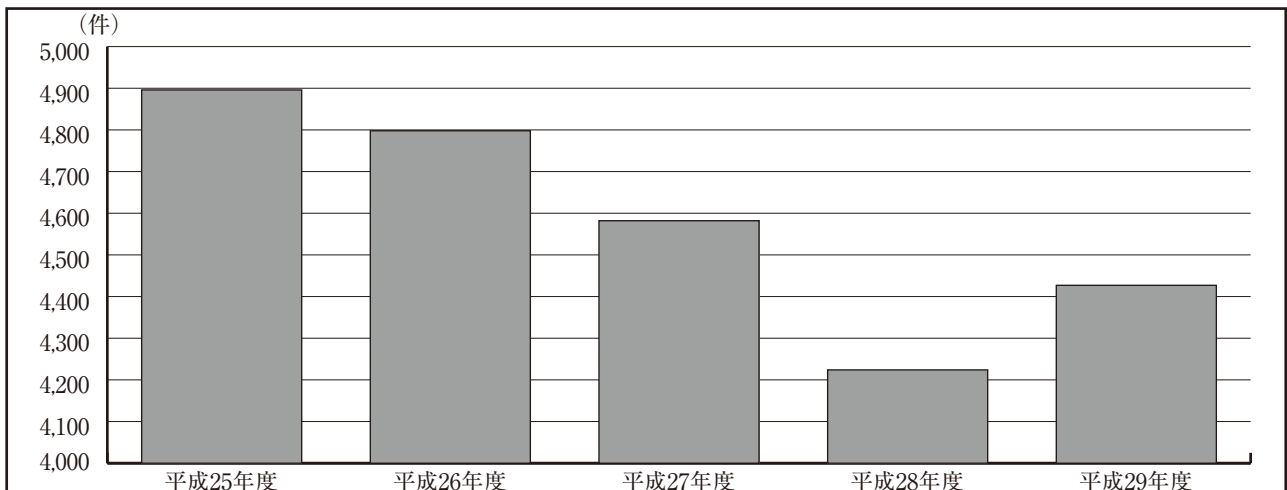
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
総 数	1,986	1,919	1,948	2,185	2,222
1 日 平 均	5.4	5.3	5.3	6.0	6.1



手術件数の推移（手術室内）

（単位：件）

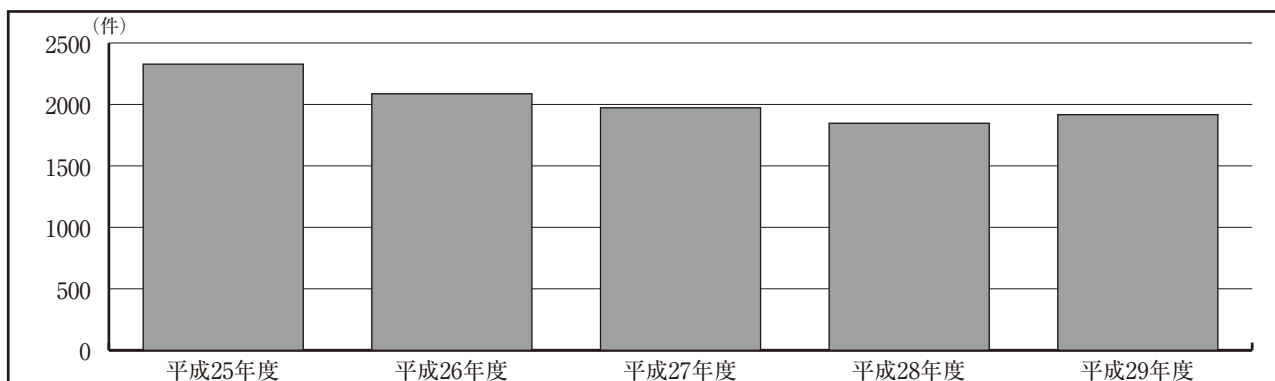
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
内 科	0	3	2	2	0
外 科	679	591	610	630	609
整 形 外 科	1,402	1,469	1,156	801	905
形 成 外 科	788	837	785	809	882
脳 神 経 外 科	449	419	349	332	378
心 臓 血 管 外 科	-	-	-	-	-
皮 膚 科	-	-	-	-	-
泌 尿 器 科	228	231	278	287	286
産 科	-	-	-	-	-
産 婦 人 科	-	-	-	-	-
眼 科	171	177	301	313	305
耳 鼻 咽 喉 科	340	281	336	290	261
リ ハ 科	-	-	-	-	-
歯 科 口 腔 外 科	-	-	-	-	-
神 経 内 科	2	2	-	-	-
合 計	4,898	4,798	4,582	4,224	4,427



全身麻酔件数の推移

(単位：件)

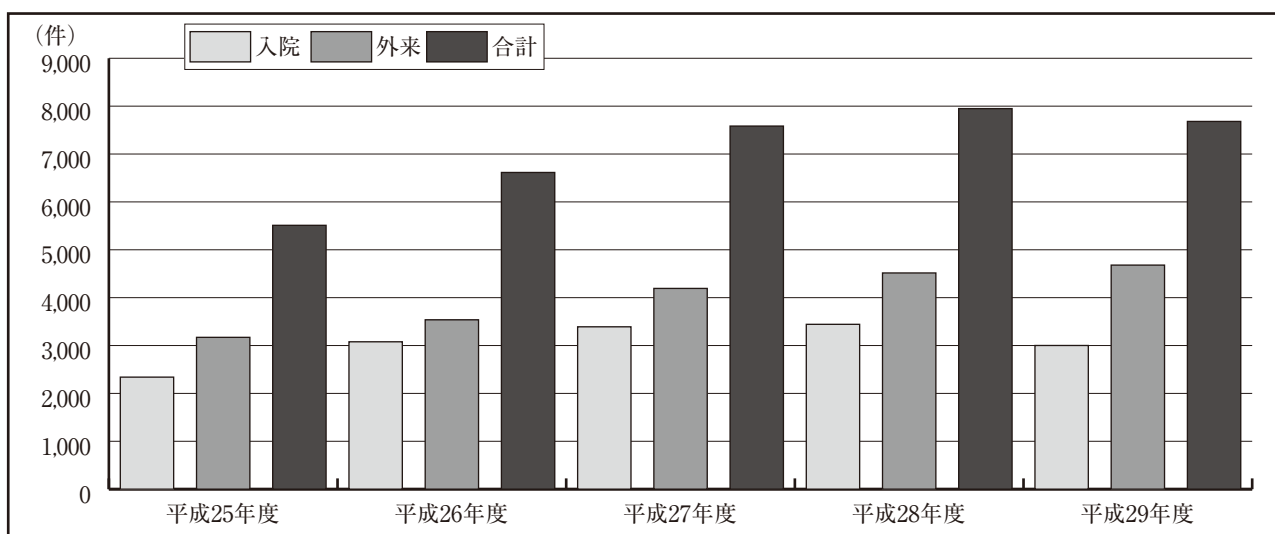
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
全身麻酔件数	2,328	2,087	1,973	1,847	1,917



化学療法件数の推移（入院・外来）

(単位：件)

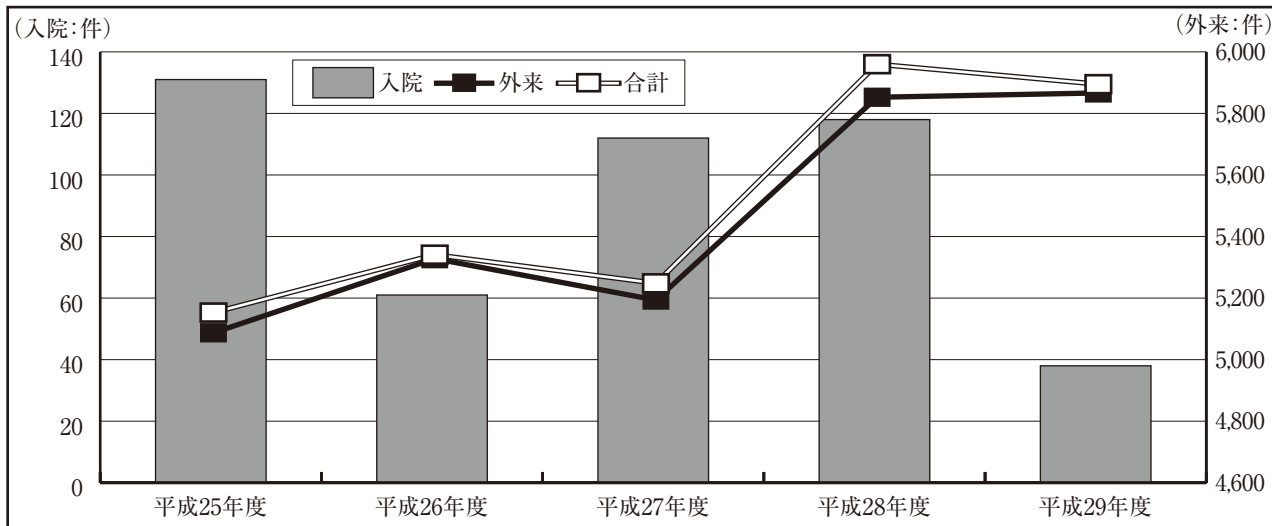
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
入院	2,340	3,078	3,391	3,433	3,001
外来	3,171	3,537	4,193	4,516	4,680
合計	5,511	6,615	7,584	7,949	7,681



透析件数の推移（入院・外来）

（単位：件）

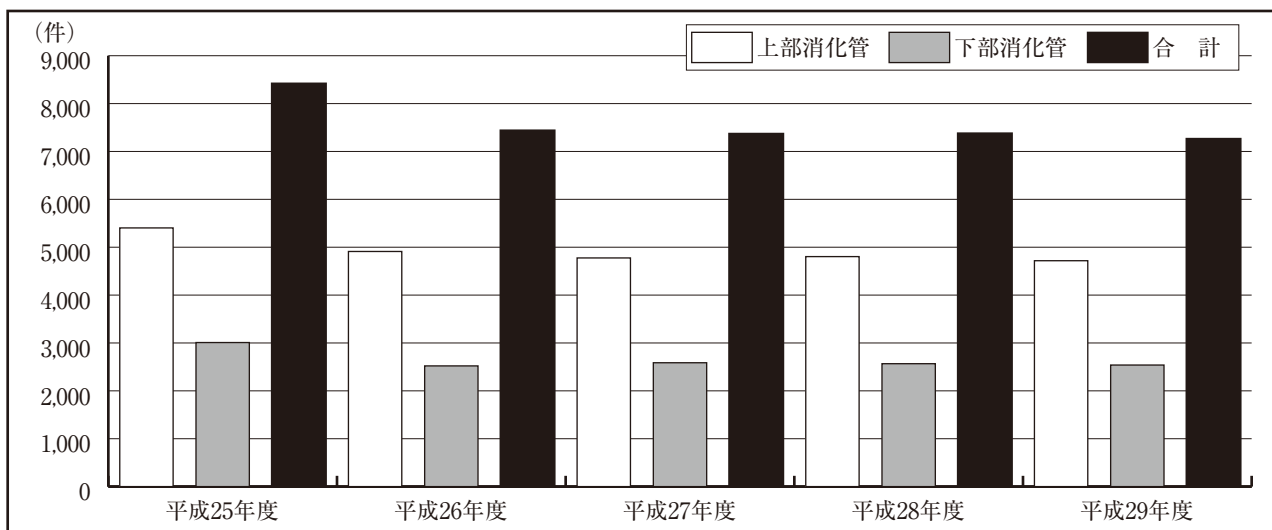
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
入院	131	61	112	118	38
外来	5,022	5,280	5,136	5,842	5,857
合計	5,153	5,341	5,248	5,960	5,895



内視鏡件数の推移（上部・下部）

（単位：件）

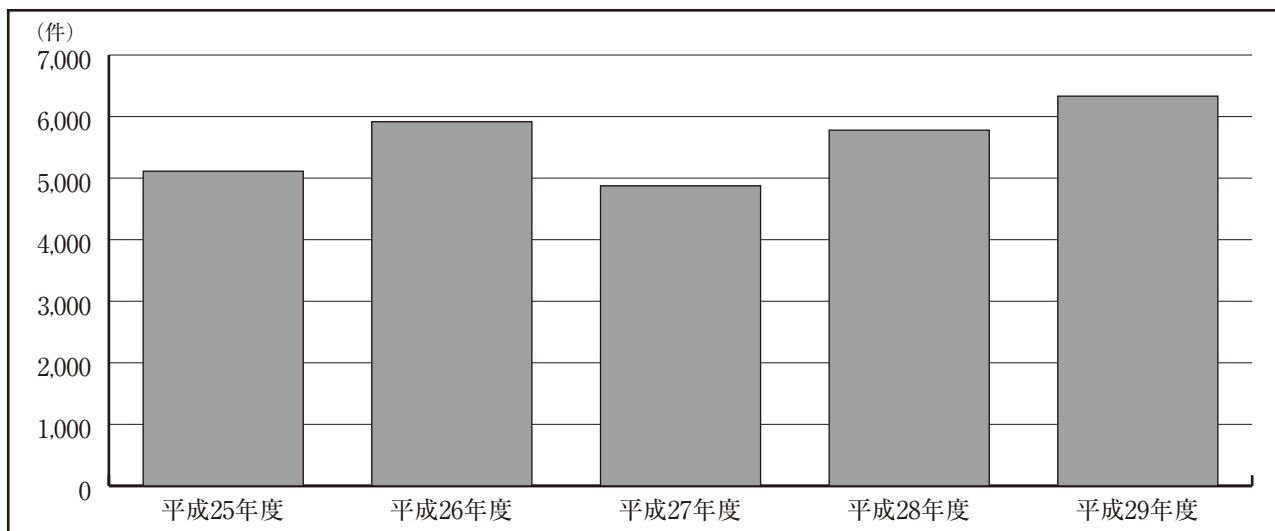
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
上部消化管	5,403	4,911	4,776	4,804	4,718
下部消化管	3,009	2,521	2,587	2,567	2,539
合計	8,412	7,432	7,363	7,371	7,257



放射線治療件数の推移

(単位：件)

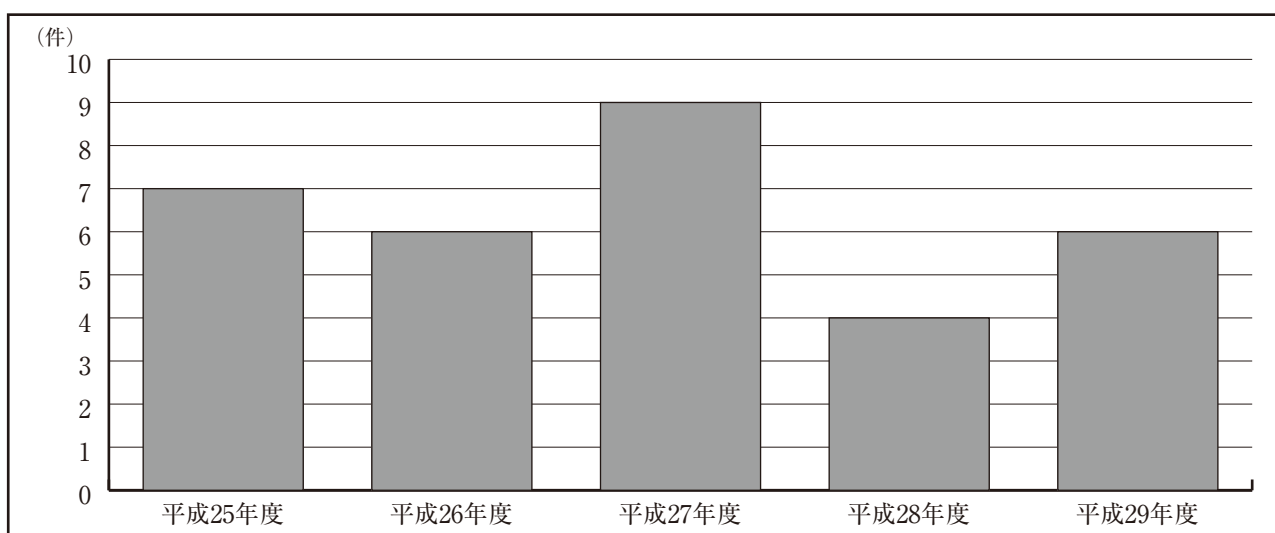
1日平均	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
放射線件数	5,113	5,916	4,875	5,779	6,332



解剖件数の推移

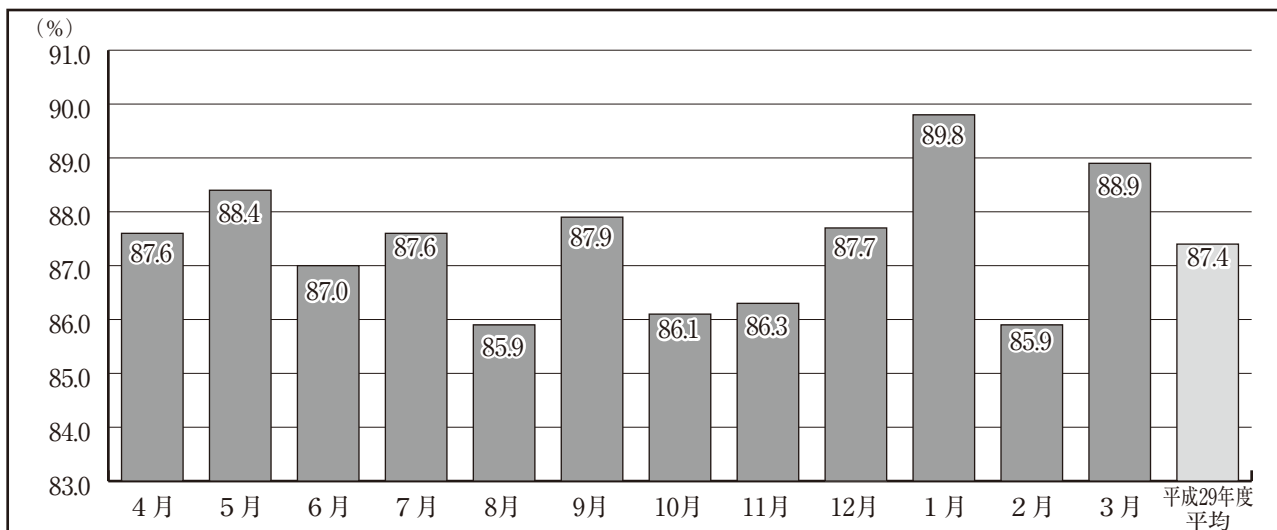
(単位：件)

1日平均	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
解剖件数	7	6	9	4	6



2017年度 後発医薬品指数

年 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H29年度 平均
後発医薬品指数 (%)	87.6	88.4	87.0	87.6	85.9	87.9	86.1	86.3	87.7	89.8	85.9	88.9	87.4



DPC14桁 診断群分類上位頻度表 (全科共通)

対象：2017年4月1日～2018年3月31日退院患者

(転科を含み、医療資源を最も投入した傷病の診療科で集計)

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	症例数 (件)
1	060100xxxxxxノ	小腸大腸の良性疾患の短手3 (内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 (長径2cm未満))	507
2	020110xxxxxxリ	白内障、水晶体の疾患の短手3 (水晶体再建術 (眼内レンズを挿入する場合)(その他)(片側))	166
3	010111xxxx0xx	遺伝性ニューロパチー 処置2なし	149
4	010060xxCCPM04	脳梗塞 (04) 手術なし 処置1なし 処置2:ラジカット (4) 副傷病:なし/水頭症等 (1) 他	125
4	060340xx03x00x	胆管結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 処置2なし 副傷病なし	125
6	030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	121
7	110080xxxxxxホ	前立腺の悪性腫瘍の短手3 (前立腺針生検法)	99
8	110070xx0200xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 処置1なし 処置2なし	92
9	020230xx97x0xx	眼瞼下垂 その他の手術 処置2なし	84
10	130030xx99x40x	非ホジキンリンパ腫 手術なし 処置2:リツキサソ (4) 副傷病なし	73
11	060035xx99x00x	結腸の悪性腫瘍 手術なし 処置2なし 副傷病なし	72
12	160800xx01xxxx	股関節大腿近位骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	71
13	060050xx97x0xx	肝・肝内胆管の悪性腫瘍 その他の手術 処置2なし	65
14	060020xx99x00x	胃の悪性腫瘍 手術なし 処置2なし 副傷病なし	60
15	030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	58
15	160690xx99x00x	胸椎、腰椎以下骨折損傷 手術なし 副傷病なし	58
17	040080xxCCPM04	肺炎等 (04) 75歳以上の市中肺炎 手術なし 処置2なし 重症度:中	57
17	06007xxx97x00x	膵臓、脾臓の腫瘍 その他の手術 処置2なし 副傷病なし	57
17	060335xx02000x	胆嚢水腫、胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 処置1なし 処置2なし 副傷病なし	57
20	06007xxx99000x	膵臓、脾臓の腫瘍 手術なし 処置1なし 処置2なし 副傷病なし	56

DPC MDC6 桁 診療科別上位頻度表

対象：2017年4月1日～2018年3月31日退院患者
(転科を含み、医療資源を最も投入した傷病の診療科で集計)

内科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	060100	小腸大腸の良性疾患 (良性腫瘍を含む)	581
2	130030	非ホジキンリンパ腫	260
3	060020	胃の悪性腫瘍	249
4	060035	結腸 (虫垂を含む) の悪性腫瘍	202
5	06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	182
6	060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍 (続発性を含む)	157
6	060340	胆管 (肝内外) 結石、胆管炎	157
8	060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	132
9	040040	肺の悪性腫瘍	113
9	060010	食道の悪性腫瘍 (頸部を含む)	113

神経内科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	010155	運動ニューロン疾患等	34
2	010160	パーキンソン病	30
3	010170	基底核等の変性疾患	25
4	010080	脳脊髄の感染を伴う炎症	22
5	010090	多発性硬化症	18
6	010110	免疫介在性・炎症性ニューロパチー	17
7	010060	脳梗塞	10
8	010230	てんかん	8
9	010130	重症筋無力症	5
9	070560	全身性臓器障害を伴う自己免疫性疾患	5
9	110310	腎臓または尿路の感染症	5

外科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	090010	乳房の悪性腫瘍	201
2	060160	鼠径ヘルニア	91
3	060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	65
4	060035	結腸 (虫垂を含む) の悪性腫瘍	61
5	060040	直腸肛門 (直腸S状部から肛門) の悪性腫瘍	46
5	060150	虫垂炎	46
7	060020	胃の悪性腫瘍	29
8	060370	腹膜炎、腹腔内膿瘍 (女性器臓器を除く)	25
9	060170	閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア	23
10	060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	22

整形外科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	070343	脊柱管狭窄 (脊椎症を含む) 腰部骨盤、不安定椎	114
2	160800	股関節大腿近位骨折	95
3	070230	膝関節症 (変形性を含む)	79
4	160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷 (胸・腰髄損傷を含む)	66
5	160620	肘、膝の外傷 (スポーツ障害等を含む)	64
6	160610	四肢筋腱損傷	41
7	070350	椎間板変性、ヘルニア	40
8	160850	足関節・足部の骨折、脱臼	36
9	160760	前腕の骨折	32
10	071030	その他の筋骨格系・結合組織の疾患	30

形成外科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	020230	眼瞼下垂	85
2	080007	皮膚の良性新生物	40
3	080180	母斑、母斑症	33
4	080006	皮膚の悪性腫瘍 (黒色腫以外)	22
5	020320	眼瞼、涙器、眼窩の疾患	19
6	080011	急性膿皮症	15
6	160200	顔面損傷 (口腔、咽頭損傷を含む)	15
8	100100	糖尿病足病変	11
9	090010	乳房の悪性腫瘍	10
10	070010	骨軟部の良性腫瘍 (脊椎脊髄を除く)	6
10	070570	瘢痕拘縮	6
10	161000	熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃傷	6
10	180040	手術・処置等の合併症	6

脳神経外科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	010060	脳梗塞	181
2	010111	遺伝性ニューロパチー	148
3	010040	非外傷性頭蓋内血腫 (非外傷性硬膜下血腫以外)	70
4	070343	脊柱管狭窄 (脊椎症を含む) 腰部骨盤、不安定椎	48
5	160100	頭蓋・頭蓋内損傷	47
6	070341	脊柱管狭窄 (脊椎症を含む) 頸部	36
7	010010	脳腫瘍	35
8	010230	てんかん	30
9	030400	前庭機能障害	23
10	010030	未破裂脳動脈瘤	22

泌尿器科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	110080	前立腺の悪性腫瘍	185
2	110070	膀胱腫瘍	141
3	110200	前立腺肥大症等	31
4	11001x	腎腫瘍	28
5	11022x	男性生殖器疾患	24
6	110060	腎盂・尿管の悪性腫瘍	19
7	11013x	下部尿路疾患	18
8	110420	水腎症 (その他)	16
9	110310	腎臓または尿路の感染症	11
10	11012x	上部尿路疾患	9

眼科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	020110	白内障、水晶体の疾患	166
2	020250	結膜の障害	5

耳鼻咽喉科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	030400	前庭機能障害	92
2	03001x	頭頸部悪性腫瘍	83
3	030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	58
4	030350	慢性副鼻腔炎	28
5	030428	突発性難聴	24
6	030380	鼻出血	22
7	030150	耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍	20
8	030250	睡眠時無呼吸	19
8	030390	顔面神経障害	19
10	030230	扁桃、アデノイドの慢性疾患	17

Kcode 診療科別上位頻度表

対象手術室内施行：2017年4月1日～2018年3月31日退院患者

外科

No	K code	手術名称	回数 (件)
1	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	66
2	K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術 (両側)	52
3	K6335	鼠径ヘルニア手術	36
4	K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	35
5	K4763	乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術 (腋窩部郭清を伴わない))	25
6	K718-21	腹腔鏡下虫垂切除術 (虫垂周囲膿瘍を伴わないもの)	24
7	K4765	乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術・胸筋切除を併施しない)	22
8	K655-22	腹腔鏡下胃切除術 (悪性腫瘍手術)	13
9	K4762	乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除術 (腋窩部郭清を伴わない))	12
10	K740-22	腹腔鏡下直腸切除・切断術 (低位前方切除術)	11

整形外科

No	K code	手術名称	回数 (件)
1	K0483	骨内異物 (挿入物を含む) 除去術 (前腕、下腿)	58
2	K0461	骨折観血的手術 (肩甲骨、上腕、大腿)	52
3	K1426	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術 (椎弓形成)	32
4	K0462	骨折観血的手術 (前腕、下腿、手舟状骨)	30
4	K0542	骨切り術 前腕、下腿	30
6	K0821	人工関節置換術 (肩、股、膝)	27
7	K0593□	骨移植術 (軟骨移植術を含む、同種骨移植、非生体、その他)	25
8	K0811	人工骨頭挿入術 (肩、股)	24
9	K080-41	関節鏡下肩腱板断裂手術 (簡単)	18
10	K028	腱鞘切開術 (関節鏡下によるものを含む)	15
10	K068-2	関節鏡下半月板切除術	15

形成外科

No	K code	手術名称	回数 (件)
1	K2191	眼瞼下垂症手術 (眼瞼挙筋前転法)	69
2	K2172	眼瞼内反症手術 (皮膚切開法)	20
3	K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術 (肩、上腕、前腕、大腿、下腿、躯幹)	15
4	K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部) (長径2cm未満)	14
5	K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部) (長径2cm以上4cm未満)	10
5	K2193	眼瞼下垂症手術 (その他)	10
7	K0011	皮膚切開術 (長径10cm未満)	9
8	K0021	デブリードマン (100cm ² 未満)	8
8	K476-4	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術 (乳房切除後)	8
10	K0062	皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部以外) (長径3cm以上6cm未満)	7
10	K0072	皮膚悪性腫瘍切除術 (単純切除)	7

脳神経外科

No.	K code	手術名称	回数 (件)
1	K1882	神経剥離術 (その他)	46
2	K1426	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術 (椎弓形成)	42
3	K1421	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術 (多椎間又は多椎弓の場合を含む。) 前方椎体固定	27
4	K1692	頭蓋内腫瘍摘出術 (その他)	23
5	K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	19
5	K1643	頭蓋内血腫除去術 (開頭) (脳内)	19
7	K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング (1箇所)	15
8	K178-4	経皮的脳血栓回収術	14
9	K0004	創傷処理 (筋肉、臓器に達しない) (長径5cm未満)	6
9	K1342	椎間板摘出術 (後方摘出術)	6
9	K1781	脳血管内手術 (1箇所)	6
9	K609-2	経皮的頸動脈ステント留置術	6

泌尿器科

No.	K code	手術名称	回数 (件)
1	K8036f	膀胱悪性腫瘍手術 (経尿道的手術) (電解質溶液利用)	93
2	K8412	経尿道的前立腺手術 (その他)	31
3	K773-2	腹腔鏡下腎 (尿管) 悪性腫瘍手術	17
4	K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	14
4	K830	精巣摘出術	14
6	K7981	膀胱結石摘出術 (経尿道的手術)	12
7	K6113	抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 (頭頸部その他)	11
8	K8352	陰嚢水腫手術 (その他)	9
9	K773	腎 (尿管) 悪性腫瘍手術	6
10	K843	前立腺悪性腫瘍手術	5

眼 科

No.	K code	手術名称	回数 (件)
1	K2821□	水晶体再建術 (縫着以外の眼内レンズを挿入するもの)	163
2	K224	翼状片手術 (弁の移植を要する)	5
3	K279	硝子体切除術	2
4	K274	前房、虹彩内異物除去術	1

耳鼻咽喉科

No.	K code	手術名称	回数 (件)
1	K3772	口蓋扁桃手術 (摘出)	19
2	K4611	甲状腺部分切除術、甲状腺腫摘出術 (片葉のみ)	13
3	K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型 (選択的 (複数洞) 副鼻腔手術)	12
4	K3892	喉頭・声帯ポリープ切除術 (直達喉頭鏡、又はファイバースコープ)	10
4	K6261	リンパ節摘出術 (長径3cm未満)	10
6	K4571	耳下腺腫瘍摘出術 (耳下腺浅葉摘出術)	8
7	K331	鼻腔粘膜焼灼術	7
8	K342	鼻副鼻腔腫瘍摘出術	6
9	K319	鼓室形成手術	5

9	K454	顎下腺摘出術	5
9	K4631	甲状腺悪性腫瘍手術（切除）	5

歯科口腔外科

No.	K code	手術名称	回数（件）
1	K4043	抜歯手術（1歯につき）（白歯）	584
2	K4044	抜歯手術（1歯につき）（埋伏歯）	468
3	K4042	抜歯手術（1歯につき）（前歯）	280
4	K4361	顎骨腫瘍摘出術（長径3cm未満）	14
5	K4132	舌腫瘍摘出術（その他のもの）	9
6	K430	顎関節脱臼非観血的整復術	7
7	K4211	口唇腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	6
8	K448	がま腫切開術	4
8	K4151	舌悪性腫瘍手術（切除）	4
8	K0001	創傷処理（筋肉、臓器に達するもの（長径5cm未満））	4
8	K4041	抜歯手術（乳歯）	4

V. 講演会等活動実績報告

講演活動報告

学術講演会	145
学術研究会	148

学術講演会

内科

宮城島 拓人
骨髄増殖性腫瘍の病態と治療薬(経口剤のインパクト)
釧路血液腫瘍談話会(釧路薬剤師会)
2017.1.27 釧路市

松川 敏大
当科におけるCML治療の現状
Kushiro Hematology Forum
2017.5.19 釧路市

寺下 勝巳
当院におけるC型慢性肝炎に対する治療の現状
釧路肝炎講演会
2017.5.25 釧路市

宮城島 拓人
人ごとではないHIV/AIDSの話(もう大丈夫なんて言
わせない)
別海高校思春期講座
2017.6.23 別海町

高橋 一宏
胃のNBI拡大観察の基本
第31回釧路胃と腸を診る会定例会
2017.7.19 釧路市

宮城島 拓人
人ごとではないHIV/AIDSの話(もう大丈夫なんて言
わせない)
中標津高校思春期講座
2017.7.21 中標津町

宮城島 拓人
CMLの治療インパクト
釧路薬剤師会CML勉強会
2017.8.24 釧路市

宮城島 拓人
命の尊さ、大切さ
釧路市立景雲中学校全校道徳講演会
2017.12.2 釧路市

外科

小笠原 和宏
「がん」になるってどういうこと? ~がん教育につ
いて考える~
釧路市養護教諭会 夏季研修会
2017.7.25 釧路市

小笠原 和宏
緩和ケア 人生の最期に寄り添うために
北海道作業療法士会戦痕支部研修会
2017.10.7 釧路市

小笠原 和宏
乳がんについて知りましょう
乳がん市民公開講座
2017.10.29 釧路市

小笠原 和宏
緩和ケアとは「つらさ」とどう向き合うか
緩和ケア市民公開講座
2017.11.18 釧路市

整形外科

放生 憲博
術後C5麻痺
北大脊椎脊髄外科セミナー 2017
2017.7.15 札幌市

形成外科

池田正起
足から考える糖尿病.
くしろ糖尿病デー
2017.11.18 釧路市

脳神経外科

井須 豊彦
画像で診断が困難な腰下肢痛-手で触れてかんたん診
断-
第110回浜松整形外科セミナー
2017.3.16 静岡

井須 豊彦
なぜ、脳神経外科医が末梢神経外科に精通しなければ
いけないか、第1回末梢神経の外科研究会

第1回末梢神経の外科研究会

2017.4.22 東京都

金 景成, 井須 豊彦, 國保 倫子, 森本 大二郎,
松本 順太郎, 喜多村 孝雄, 森田 明夫
絞扼性末梢神経障害に対する基本外科治療
脳神経外科コンgres

2017.5.11-14 横浜市

金 景成, 井須 豊彦, 森本 大二郎, 國保 倫子,
岩本 直高, 松本 順太郎, 森田 明夫

FBSS 腰椎周辺疾患治療の役割について考える

第14回房総脊椎脊髄手術手技研究会

2017.7.15 北海道

Kim K, Isu T, Morimoto D, Iwamoto N, Kokubo R,
Kitamura T, Matsumoto J, Morita A

LBP attributable to peripheral nerve neuropathy.

The 1st Asia Neuroscience Forum. Special lecture

2017.8.20-21 Tokyo

井須 豊彦

明日からできる腰痛治療について－殿皮神経障害の見
つけ方－

しびれ痛み診療セミナー

2017.8.26 北海道

井須 豊彦

しびれ、痛み診療におけるセカンドオピニオン

第12回釧路管内健康フォーラム2017

2017.10.21 釧路市

井須 豊彦

私の行なっている腰痛診療

第4回痛み、痺れを考える会

2017.10.28 札幌市

井須 豊彦

腰痛治療における新常識を目指して－触れてわかる腰
痛－

札幌医療講演会

2017.11.11 札幌市

井須 豊彦

腰痛診療における新常識をめざして－身体に触れてわ
かる腰痛

市民向け医療講演会

2017.11.11札幌市

耳鼻咽喉科

北南 和彦

加齢と耳鼻咽喉科

日胆アレルギー懇話会

2017.1.28 苫小牧市

北南 和彦

加齢と耳鼻咽喉科

第88回釧路市耳鼻咽喉科医会招待講演会

2017.3.23 釧路市

寒風澤 知明

耳下腺術後合併症への対応

第88回釧路市耳鼻咽喉科招待講演会

2017.9.27 釧路市

歯科口腔外科

藤盛 真樹, 小川 仁, 西田 佳織, 嶋崎 康相

お口から始まる健康管理

釧路労災病院ひなたぼっこ

2017.5.17 釧路市

藤盛 真樹

道東地区のARONJの現状について

医歯薬連携 骨粗鬆症治療薬 適正使用ミーティング

2017.6.2 釧路市

藤盛 真樹

骨吸収抑制薬関連顎骨壊死に関する最近の知見～北海
道の病院歯科における現状～

旭川医科大学 歯科口腔外科学講座 同門会講演会

2017.7.1 旭川市

藤盛 真樹, 小川 仁, 西田 佳織, 嶋崎 康相

ARONJに関する 最近の知見～北海道の病院歯科にお
ける現状～

釧路労災病院講演会

2017.8.8 釧路市

藤盛 真樹

動画で見るケニア・フリーメディカルキャンプ2017
～釧路組編～

第2回地平線会議

2017.10.8 釧路市

藤盛 真樹

歯科口腔外科 藤盛部長から見た動画で見るケニア・
フリーメディカルキャンプ 2017

第14回師走講演会

2017.12.9 釧路市

第17回空知臨床工学技士会 学術講演会 特別講演

2017.2.9 滝川市

廣瀬 孝則

内視鏡室業務の実際～当院臨床工学部の体制～

第12回医療安全セミナー 教育セミナーⅢ

2017.10.29 札幌市

栄養管理部

山田 千尋

いきいき生活するための食事～生活習慣病予防へのひ
と工夫～

予防医療活動出前講演会

2017.6.22 釧路市

山田 千尋

腎臓病の栄養指導について

第3回釧根地区透析実践臨床講演会

2017.11.4 釧路市

中央リハビリテーション部

田口 暢秀

選手と向き合う時に知っておきたい身体のこと

釧路江南高校体育教諭研究会

2017.2.9 釧路市

田口 暢秀

スポーツに必要な身体づくり

根室管内スポーツ指導者講演会

2017.3.17 標津町

田口暢秀, 推井基陽, 齊藤輝未

体幹トレーニング

弟子屈町コンディショニング講演会

2017.5.14 弟子屈町

田口 暢秀

元気で長く働くために

三ツ輪運輸講演

2017.9.20 釧路市

臨床工学部

廣瀬 孝則

内視鏡業務を考える～技士と技師～

薬剤部

松田 俊之

医薬品安全管理を取り巻く最近の話題より～未承認薬
等の使用、ハイリスク薬の取り扱い、レジリエンス・
アプローチ～

平成28年度第2回医薬品安全管理研修

2017.2.3 釧路市

松田 俊之

医療職中堅職員に期待すること～ミドルマネジメント
が組織の浮沈を握る～

平成28年度医療職中堅研修 (本部)

2017.2.16 川崎市

松田 俊之

薬剤師業務の変化と今求められる資質とは

平成28年度北海道大学薬剤師就職説明会

2017.3.9 札幌市

高橋 道生

釧路ろうさい病院における「ゲンボイヤ®配合錠」の
初回導入事例

F/TAF発売記念講演会 in 札幌

2017.3.18 札幌市

松田 俊之

薬剤業務について (薬剤部紹介)

新規職員研修会

2017.4.3 釧路市

松田 俊之

新人看護師が知っておきたい～医薬品安全使用のため
の注意点～

新規職員研修会

2017.4.15 釧路市

矢澤 敏

輸液療法の基礎知識

第4回NSTセミナー
2017.7.11 釧路市

松田 俊之
医薬品安全管理を取り巻く最近の話題より
～アレルギー・副作用情報の取り扱い、医薬品リスク
管理計画（RMP）利活用他～
平成29年度第1回医薬品安全管理研修
2017.8.30 釧路市

谷向 充哉
曝露対策の今後への対応
道東地区オンコロジーミーティング
2017.9.30 帯広市

小島 佑太
痛みとの上手な付き合い方
がんサロン学習会
2017.10.17 釧路市

松田 俊之
薬事情勢
臨床研修総合講座
2017.10.17 釧路市

工藤 優子
くすりの副作用
平成29年度第2回登録販売者資質向上研修会
2017.10.22 釧路市

岩下 尚弘
臨床試験・治験について
がんサロン学習会
2017.11.21 釧路市

岩下 尚弘
病棟内でのレブラミド・ポマリストを服用されている
方の配薬・与薬・服用確認時の注意点
レブラミド・ポマリスト～RevMate勉強会～
2017.11.27 釧路市

看護部

佐々木祐美
遠方の地方市中病院における移植後長期フォローアッ
プ外来開設への取り組み
平成29年度第2回造血幹細胞移植セミナー

2017.9.23 札幌市

学術研究会

内科

松田 宗一郎, 西田 千尋, 更科 耕一郎, 平田 甫,
原田 一顕, 佐野 逸紀, 小林 良充, 高橋 一宏,
寺下 勝巳, 小田 寿, 宮城島 拓人
ドレナージに苦慮したエヒノコッカス症
第22回北海道レジデントカンファレンス
2017.9.16 札幌市

寺下 勝巳
当院におけるC型肝炎患者のクリオプロブリン血症陽
性例の実態とDAA治療前後の変化
第174回内科談話会
2017.11.28 釧路

外科

石川 倫啓, 佐野 修平, 坂本 沙織, 江本 慎,
河合 朋昭, 小林 清二, 小笠原 和宏
当院の外科手術における細菌培養結果からみたSSIの
起因菌の検討
平成29年度全国労災病院外科研究会
2017.1.12 川崎市

谷 道夫, 千田 圭悟, 江本 慎, 河合 朋昭,
小林 清二, 小笠原 和宏
腹腔鏡下ヘルニア手術の合併症としてのSSI
平成28年度全国労災病院外科研究会
2017.1.13 川崎市

坂本 沙織, 佐野 修平, 石川 倫啓, 江本 慎,
河合 朋昭, 小林 清二, 小笠原 和宏
腹腔鏡を用いた緊急手術により救命し得た門脈ガス血
症の1例
第82回釧路外科集談会
2017.3.6 釧路市

千田 圭悟
新規経口抗凝固薬（NOAC:nobel oral anticoagulant）
内服中に発症した非外傷性横行結腸間膜血腫の1例
第79回釧路外科集談会
2017.3.15 釧路市

江本 慎, 佐野 修平, 石川 倫啓, 河合 朋昭,
小林 清二, 小笠原 和宏
腹腔鏡下に整復し, 小腸切除後にヘルニア門を修復し
た閉鎖孔ヘルニア嵌頓の1例
第5回道東外科集談会
2017.10.14 釧路市

佐野 修平, 江本 慎, 石川 倫啓, 原田 一顕,
河合 朋昭, 小林 清二, 宮城島 拓人,
小笠原 和宏
単孔式腹腔鏡下イレウス解除術を行った胆石イレウス
の1例
第814回釧路外科集談会
2017.11.14 釧路市

整形外科

藤田 勝久, 小谷 善久, 甲斐原 拓真, 亀田 裕亮,
深谷 英昭
CBT法を用いた脊柱再建手術300例の臨床成績-CBT
原法とModified CBT法の比較-
第8回日本MIS研究会
2017.2.26 東京都

徳廣 泰貴, 松橋 智弥, 放生 憲博
稀な手関節外相の1例
第56回道東溪和会
2017.8.5 釧路市

脳神経外科

岩本 直高, 井須 豊彦, 金 景成, 松本 順太郎,
山内 朋裕, 千葉 泰弘, 森本 大二郎, 山崎 和義,
松野 彰, 磯部 正則
当施設における腰下肢痛の治療戦略
釧路脳神経外科研究会
2017.2.24 釧路市

岩本 直高, 井須 豊彦, 金 景成, 森本 大二郎,
國保 倫子, 内海 喜晴, 山田 創, 松野 彰
手根管症候群に対する我々の手術法
第1回末梢神経の外科研究会
2017.4.22 東京都

國保 倫子, 金 景成, 井須 豊彦, 岩本 直高,
森本 大二郎, 喜多村 孝雄, 森田 明夫
はじめての外側大腿皮神経障害

第1回末梢神経の外科研究会
2017.4.22 東京都

金 景成, 井須 豊彦, 國保 倫子, 森本 大二郎,
岩本 直高, 森田 明夫
FBSSにおける傍腰椎疾患治療の果たす役割
第7回低侵襲・内視鏡脊髄神経外科研究会
2017.7.8 東京都

岩本 直高, 井須 豊彦, 金 景成, 森本 大二郎,
國保 倫子, 内海 喜晴, 山田 創, 松野 彰
絞扼性総腓骨神経障害の治療が奏功した高齢者FBSS
の1例
第7回低侵襲・内視鏡脊髄神経外科研究会
2017.7.8 東京都

岩本 直高, 井須 豊彦, 金 景成, 森本 大二郎,
國保 倫子, 松野 彰
脊椎術後のFBSSに腓骨神経障害の治療が奏功した1
例
第1回橘桜脊椎脊髄研究会
2017.10.6 東京都

金 景成
Morton病の1例
第28回脊髄疾患動画技術研究会
2017.11.25 滋賀

泌尿器科

古御堂 純, 青柳 俊紀, 守田 卓人, 谷口 成実,
村雲 雅志, 森田 研
当科で経験した血液内科疾患の2例
第41回釧根地区泌尿器科研究会
2017.2.3 釧路市

村橋 範浩, 渡邊 絢子, 佐々木 芳浩,
野々村 克也
膀胱破裂の2症例
第41回釧根地区泌尿器科研究会
2017.2.3 釧路市

平田 由里絵, 古御堂 純, 渡邊 絢子,
佐々木 芳浩, 村橋 範浩, 野々村 克也
断裂尿管が自然修復した結石性腎周囲・後腹膜膿瘍の
1例
第41回釧根地区泌尿器科研究会

2017.6.9 釧路市

古御堂 純, 青柳 俊紀, 谷口 成実, 村雲 雅志,
森田 研, 甲谷 太郎, 高橋 将成, 上久保 康弘
AVMにより重症心不全を発症した左腎腫瘍の1例
第33回腎移植・血管外科研究会

2017.7.7 小田原市

歯科口腔外科

嶋崎 康相, 藤盛 真樹, 西田 佳織, 大坪 誠治
病病連携にて治療を行った飛び降り自殺による下顎骨
骨折の1例

釧路デンタルスタディクラブ

2017.1.24 釧路市

嶋崎 康相, 小川 仁, 西田 佳織, 藤盛 真樹
当院における周術期の口腔機能管理

釧路労災病院 内科・外科カンファレンス

2017.4.12 釧路市

小川 仁, 西田 佳織, 嶋崎 康相, 藤盛 真樹
顔面多発骨折により救急搬送後呼吸停止をきたした1
例

釧路3病院口腔外科カンファレンス

2017.7.18 釧路市

小川 仁, 藤盛 真樹

口腔外科における粘膜疾患

釧路労災病院・釧路日赤病院合同カンファレンス

2017.10.13 釧路市

藤盛 真樹

ケニア共和国ナイロビ市のスラム地区における無料歯
科医療支援の経験

釧路口腔機能再生研究会

2017.11.21 釧路市

藤盛 真樹, 小川 仁, 角 伸博, 嶋崎 康相
骨吸収抑制薬関連顎骨壊死に関する最近の知見～北海
道の病院歯科における現状～

釧路デンタルスタディクラブ

2017.11.28 釧路市

中央リハビリテーション部

田口暢秀

選手とのかかわりの中で

PT釧根支部勉強会

2017.12.9 釧路市

中央検査部

小竹 美智子, 石橋 芳昭, 久末 浩樹

2DCM-web を用いたMRSAタイピングの院内感染対
策への応用

第13回釧路感染対策談話会

2017.7.20 釧路市

今野 里南

凝固検体取扱いに関するアンケート調査報告
道東臨床検査技師会学術部 血液検査勉強会

2017.10.19 釧路市

薬剤部

松田 俊之

独立行政法人労働者健康福祉機構 全国労災病院薬剤
部会の現状報告

平成28年度日本病院薬剤師会病院団体薬剤部長協議会

2017.1.30 東京都

松田 俊之

高齢のポリファーマシー対策

第14回釧路病院薬剤師会会員発表会

2017.2.10 釧路市

竹内 和沙

高齢入院患者のポリファーマシーの取り組み

第14回釧路病院薬剤師会会員発表会

2017.2.10 釧路市

小島 佑太

当院の緩和ケアの現状と、薬剤師としての関わり

2017年度死の臨床研究会北海道支部秋の研究会 in 釧
路

2017.9.23 釧路市

IV. 業績目録

- (1) 原著・論文…………… 153
- (2) 学会報告…………… 156

(1) 原著・論文

内科

宮城島 拓人, 更科 耕一郎, 山村 貴洋,
松田 宗一郎, 千葉 雅尋, 中野 真太郎,
松川 敏大, 小林 良充, 羽場 真, 高橋 一宏,
寺下 勝巳, 曾我部 進, 小田 寿, 藤盛 真樹,
高橋 達郎
抗レトロウイルス療法中に症候性多発性骨髄腫を発症し、寛解後にPlasmablastic lymphoma/plasmacytomaを口腔領域に発症して腫瘍死した一剖検例
日本エイズ学会誌
2017年 第9巻 165-170

Kazuo Oshimi
Clinical Features, Pathogenesis, and Treatment of Large Granular Lymphocyte Leukemias
Intern Med
2017年 第56巻 1579-1769

Joji Simono, Shigeki Kaino, Kohei Okada,
Kazuo Oshimi, Yusuke Ishida, Tatsuro Takahashi,
Takuto Miyagishima, Takanori Teshima
Unilateral conjunctival infiltration of Adult T-cell leukemia/lymphoma.. Case report and literature review
Journal of Clinical and Experimental Hematopathology
2017年 57 (3) 143-146

Ayumu Yoshikawa, Katsumi Terashita,
Kenichi Morikawa, Soichiro Matsuda,
Takahiro Yamamura, Koichiro Sarashina,
Shintaro Nakano, Yoshimitsu Kobayashi,
Susumu Sogabe, Kazuhiro Takahashi, Shin Haba,
Hisashi Oda, Tatsuro Takahashi,
Takuto Miyagishima, Naoya Sakamoto
Interferon-free therapy with sofosbuvir plus ribavirin for successful treatment of genotype 2 hepatitis C virus with lichen planus : a case report
Clinical Journal of Gastroenterology
2017年 10 (3) 270-273

外科

小笠原和宏, 大橋 誠, 小川 浩平
労災病院の入院時病職歴データとリンクした、試験的

退院後職場復帰調査
日本職業・災害医学会会誌
2017年 65 (1) 8-13

整形外科

釜場 大介, 放生 憲博, 岩崎 倫政
腰椎椎体間固定術後におけるケージ後方移動の危険因子に関する検討
北海道整形災害外科学会雑誌
2017年 58 198-202

釜場 大介, 放生 憲博, 岩崎 倫政
嚙下障害を伴う頸椎前縦靭帯骨化症に対し骨化巣切除が奏功した1例
北海道整形災害外科学会雑誌
2017年 59 64-67

小松 幹, 須田 浩太, 松本 聡子, 安井 啓吾,
牛久 智加良, 山田 勝久, 遠藤 努, 東條 泰明,
藤田 勝久, 神谷 行宣, 三浪 明男
遅発性外傷性椎骨動脈閉塞の一例
北海道整形外科外傷研究会会誌
2017年 33 87-91

藪内 康史, 近藤 英司, 小野寺 純, 小野寺 智洋,
亀田 敏明, 佐藤 大, 八木 知徳, 岩崎 倫政,
安田 和則
TriS Medial HTO Plate Systemを用いた内側楔状開大式高位脛骨骨切り術の短期成績
日本関節病学会誌
2017年 36 427-433

松橋 智弥 (編著 末永 直樹)
肩関節再建術-腱板断裂, 肩関節不安定症の治療戦略-
肩関節再建術-腱板断裂, 肩関節不安定症の治療戦略-
2017年 69-75, 104-106, 154-161, 190-195, 202-205, 276-278

脳神経外科

Kim K, Isu T, Morimoto D, Iwamoto N, Kokubo R, Matsumoto J, Kitamura T, Sugawara A, Morita A
Common diseases mimicking lumbar disc herniation and their treatment.
Mini-invasive surgery
2017年 1 43-51

- Matsumoto J, Isu T, Kim K, Iwamoto N, Yamazaki K, Morimoto D, Isobe M.
Impact of additional treatment of para-lumbar- and peripheral nerve diseases after lumbar spine surgery.
World Neurosurgery, in press
- Morimoto D, Isu T, Kim K, Chiba Y, Iwamoto N, Isobe M, Morita A
Long-term outcome of surgical treatment for superior cluneal nerve entrapment neuropathy.
Spine
2017年 42 (10) 783-788
- Iwamoto N, Isu T, Kim K, Chiba Y, Morimoto D, Matsumoto J, Isobe M
Treatment of low back pain elicited by superior cluneal nerve entrapment neuropathy after lumbar fusion surgery.
Spine Surgery and Related Research
2017年 1 (3) 152-157
- Kokubo R, Kim K, Isu T, Morimoto D, Iwamoto N, Kobayashi S, Morita A
Superior Cluneal Nerve Entrapment Neuropathy and Gluteus Medius Muscle Pain: Their Effect on Very Old Patients with Low Back Pain.
World Neurosurg
2017年 98 13213-9
- Kitamura T, Kim K, Morimoto D, Kokubo R, Iwamoto N, Isu T, Morita A
Dynamic factors involved in common peroneal nerve entrapment neuropathy.
Acta Neurochirurgica
2017年 159 (9) 1777-1781
- Kim K, Shimizu J, Isu T, Inoue K, Chiba Y, Iwamoto N, Morimoto D, Isobe M, Morita A
Low back pain due to superior cluneal nerve entrapment - Clinicopathological study.
Muscle and Nerve, in press
2017年
- Yamauchi T, Kim K, Isu T, Iwamoto N, Yamazaki K, Matsumoto J, Isobe M
Additional treatments on undiagnosed peripheral nerve diseases as a possible solution for failed lumbar disc surgery.
Asian Spine Journal
2017年
- Matsumoto J, Isu T, Kim K, Iwamoto N, Morimoto D, Isobe M
Surgical treatment of middle cluneal nerve entrapment neuropathy -technical note-.
J Neurosurg Spine, in press
2017年
- Kim K, Isu T, Matsumoto J, Yamazaki K, Isobe M
Low back pain due to middle cluneal nerve entrapment neuropathy.
Eur Spine J, in press
2017年
- 井須 豊彦, 金 景成
LECTURE - 上殿皮神経障害による腰痛
臨床整形外科
2017年 52 (4) 349-355
- 井須 豊彦
プラタナス - 私のカルテから - 身体に触れる診療をめざして
週刊日本医事新報
2017年
- 岩本 直高
絞扼性末梢神経障害による下肢のしびれ・痛み
外来で診る手足のしびれ・痛み診療
2017年 107-117
- 成合 倫典, 金 景成, 河内 雅章, 石井 彰宏, 木戸 美佐, 井須 豊彦, 國保 倫子, 森本 大二郎, 岩本 直高, 森田 明夫
足根管症候群のMRI診断 - MRIによる足根管部の撮影条件に関する検討
脳神経外科 (印刷中)
- 金 景成, 井須 豊彦, 國保 倫子, 森本 大二郎, 岩本 直高, 中嶋 隆夫
吸収性スクリューによる頸椎後方固定術の生体力学的研究
日本脊髄障害医学会誌

2017年 30 (1) 120-121

小田 一徳, 金 景成, 國保 倫子, 森本 大二郎,
喜多村 孝雄, 井須 豊彦, 森田 明夫
慢性腰痛の原因であった中殿筋障害の一例
脳神経外科 (印刷中)

野崎 俊樹, 森本 大二郎, 金 景成, 喜多村 孝雄,
國保 倫子, 山口 文雄, 井須 豊彦, 森田 明夫
外側大腿皮神経障害に対して神経剥離術が有効であつた1例
脳神経外科

2017年 45 (5) 431-436

菅原 淳, 石垣 大哉, 井須 豊彦
腰部脊柱管狭窄症に合併した脊髄硬膜動静脈瘻の治療
経験

日本脊髄障害医学会誌
2017年 30 (1) 180-181

井須 豊彦, 金 景成 (編著)
しびれ痛みのQ&A 改定2版
2017年

金 景成, 井須 豊彦 (分担執筆)
手根管症候群, 外側大腿皮神経障害, 足根管症候群
標準的神経治療-しびれ感
2017年 111-120

金 景成, 國保 倫子, 井須 豊彦 (分担執筆)
腰椎周辺疾患による下肢のしびれ・痛み
外来で診る! 手足のしびれ・痛み診療
2017年 118-128

泌尿器科

Matsumoto R, Tsuda M, Yoshida K, Tanino M,
Kimura T, Nishihara H, Abe T, Shinohara N
Nonomura K, Tanaka S.
Aldo-keto reductase 1C1 induced by interleukin-1 β
meiates the invasive potential and drug resistance of
metastatic bladder cancer cells.
Sci Rep.
6 34625

Araki A, Mitsui T, Goudarzi H, Nakajima T,
Miyashita C, Itoh S, Sasaki S, Cho K, Moriya K,

Shinohara N, Nonomura K, Kishi R
Prenatal di (2-ethylhexyl) phthalate exposure and
disruption of adrenal androgens and glucocorticoids
levels in cord blood : The Hokkaido Study.
Sci Total Environ.
2017年 581-582 297-304

耳鼻咽喉科

寒風澤 知明, 石田 芳也, 原渕 保明
50年前に留置した隆鼻シリコンによる鼻前庭膿瘍例
耳鼻臨床
2017年 第110巻 809-813

歯科口腔外科

藤盛 真樹, 道念 正樹, 鳥谷部 純行, 中山 雅康
歯科診療時の患者急変! あなたならどうする? 歯科診
療時の患者急変とその対応 訪問歯科診療時に発生し
た局所麻酔後の急性心筋梗塞
北海道歯科医師会誌
2017年 第72号 43448

宮城島 拓人, 更科 耕一郎, 山村 貴洋,
松田 宗一郎, 千葉 雅尋, 中野 真太郎,
松川 敏大, 小林 良充, 羽場 真, 高橋 一宏,
寺下 勝巳, 曾我部 進, 小田 寿, 藤盛 真樹,
高橋 達郎
抗レトロウイルス療法中に症候性多発性骨髄腫を発症
し, 寛解後にplasmablastic lymphoma/plasmacytoma
を口腔領域に発症して腫瘍死した一剖検例(原著論文)
日本エイズ学会誌
2017年 第9巻 165-170

病 理

宮城島 拓人, 更科 耕一郎, 山村 貴洋,
松田 宗一郎, 千葉 雅尋, 中野 真太郎,
松川 敏大, 小林 良充, 羽場 真, 高橋 一宏,
寺下 勝巳, 曾我部 進, 小田 寿, 藤盛 真樹,
高橋 達郎
抗レトロウイルス療法中に症候性多発性骨髄腫を発症
し, 寛解後に plasmablastic lymphoma/
plasmacytomaを口腔領域に発症して腫瘍死した一剖
検例
日本エイズ学会誌
2017年 第19巻 165-170

薬剤部

松田 俊之

医療職中堅職員に期待すること
～ミドルマネジメントが組織の浮沈を握る～
薬事新報
2017年 第2990号 5-6

松田 俊之, 谷向 充哉, 矢澤 敏
抗がん剤による職業性曝露対策の変遷と薬剤師の取り
組み
日本職業・災害医学会会誌
2017年 第65巻 295-302

(2) 学会報告

内科

宮城島 拓人

ART治療中に症候性多発性骨髄腫を発症し、寛解後
にPlasmablastic plasmacytoma/lymphomaを口腔領
域に発症して腫瘍死した一剖検例
第7回北海道HIV情報交換会
2017.2.18 札幌市

千葉 雅尋, 寺下 勝巳, 松川 敏大, 小林 良充,
高橋 一宏, 羽場 真, 曾我部 進, 小田 寿,
宮城島 拓人
右副腎褐色細胞腫術後21年後に左副腎と肝臓に悪性褐
色細胞腫を認めた1例
第279回日本内科学会北海道地方会
2017.2.18 札幌市

小田 寿, 松田 宗一郎, 山村 貴洋, 更科 耕一郎,
中野 真太郎, 寺下 勝巳, 小林 良充, 高橋 一宏,
羽場 真, 曾我部 進, 宮城島 拓人
切除不能進行・再発胃癌患者の化学療法におけるGPS
および小野寺のPNIと予後に関する検討
第32回日本静脈経腸栄養学会
2017.2.23-24 松江

中野 真太郎, 高橋 一宏, 更科 耕一郎,
松田 宗一郎, 山村 貴洋, 小林 良充, 寺下 勝巳,
羽場 真, 曾我部 進, 小田 寿, 宮城島 拓人
肛門扁平上皮癌StageIIIに対して化学放射線療法を施
行しCRを維持している一例
第120回日本消化器病学会北海道地方会

2017.3.4-5 札幌市

山村 貴洋, 曾我部 進, 更科 耕一郎,
松田 宗一郎, 中野 真太郎, 高橋 一宏,
小林 良充, 寺下 勝巳, 羽場 真, 小田 寿,
宮城島 拓人
腹膜播種に伴う結腸狭窄に対して内視鏡的金属ステ
ント留置を施行した2例
第120回日本消化器病学会北海道地方会
2017.3.4-5 札幌市

吉河 歩, 寺下 勝巳, 山村 貴洋, 曾我部 進,
更科 耕一郎, 松田 宗一郎, 中野 真太郎,
高橋 一宏, 小林 良充, 羽場 真, 小田 寿,
宮城島 拓人, 高橋 達郎
口腔扁平苔癬を合併したC型肝炎に対してインターフ
ェロンフリー治療を行い、皮膚障害が治癒した一例
第120回日本消化器病学会北海道地方会
2017.3.4-5 札幌市

須藤 啓斗, 宮城島 拓人, 松川 敏大, 押味 和夫
遷延性血小板減少とアルブミン, γ グロブリンの低下
を伴う脾原発組織球肉腫の脾摘後再発例
第52回日本血液学会春季北海道地方会
2017.4.22 札幌市

Itsuki Sano, Akio Katanuma, Masaki Kuwatani,
Hiroshi Kawakami, Hironari Kato, Takao Itoi,
Michihiro Ono, Atsushi Irisawa, Yoshinobu Okabe,
Takuji Iwashita, Ichiro Yasuda, Shomei Ryozaawa,
Seiji Kaino, Naoya Sakamoto
Mid-to Long-term Outcomes After Therapeutic
ERCP Using Balloon-assisted Enteroscopy for
Anastomotic Stenosis of Choledochojunostomy or
Pancreaticojejunostomy: A Multicenter
Observational Study in Japan.
DDW2017
2017.5. Chicago

高橋 一宏, 更科 耕一郎, 松田 宗一郎,
小林 良充, 寺下 勝巳, 小田 寿, 宮城島 拓人
Device and Assistant reduced ESDによる安全を担保
した上でのコスト削減を目指して
第93回日本消化器内視鏡学会
2017.5.11-13 大阪

羽場 真, 中野 真太郎, 更科 耕一郎, 山村 貴洋,

松田 宗一郎, 小田 寿, 曾我部 進, 高橋 一宏,
小林 良充, 寺下 勝巳, 宮城島 拓人
悪性肝門部胆管閉塞に対する6mmフルカバー金属ス
テントのside by side留置法
第93回日本消化器内視鏡学会
2017.5.11-13 大阪

松川 敏大, 押味 和夫, 須藤 啓斗, 宮城島 拓人
免疫グロブリン遊離軽鎖 κ/λ 比の早期正常化は無増
悪生存期間を延長させる
第42回日本骨髄腫学会学術集会
2017.5.27 東京

小田 寿, 宮城島 拓人
Helicobacter Pylori除菌療法を行った直腸MALTリン
パ腫の2例
第23回日本ヘリコバクター学会学術集会
2017.6.30-7.2 函館

Itsuki Sano, Masaki Kuwatani, Ryo Sugiura,
Shin Kato, Kazumichi Kawakubo, Naoya Sakamoto
Diagnostic Accuracy of Endoscopic Ultrasonography-
guided Fine-needle Aspiration for Gallbladder
Lesions.
APDW2017
2017.7.9 Hong Kong

吉河 歩, 松田 宗一郎, 山村 貴洋, 更科 耕一郎,
中野 真太郎, 高橋 一宏, 曾我部 進, 小田 寿,
宮城島 拓人
当院における治癒切除不能な進行・再発胃癌に対する
三剤(ラムシルマブ, タキサン, イリノテカン)使用
の有用性
第15回日本臨床腫瘍学会学術集会
2017.7.27-29 神戸

中野 真太郎, 小林 良充, 吉河 歩, 松田 宗一郎,
山村 貴洋, 更科 耕一郎, 高橋 一宏, 曾我部 進,
小田 寿, 宮城島 拓人
治癒切除不能進行再発胃癌に対する2nd line
RAM+PTX療法後の3rd line CPT-11療法の有用性
第15回日本臨床腫瘍学会学術集会
2017.7.27-29 神戸

高橋 一宏, 西田 千尋, 更科 耕一郎,
松田 宗一郎, 平田 甫, 原田 一顕, 佐野 逸紀,
小林 良充, 寺下 勝巳, 小田 寿, 宮城島 拓人

当院における食道接合部癌診療の現状
第121回日本消化器病学会北海道地方会・第115回日本
消化器内視鏡学会北海道地方会
2017.9.2-3 札幌市

小田 総一郎, 寺下 勝巳, 西田 千尋,
更科 耕一郎, 松田 宗一郎, 平田 甫, 原田 一顕,
佐野 逸紀, 小林 良充, 小田 寿, 高橋 達郎,
宮城島 拓人
肝原発神経内分泌腫瘍に対し肝動脈化学塞栓術を施行
し奏功が得られている一例
第121回日本消化器病学会北海道地方会・第115回日本
消化器内視鏡学会北海道地方会
2017.9.2-3 札幌市

平田 甫, 佐野 逸紀, 西田 千尋, 更科 耕一郎,
松田 宗一郎, 原田 一顕, 小林 良充, 高橋 一宏,
寺下 勝巳, 小田 寿, 宮城島 拓人
当院における超高齢者に対する内視鏡的胆管結石除去
術の現状
第121回日本消化器病学会北海道地方会・第115回日本
消化器内視鏡学会北海道地方会
2017.9.2-3 札幌市

佐野 逸紀, 栗谷 将城, 坂本 直哉
胆嚢病変に対するEUS-FNAの成績
第53回日本胆道学会学術集会
2017.9.28-29 山形

須藤 啓斗, 松川 敏大, 押味 和夫, 宮城島 拓人
単一施設における消化管原発悪性リンパ腫の解析
第59回日本血液学会秋季北海道地方会
2017.10.7 札幌市

松川 敏大, 江口 克紀, 須藤 啓斗, 押味 和夫,
宮城島 拓人
骨格筋原発アミロイドーシスを伴った多発性骨髄腫
第59回日本血液学会秋季北海道地方会
2017.10.7 札幌市

寺下 勝巳, 西田 千尋, 松田 宗一郎,
更科 耕一郎, 平田 甫, 原田 一顕, 佐野 逸紀,
小林 良充, 高橋 一宏, 寺下 勝巳, 小田 寿,
宮城島 拓人
当院におけるC型肝炎患者のクリオプロブリン血症陽
性例の実態とDAA治療前後の変化
JDDW2017

2017.10.12-15 福岡

高橋 一宏, 更科 耕一郎, 松田 宗一郎,
小林 良充, 寺下 勝巳, 小田 寿, 宮城島 拓人
一地方病院における食道癌診療の現状

JDDW2017

2017.10.12-15 福岡

Keito Suto, Toshihiro Matsukawa, Kazuo Oshimi,
Takuto Miyagishima
Successful treatment of severe TAFRO syndrome
with cyclosporin A.

第79回日本血液学会学術集会

2017.10.20-22 東京

Toshihiro Matsukawa, Kazuhiro Oshimi,
Keito Suto, Takuto Miyagishima
Normalization of serum free light-chain ratio in
earlier-phase prolonged progression-free survival.

第79回日本血液学会学術集会

2017.10.20-22 東京

Hisashi Oda, Keito Suto, Toshihiro Matsukawa,
Kazuo Oshimi, Takuto Miyagishima
Three cases of mucosa-associated lymphoid tissue
lymphoma of the Rectum.

第79回日本血液学会学術集会

2017.10.20-22 東京

Takuto Miyagishima, Satoshi Yuki,
Tetsuhito Muranaka, Yasushi Tsuji, Yumiko Ota,
Kazuteru Hatanaka, Hiroyuki Okuda,
Takahide Sasaki, Masayoshi Dazai, Jun Konno,
Michio Nakamura, Tomoyuki Ohta, Takuya Honda,
Atsushi Ishiguro, Osamu Muto, Sosuke Kato,
Atsushi Sato, Masakau Abe, Yuh Sakata,
Yoshito Komatsu

Analysis of tumor location: A retrospective trial for
evaluating the safety and efficacy of Regorafenib for
patients with metastatic colorectal cancer: HGCSG

1401

ESMO Asia 2017

2017.11.16-19 Singapore

長井 惇, 松川 敏大, 原田 一顕, 佐野 逸紀,
寺下 勝巳, 高橋 一宏, 小林 良充, 小田 寿,
宮城島 拓人

30年以上の経過を経て診断に至ったSAPHO症候群
第281回内科学会北海道地方会

2017.11.18 旭川

神経内科

江口 克紀, 津坂 和文, 佐々木 秀直

完全四肢麻痺に至った片側脊髄動脈閉塞による延髄梗
塞の1例

第101回日本神経学会北海道地方会

2017.9.2 札幌市

江口 克紀, 津坂 和文, 矢部 一郎, 佐々木 秀直
Rituximabを含む化学療法後に急速に悪化した抗
MAG抗体陽性ニューロパチーの1例

第35回日本神経治療学会総会

2017.11.2-4 さいたま市

外科

江本 慎, 千田 圭悟, 谷 道夫, 更科 耕一郎,
羽場 真, 小林 清二, 河合 朋昭, 小笠原 和宏
内視鏡的経鼻胆道ドレナージチューブの逸脱による空
腸穿孔の1例

第106回北海道外科学会

2017.2.4 札幌市

江本 慎, 千田 圭悟, 谷 道夫, 河合 朋昭,
小林 清二, 小笠原 和宏

当科における鼠径ヘルニア嵌頓症例の検討

第53回日本腹部救急医学会総会

2017.3.2 横浜市

坂本 沙織, 佐野 修平, 石川 倫啓, 江本 慎,
河合 朋昭, 小林 清二, 小笠原 和宏
腹腔鏡を用いた緊急手術により救命し得た門脈ガス血
症の1例

第122回日本消化器病学会北海道支部例会

2017.3.3 札幌市

小笠原 和宏, 千田 圭悟, 谷 道夫, 江本 慎,
河合 朋昭, 小林 清二

肝転移を有する大腸癌切除後5年生存症例のその後の
経過についての検討～がんサバイバーシップに向けて

第117回日本外科学会定期学術集会

2017.4.28 横浜市

江本 慎, 千田 圭悟, 谷 道夫, 河合 朋昭,
小林 清二, 小笠原 和宏
当院における腹腔鏡下ヘルニア手術の短期的成績
第15回日本ヘルニア学会学術集会
2017.6.2 東京都

佐藤 雅子, 高橋 将人, 渡邊 健一, 富岡 伸元,
山本 貢, 小笠原 和宏, 山下 啓子
HER2陽性転移・再発乳がんに対するT-DM1の治療効果と安全性に関する検討
第24回日本乳癌学会学術総会
2017.6.17 東京都

坂本 沙織, 本間 重紀, 市川 伸樹, 大野 陽介,
吉田 雅, 川村 秀樹, 小林 正幸, 武富 紹信
S状結腸切除術後に発症した虚血性直腸炎の1例
第111回日本臨床外科学会北海道支部例会
2017.7.1 釧路市

佐野 修平, 石川 倫啓, 江本 慎, 河合 朋昭,
小林 清二, 小笠原 和宏
脾臓摘出後に発症した横隔膜ヘルニア嵌頓の1例
第111回日本臨床外科学会北海道支部例会
2017.7.1 釧路市

小笠原 和宏, 小林 清二, 河合 朋昭, 江本 慎
20年間に小葉癌と病理診断された乳癌62症例の検討
第25回日本乳癌学会学術総会
2017.7.14 福岡市

石川 倫啓, 上泉 洋, 辻 健志, 葛西 弘規,
許 理威, 羽田 力, 伊藤 浩二, 中島 保明
腸閉塞をきたした虫垂原発混合型腺神経内分泌癌の1例
第72回日本消化器外科学会総会
2017.7.20 金沢市

石川 倫啓, 佐野 修平, 江本 慎, 河合 朋昭,
小林 清二, 小笠原 和宏
単孔式腹腔鏡下イレウス解除術を行った胆石イレウスの1例
第115回日本消化器病学会北海道支部例会
2017.9.2 札幌市

江本 慎, 佐野 修平, 石川 倫啓, 河合 朋昭,
小林 清二, 小笠原 和宏
腹腔鏡下に修復し, 小腸切除後にヘルニア門を修復し

た閉鎖孔ヘルニア嵌頓の1例
第107回北海道外科学会
2017.9.16 札幌市

佐野 修平, 石川 倫啓, 坂本 沙織, 江本 慎,
河合 朋昭, 小林 清二, 小笠原 和宏
S状結腸が嵌頓した右鼠径ヘルニアの1例
第112回日本臨床外科学会北海道支部例会
2017.12.2 札幌市

江本 慎, 本間 重紀, 佐野 修平, 石川 倫啓,
河合 朋昭, 小林 清二, 小笠原 和宏, 武富 紹信
直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術の経験
第30回日本内視鏡外科学会総会
2017.12.8 京都市

坂本 沙織, 本間 重紀, 市川 伸樹, 大野 陽介,
吉田 雅, 川村 秀樹, 小林 正幸, 武富 紹信
S状結腸切除術後に発症した虚血性直腸炎の1例
第30回日本内視鏡外科学会総会
2017.12.9 京都市

整形外科

百貫 亮太, 高畑 雅彦, 岩崎 倫政, 織田 格,
大嶋 茂樹, 金山 雅弘, 遠藤 努, 久田 雄一郎,
安井 啓悟, 三田 真俊, 放生 憲博
上位頸椎手術の原因疾患の変遷と軸椎歯突起後方偽腫瘍の発生要因および治療成績に関する検討-北海道に於ける多施設調査研究-
第132回北海道整形災害外科学会
2017.1.28 札幌市

藪内 康史, 近藤 英司, 小野寺 純, 小野寺 智洋,
亀田 敏明, 佐藤 大, 八木 知徳, 岩崎 倫政,
安田 和則
新しいロッキングプレートを用いた内側楔状開大式高位脛骨骨切り術の短期成績: 抜釘症例での検討
第132回北海道整形災害外科学会
2017.1.28 札幌市

竹内 博紀, 高畑 雅彦, 須藤 英毅, 岩田 玲,
小甲 晃史, 山田 勝久, 岩崎 倫政
胸髄症を契機に発見された末端肥大症の一例
第132回北海道整形災害外科学会
2017.1.28 札幌市

藤田 勝久, 小谷 善久, 甲斐原 拓真, 亀田 裕亮,
深谷 英昭
多孔質ハイドロキシアパタイト/コラーゲンをを用いた
頸椎前方除圧固定術の臨床成績：自家骨移植群との比較
第132回北海道整形災害外科学会
2017.1.28 札幌市

藤田 勝久, 小谷 善久, 甲斐原 拓真, 亀田 裕亮,
深谷 英昭
腰椎椎体間固定術後におけるケージ後方移動の危険因
子に関する検討
CBTを用いた脊柱再建手術300例の臨床成績-CBT原
法とModified CBT法の比較-
第132回北海道整形災害外科学会
2017.1.28 札幌市

小谷 善久, 甲斐原 拓真, 藤田 勝久, 亀田 裕亮,
深谷 英昭, Richard Hynes
腰仙部変性疾患に対する側臥位低侵襲型前側方椎体固
定術と経皮的後方固定併用手術の短期臨床成績
第132回北海道整形災害外科学会
2017.1.28 札幌市

小谷 善久, 甲斐原 拓真, 藤田 勝久, 亀田 裕亮,
深谷 英昭
腰椎変性すべり症に対する側臥位OLIF併用経皮的後
方固定とModified CBT併用 MIS-TLIF (MIDLF)
の臨床成績の比較
第132回北海道整形災害外科学会
2017.1.28 札幌市

甲斐原 拓真, 小谷 善久, 藤田 勝久, 亀田 裕亮,
深谷 英昭
Sacral alar-iliac screw (SAI) を用いた脊柱再建術の
臨床成績
第132回北海道整形災害外科学会
2017.1.28 札幌市

小谷 善久, 甲斐原 拓真, 藤田 勝久, 亀田 裕亮,
深谷 英昭
成人脊柱変形に対する多椎間OLIFとHybrid PF法を
併用した前後合併矯正固定術の臨床成績
第132回北海道整形災害外科学会
2017.1.28 札幌市

小谷 善久, 甲斐原 拓真, 藤田 勝久, 亀田 裕亮,

深谷 英昭
Oblique Lateral Interbody Fusion (OLIF) を併用し
た脊柱再建術の臨床成績
第132回北海道整形災害外科学会
2017.1.28 札幌市

甲斐原 拓真, 小谷 善久, 藤田 勝久, 亀田 裕亮,
深谷 英昭
脊椎Revision手術におけるOblique Lateral Interbody
Fusion (OLIF) 応用の脊柱再建術の臨床成績
第132回北海道整形災害外科学会
2017.1.28 札幌市

藤田 勝久, 小谷 善久, 甲斐原 拓真, 亀田 裕亮,
深谷 英昭
胸椎・胸腰椎移行部における拡大Oblique Lateral
Interbody Fusion (OLIF) の臨床成績
第132回北海道整形災害外科学会
2017.1.28 札幌市

Yusuke Menjo, Masahiko Takahata,
Yoshihiro Hojo
Preoperative evaluation of the K-line on dynamic
flexion-extension radiograms for prediction of
neurological recovery after laminoplasty for cervical
myelopathy caused by OPLL
8th Annual Meeting of Cervical Spine Research
Society -Asia Pacific Section-
2017.3.9 Kobe, Japan

Koji Yabuuchi, Eiji Kondo, Jun Onodera,
Toshiaki Kameda, Dai Sato, Tomohiro Onodera,
Tomonori Yagi, Norimasa Iwasaki,
Kazunori Yasuda
Biomechanical and Clinical Evaluations of a Novel
Fixation System for Medial Open
Wedge High Tibial Osteotomy : Comparison with
Conventional Locking Plate
Orthopaedic Research Society 2017 Annual Meeting
2017.3.19 San Diego

校條 祐輔, 須田 浩太, 松本 聡子, 小松 幹,
牛久 智加良, 辻 収彦, 許斐 恒彦, 高畑 雅彦,
岩崎 倫政
バンコマイシン創内散布は脊椎インストゥルメンテー
ション手術の創感染を減少させる ~脊椎外傷に対す
るプロスペクティブスタディ~

第46回日本脊椎脊髄病学会

2017.4.13 札幌市

辻 収彦, 須田 浩太, 高畑 雅彦, 小松 幹,
牛久 智加良, 校條 祐輔, 松本 聡子,
三浪 明男, 岩崎 倫政, 松本 守雄, 中村 雅也,
石井 賢

脊椎圧迫骨折の偽関節リスクは予測可能である～新たな骨粗鬆症評価法：TBSスコアを用いた予後予測～

第46回日本脊椎脊髄病学会

2017.4.13 札幌市

藤田 勝久, 小谷 善久, 甲斐原 拓真, 亀田 裕亮,
深谷 英昭

多孔質ハイドロキシアパタイト/コラーゲンを用いた
頸椎前方除圧固定術の臨床成績：自家骨移植群との比
較

第46回日本脊椎脊髄病学会

2017.4.13 札幌市

藤田 勝久, 小谷 善久, 甲斐原 拓真, 亀田 裕亮,
深谷 英昭

CBT法を用いた脊柱再建手術300例の臨床成績-CBT
原法とModified CBT法の比較-

第46回日本脊椎脊髄病学会

2017.4.13 札幌市

甲斐原 拓真, 小谷 善久, 藤田 勝久, 亀田 裕亮,
深谷 英昭

Sacral alar-iliac screw (SAI) を用いた脊柱再建術の
臨床成績

第46回日本脊椎脊髄病学会

2017.4.13 札幌市

甲斐原 拓真, 小谷 善久, 藤田 勝久, 亀田 裕亮,
深谷 英昭

脊椎Revision手術におけるOblique Lateral Interbody
Fusion (OLIF) 応用の脊柱再建術の臨床成績

第46回日本脊椎脊髄病学会

2017.4.13 札幌市

小谷 善久, 甲斐原 拓真, 藤田 勝久, 亀田 裕亮,
深谷 英昭

成人脊柱変形に対する多椎間OLIFとHybrid PF法を
併用した前後合併矯正固定術の臨床成績

第46回日本脊椎脊髄病学会

2017.4.13 札幌市

小谷 善久, 甲斐原 拓真, 藤田 勝久, 亀田 裕亮,
深谷 英昭

Oblique Lateral Interbody Fusion (OLIF) を併用し
た脊柱再建術の臨床成績

第46回日本脊椎脊髄病学会

2017.4.13 札幌市

Dai Sato, Yoshihiro Hojo, Tomonori Yagi,
Norimasa Iwasaki, Kazunori Yasuda
Clinical Outcome of a Novel Fixation System for
Open-Wedge High Tibial Osteotomy
4th Japan-Korea Knee Osteotomy Symposium

2017.4.22 Toyama, Japan

校條 祐輔, 須田 浩太, 松本 聡子, 小松 幹,
牛久 智加良, 辻 収彦, 高畑 雅彦, 岩崎 倫政
新たな骨評価法：海綿骨スコアをどのように活かすか,
骨粗鬆症治療へ向けての一考

第90回日本整形外科学会学術集会

2017.5.18 仙台市

辻 収彦, 須田 浩太, 小松 幹, 牛久 智加良,
校條 祐輔, 松本 聡子, 三浪 明男, 高畑 雅彦,
岩崎 倫政

脊椎圧迫骨折の偽関節リスクは予測可能である～新た
な骨粗鬆症評価法：TBSスコアを用いた予後予測～

第90回日本整形外科学会学術集会

2017.5.18 仙台市

辻 収彦, 須田 浩太, 小松 幹, 牛久 智加良,
校條 祐輔, 松本 聡子, 三浪 明男, 高畑 雅彦,
岩崎 倫政

びまん性特発性骨増殖症に生じた頸椎損傷の手術治療
- 受傷後8時間以内の手術が予後を左右する -

第90回日本整形外科学会学術集会

2017.5.18 仙台市

藪内 康史, 近藤 英司, 小野寺 純, 小野寺 智洋,
亀田 敏明, 佐藤 大, 八木 知徳, 岩崎 倫政,
安田 和則

TriS Medial HTO Plate Systemを用いた内側楔状開
大式高位脛骨骨切り術の短期成績：抜釘症例における
従来のプレートとの比較

第9回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会

2017.6.22 札幌市

竹内 博紀, 入江 徹, 下段 俊, 浅野 毅,

高橋 大介, 岩崎 倫政
大腿骨転子間弯曲内反骨切り術が股関節外転角度に与える影響
第133回北海道整形災害外科学会
2017.7.8 札幌市

藪内 康史, 近藤 英司, 小野寺 純, 亀田 敏明,
佐藤 大, 小野寺 智洋, 八木 知徳, 岩崎 倫政,
安田 和則
TriS Medial HTO Plate Systemを用いた内側楔状開大式高位脛骨骨切り術の短期成績：新規TriS plateでの比較
第133回北海道整形災害外科学会
2017.7.8 札幌市

藪内 康史, 近藤 英司, 小野寺 純, 亀田 敏明,
八木 知徳, 安田 和則, 岩崎 倫政
内側楔状開大式高位脛骨骨切り術後のスポーツおよび社会復帰に関する検討
第43回日本整形外科スポーツ医学会
2017.9.8 宮崎市

竹内 博紀, 入江 徹, 下段 俊, 浅野 毅,
高橋 大介, 岩崎 倫政
大腿骨転子間弯曲内反骨切り術が股関節外転角度に与える影響
第44回日本股関節学会学術集会
2017.10.21 東京都

藪内 康史, 近藤 英司, 小野寺 純, 小野寺 智洋,
亀田 敏明, 佐藤 大, 八木 知徳, 安田 和則,
岩崎 倫政
新規ロッキングプレートを用いた内側楔状開大式高位脛骨骨切り術の生体力学および臨床的評価：従来のプレートとの比較
第32回日本整形外科学会基礎学術集会
2017.10.26 那覇市

藪内 康史, 近藤 英司, 小野寺 純, 小野寺 智洋,
亀田 敏明, 佐藤 大, 八木 知徳, 安田 和則,
岩崎 倫政
TriS Medial HTO Plate Systemを用いた内側楔状開大式高位脛骨骨切り術の短期成績：新規TriS plateとの比較
第6回日本knee osteotomyフォーラム
2017.11.11 金沢市

藪内 康史, 近藤 英司, 小野寺 純, 亀田 敏明,
佐藤 大, 小野寺 智洋, 八木 知徳, 岩崎 倫政,
安田 和則
Tris Medial HTO Plate Systemを用いた内側楔状開大式高位脛骨骨切り術の短期成績：
抜釘症例における従来のプレートとの比較
第45回日本関節病学会
2017.11.16 東京都

竹内 博紀, 藪内 康史, 近藤 英司, 小野寺 純,
小野寺 智洋, 八木 知徳, 岩崎 倫政, 安田 和則
65歳以上の高齢者に対する内側楔状開大式高位脛骨骨切り術の臨床成績
第45回日本関節病学会
2017.11.16 東京都

形成外科

池田 正起, 北條 正洋, 小田 陽一郎
当科における免疫チェックポイント阻害剤の使用経験
第93回北日本形成外科学会北海道地方会
2017.2.4 札幌市

池田 正起, 北條 正洋, 林 利彦
悪性黒色腫多発転移に対する免疫チェックポイント阻害剤の使用経験
第33回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会
2017.6.30 秋田市

脳神経外科

菅原 淳, 石垣 大哉, 小林 正和, 吉岡 邦浩,
井須 豊彦, 小笠原 邦昭
脊髄硬膜動静脈瘻に対する3D-CTAの有用性
第40回日本脳神経CI学会総会
2017.3.3 鹿児島市

金 景成, 井須 豊彦, 國保 倫子, 森本 大二郎,
岩本 直高, 中嶋 隆夫, 小林 士郎, 森田 明夫
吸収性スクリューによる頸椎後方固定術の有限要素法を用いた生体力学的検討
第40回日本脳神経CI学会総会
2017.3.3-4 鹿児島市

國保 倫子, 金 景成, 森本 大二郎, 井須 豊彦,
岩本 直高, 小林 士郎, 森田 明夫
MRIによる脊髄硬膜外血腫の出血点診断の試み

第40回日本脳神経CI学会総会

2017.3.3-4 鹿児島市

菅原 淳, 石垣 大哉, 藤原 俊朗, 井須 豊彦,

小笠原 邦昭

高齢者の圧迫性脊髄症に対する術後の歩行改善：歩行
分析計を用いた客観的評価

第30回日本老年脳神経外科学会

2017.4.21 東京都

國保 倫子, 金 景成, 井須 豊彦, 岩本 直高,

森本 大二郎, 小林 士郎, 森田 明夫

超高齢者の難治性腰下肢痛に対する新たな治療の試み
第30回日本老年脳神経外科学会

2017.4.21 東京都

岩本 直高, 井須 豊彦, 金 景成, 森本 大二郎,

國保 倫子, 山田 創, 松野 彰

高齢者のFailed back surgery syndromeに対して腓骨
神経障害の治療が奏功した1例

第30回日本老年脳神経外科学会

2017.4.21 東京都

石垣 大哉, 菅原 淳, 井須 豊彦, 小笠原 邦昭

高齢者の難治性腰殿部痛に中殿筋除圧術を行った一例
第30回日本老年脳神経外科学会

2017.4.21 東京都

菅原 淳, 石垣 大哉, 藤原 俊朗, 井須 豊彦,

小笠原 邦昭

高齢者の圧迫性脊髄症に対する術後の歩行改善：歩行
分析計を用いた客観的評価

第32回日本脊髄外科学会

2017.6.8-9 大阪市

森本 大二郎, 金 景成, 喜多村 孝雄, 國保 倫子,

松本 順太郎, 岩本 直高, 井須 豊彦, 森田 明夫

外側大腿皮神経障害の外科的治療成績

第32回日本脊髄外科学会

2017.6.8-9 大阪市

岩本 直高, 井須 豊彦, 金 景成, 森本 大二郎,

國保 倫子, 松本 順太郎, 山内 朋裕, 磯部 正則,

松野 彰

腰椎変性側弯を伴う腰下肢痛に対する治療

第32回日本脊髄外科学会

2017.6.8-9 大阪市

岩本 直高, 井須 豊彦, 金 景成, 森本 大二郎,

國保 倫子, 松本 順太郎, 山内 朋裕, 磯部 正則,
松野 彰

腰椎疾患を有した腰椎周辺疾患への治療成績

第32回日本脊髄外科学会

2017.6.8-9 大阪市

松本 順太郎, 井須 豊彦, 金 景成, 岩本 直高,

山崎 和義, 磯部 正則

腰痛・腰下肢痛治療における腰椎周辺疾患の影響に関
する検討

第32回日本脊髄外科学会

2017.6.8-9 大阪市

國保 倫子, 金 景成, 井須 豊彦, 森本 大二郎,

岩本 直高, 喜多村 孝雄, 森田 明夫

外来腰痛患者における腰椎周辺疾患に関する前向き研
究

第32回日本脊髄外科学会

2017.6.8-9 大阪市

國保 倫子, 金 景成, 井須 豊彦, 森本 大二郎,

岩本 直高, 喜多村 孝雄, 森田 明夫

硬膜外麻酔が一因と思われた脊髄硬膜外血腫の1例
第32回日本脊髄外科学会

2017.6.8-9 大阪市

松本 順太郎, 井須 豊彦, 金 景成, 岩本 直高,

山崎 和義, 磯部 正則

浅腓骨神経障害に対する誘発負荷試験の試み

第32回日本脊髄外科学会

2017.6.8-9 大阪市

石垣 大哉, 菅原 淳, 小笠原 邦昭

L4神経根障害を呈したFar-out症候群の一症例

第32回日本脊髄外科学会

2017.6.8-9 大阪市

國保 倫子, 金 景成, 森本 大二郎, 井須 豊彦,

岩本 直高, 喜多村 孝雄, 森田 明夫

外側大腿皮神経障害に対する手術治療経験

第28回日本末梢神経学会学術集会

2017.8.25-26 名古屋市

金 景成, 井須 豊彦, 森本 大二郎, 岩本 直高,

國保 倫子, 喜多村 孝雄, 松本 順太郎, 菅原 淳,

石垣 大哉, 森田 明夫

脳神経外科医として知るべき末梢神経障害
第76回日本脳神経外科学会学術総会
2017.10.12-14 名古屋市

森本 大二郎, 金 景成, 喜多村 孝雄, 岩本 直高,
國保 倫子, 松本 順太郎, 井須 豊彦, 森田 明夫
末梢神経障害手術を行う上での工夫とその有用性
第76回日本脳神経外科学会学術総会
2017.10.12-14 名古屋市

井須 豊彦
腰痛を呈する中殿皮神経障害に対する神経剥離術－手
術手技－
第76回日本脳神経外科学会学術総会
2017.10.12-14 名古屋市

菅原 淳, 石垣 大哉, 小林 正和, 吉岡 邦浩,
井須 豊彦, 小笠原 邦昭
脊髄硬膜動脈瘻に対する術前3D-CTAの有用性
第76回日本脳神経外科学会学術総会
2017.10.12-14 名古屋市

岩本 直高, 井須 豊彦, 金 景成, 森本 大二郎,
國保 倫子, 松本 順太郎, 山内 朋裕, 磯部 正則,
松野 彰
腰椎変性側弯を伴う腰下肢痛の治療
第76回日本脳神経外科学会学術総会
2017.10.12-14 名古屋市

松本 順太郎, 井須 豊彦, 金 景成, 岩本 直高,
三木 浩一, 山崎 和義, 磯部 正則
腰椎疾患合併例における腰椎周辺疾患の影響に関する
検討
第76回日本脳神経外科学会学術総会
2017.10.12-14 名古屋市

喜多村 孝雄, 金 景成, 森本 大二郎, 國保 倫子,
岩本 直高, 井須 豊彦, 森田 明夫
総腓骨神経の絞扼性障害におけるdynamic factorの検
討
第76回日本脳神経外科学会学術総会
2017.10.12-14 名古屋市

金 景成, 井須 豊彦, 國保 倫子, 森本 大二郎,
岩本 直高
中殿皮神経障害の治療が有効であったパーキンソン病
に併発した腰下肢痛の1例

第52回日本脊髄障害医学会
2017.11.16-17 千葉市

泌尿器科

古御堂 純, 青柳 俊紀, 谷口 成実, 村雲 雅志,
森田 研, 甲谷 太郎, 高橋 将成, 上久保 康弘
AVMにより重症心不全を発症した左腎腫瘍の1例
第400回日本泌尿器科学会北海道地方会
2017.1.28 札幌市

古御堂 純, 青柳 俊紀, 谷口 成実, 村雲 雅志,
森田 研, 佐々木 元
腹腔鏡下・後腹膜アプローチで固有腎摘術を施行した
生体腎移植の1例
第50回日本臨床腎移植学会
2017.2.15-17 神戸市

古御堂 純, 村雲 雅志, 青柳 俊紀, 谷口 成実,
森田 研
当院におけるTVM手術の治療成績
第105回日本泌尿器科学会総会
2017.4.23 鹿児島市

平田 由里絵, 古御堂 純, 渡邊 絢子,
佐々木 芳浩, 村橋 範浩, 野々村 克也
断裂尿管が自然修復した結石性腎周囲・後腹膜膿瘍の
1例
第401回日本泌尿器科学会北海道地方会
2017.6.17 札幌市

渡邊 絢子, 平田 由里絵, 古御堂 純,
佐々木 芳浩, 野々村 克也
当院で経験した異時性両側性精巣腫瘍の2例
第82回日本泌尿器科学会東部総会
2017.9.16-18 東京都

古御堂 純, 渡邊 絢子, 平田 由里絵,
佐々木 芳浩, 野々村 克也
結腸膀胱瘻の検討
第402回日本泌尿器科学会北海道地方会
2017.10.28 札幌市

耳鼻咽喉科

寒風澤 知明, 石井 秀幸, 北南 和彦
セミノーマ頸部転移例

第215回日本耳鼻咽喉科学会北海道地方部会
2017.3.26 札幌市

歯科口腔外科

大坪 誠治, 草野 満男, 藤盛 真樹, 西田 佳織,
嶋崎 康相

ICG蛍光法の口腔がんへの応用
第25回釧路歯科医師会学術大会
2017.2.25 釧路市

西田 佳織, 藤盛 真樹, 嶋崎 康相, 大坪 誠治
飛び降り自殺を図った下顎骨骨折の一例～病病連携で
治療を行った症例～
第25回 釧路歯科医師会学術大会
2017.2.25 釧路市

藤盛 真樹, 嶋崎 康相
骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の発生および治療に関する
多施設共同前向き研究 - 中間報告 -
北海道病院歯科医会 第1回例会
2017.3.25 札幌市

藤盛 真樹, 嶋崎 康相
骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の発生および治療に関する
多施設共同前向き研究 - 第1報 BRONJの治療に関し
て (中間報告) -
第71回日本口腔科学会総会・学術大会
2017.4.26 松山市

藤盛 真樹, 嶋崎 康相
骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の発生および治療に関する
多施設共同前向き研究 - 第2報 BP未使用顎骨壊死に
関して (中間報告) -
第71回日本口腔科学会総会・学術大会
2017.4.26 松山市

嶋崎 康相, 藤盛 真樹
骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の発生および治療に関する
多施設共同前向き研究 - 第3報 BP製剤投与患者の抜
歯後治癒経過に関して (中間報告) -
第55回 (公社) 日本口腔外科学会 北日本支部学術集
会
2017.5.26 函館市

藤盛 真樹, 嶋崎 康相
骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の発生および治療に関する

多施設共同前向き研究 - 第4報 十勝, 釧路・根室,
オホーツク医療圏の現況 (中間報告) -
第55回 (公社) 日本口腔外科学会 北日本支部学術集会
2017.5.26 函館市

藤盛 真樹, 小川 仁, 西田 佳織, 嶋崎 康相
病病連携にて治療を行った自殺企図による下顎骨骨折
の1例
第55回 (公社) 日本口腔外科学会 北日本支部学術集会
2017.5.26 函館市

藤盛 真樹, 小川 仁, 西田 佳織, 嶋崎 康相
地域外傷医療における病院歯科口腔外科の病院相互連
携
第19回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会
2017.7.29 札幌市

西田 佳織, 小川 仁, 嶋崎 康相, 藤盛 真樹
病病連携にて加療を行った飛び降り自殺を図った下顎
骨骨折の1例
第19回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会
2017.7.29 札幌市

藤盛 真樹, 小川 仁, 西田 佳織, 嶋崎 康相
顔面多発骨折により救急搬送され, 救急外来で呼吸停
止をきたした1例
第19回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会
2017.7.29 札幌市

藤盛 真樹, 嶋崎 康相
薬剤関連顎骨壊死の発生および治療に関する多施設共
同前向き研究 - BRONJの治療 -
北海道病院歯科医会 第2回例会
2017.9.2 札幌市

藤盛 真樹, 嶋崎 康相
薬剤関連顎骨壊死の発生および治療に関する多施設共
同前向き研究 - BP未使用顎骨壊死 -
北海道病院歯科医会 第2回例会
2017.9.2 札幌市

藤盛 真樹, 嶋崎 康相
薬剤関連顎骨壊死の発生および治療に関する多施設共
同前向き研究 - BP製剤投与患者の抜歯 -
北海道病院歯科医会 第2回例会
2017.9.2 札幌市

藤盛 真樹, 嶋崎 康相
薬剤関連顎骨壊死の発生および治療に関する多施設共同前向き研究 - 道東圏域の現況 -
北海道病院歯科医会 第2回例会
2017.9.2 札幌市

藤盛 真樹, 嶋崎 康相
薬剤関連顎骨壊死の発生および治療に関する多施設共同前向き研究 - 統合解析結果 -
北海道病院歯科医会 第2回例会
2017.9.2 札幌市

藤盛 真樹, 嶋崎 康相, 角 伸博
ARONJの発生および治療に関する多施設共同前向き研究 - 第5報 BRONJの治療に関して -
第62回(公社)日本口腔科学会総会・学術大会
2017.10.21 京都市

藤盛 真樹, 嶋崎 康相, 角 伸博
ARONJの発生および治療に関する多施設共同前向き研究 - 第6報 BP未使用顎骨壊死に関して -
第62回(公社)日本口腔科学会総会・学術大会
2017.10.22 京都市

藤盛 真樹, 嶋崎 康相, 角 伸博
ARONJの発生および治療に関する多施設共同前向き研究 - 第7報 BP製剤投与患者の抜歯に関して -
第62回(公社)日本口腔科学会総会・学術大会
2017.10.22 京都市

藤盛 真樹, 嶋崎 康相, 角 伸博
ARONJの発生および治療に関する多施設共同前向き研究 - 第8報 道東圏域の現況 -
第62回(公社)日本口腔科学会総会・学術大会
2017.10.22 京都市

藤盛 真樹, 嶋崎 康相, 角 伸博
ARONJの発生および治療に関する多施設共同前向き研究 - 第9報 統合解析結果 -
第62回(公社)日本口腔科学会総会・学術大会
2017.10.22 京都市

病 理

石田 雄介, 高橋 達郎, 佐藤 行真, 池田 正起,
守田 玲菜, 武井 英博, 木村 太一, 津田 真寿美,
谷野 美智江, 田中 伸哉

皮膚悪性黒色腫に対するオブジーボ(R)投与後に出現し免疫染色にてS-100陰性を呈した転移性脳腫瘍の1例
第106回日本病理学会総会
2017.4.28 東京都

勝尾 知尋, 中川 恵, 石田 雄介, 高橋 達郎,
下埜 城嗣, 武井 英博, 木村 太一, 谷野 美智枝,
田中 伸哉
急性前骨髄球性白血病(APL)から播種性血管内凝固症候群(DIC)および意識障害を来して死亡した1剖検例
第106回日本病理学会総会
2017.4.29 東京都

中央検査部

遊佐 教純
信頼される神経伝導検査と術中モニタリングのために
平成29年度日本臨床衛生検査技師会 北日本支部 生理機能検査部門研修会
2017.9.2 八戸市

鈴木 勝俊
血管診療技師(CVT)を目指して
第24回北海道地区労災病院臨床検査技師会総会・学会
2017.10.21 札幌市

薬剤部

向井 聡志, 伊藤 由佳子, 安藤 幸彦, 石橋 芳昭,
松田 俊之
細菌培養結果をふまえた抗菌薬治療への積極的介入
日本薬学会第137年会
2017.3.26 仙台市

安藤 幸彦, 伊藤 由佳子, 向井 聡志,
佐々木 幸博, 新井田 敦浩, 松田 俊之
抗菌薬適正使用推進手順の拡張
日本薬学会第137年会
2017.3.26 仙台市

小島 佑太, 多田 萌菜美, 小笠原 和宏,
門脇 郁美, 松田 俊之
高用量オキシコドンからメサドン錠に変更し疼痛緩和に成功した2例
第11回日本緩和医療薬学会年会

2017.6.3 札幌市

矢澤 敏

当院におけるカルフィルゾミブの使用経験
平成29年度北海道ブロック労災病院薬剤部会
2017.10.14 釧路市

谷向 充哉

曝露対策の今後への対策
平成29年度北海道ブロック労災病院薬剤部会
2017.10.14 釧路市

荒井 宏人

がん患者指導管理料3の算定開始にあたって
平成29年度北海道ブロック労災病院薬剤部会
2017.10.14 釧路市

看護部

○松浦 理沙, 松川 敏大, 宮城島 拓人,

佐々木 祐美

遠方の地方市中病院における移植後長期フォローアッ
プ外来開設への取り組み(第一報)
第39回日本造血細胞移植学会
2017.3.3 鳥根県

馬場 かおり

易感染状態患者の多い病棟でアウトブレイクした流行
性角結膜炎に対する感染対策
第6回日本感染管理ネットワーク学会学術集会
2017.5.20 函館市

門脇 郁美, 伊藤 慶洋, 小笠原 和宏, 久野 紀子
専門看護師・認定看護師が行うがん相談とがん患者指
導管理料2算定の両立をめぐる現状
第22回日本緩和医療学会学術大会
2017.6.24 横浜

佐々木 朋子, 小林 良充, 松川 敏大,

○村山 由佳子, 松浦 理沙, 宮城島 拓人,
三浦 郁恵, 野沢 美佳, 矢澤 敏, 佐々木 祐美
外来化学療法センターでE-Ld療法を受ける患者の内
服アドヒアランス向上へ向けた取り組み
第55回日本癌治療学会学術集会
2017.10.20 横浜市

鳥居 彩子, 三浦 郁恵, 勝木 香奈子

災害を予期した場合の看護師の不安を明らかにする
第65回日本職業・災害医学学会学術大会
2017.10.20 北九州市

吉田早織, 苫 香苗, 大西 真由美

急性期病院における退院支援の第二段階の介入方法の
在り方 退院支援に滞りをきたした大腿骨近位部骨折
患者の事例検討
北海道看護協会釧路支部看護研究合同発表会
2017.11.25 釧路市

写真で見る “ろうさいの一年”



(4月) 職員オリエンテーション



(5月) ロビーコンサート



(5月) 看護の日【商業施設にて】



(5月) 看護の日【当院にて】



(7月) 医療体験セミナー①



(7月) 医療体験セミナー②



(7月) 医療体験セミナー③



(7月) 医療体験セミナー④



(7月) 医療体験セミナー⑤



(7月) 健康と福祉の日【永年勤続表彰】



(8月) 北海盆踊り



(9月) 緩和ケア研修会①



(9月) 緩和ケア研修会②



(9月) 小学生職場体験



(10月) 市民公開講座



(10月) 中央採血室拡充①



(10月) 中央採血室拡充②



(12月) 内視鏡検査室改修



(2月) 消防訓練



(3月) 防災訓練

編集後記

2018年11月吉日

平素より当院の事業運営に御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度「やちぼうず 2017年年報」第22号が完成いたしました。編集に際して御多忙の中、関係各所の御協力のもと発行することができましたことに、御礼申し上げます。

病院誌「やちぼうず」は当院の1年間の診療実績を中心に、各診療科、各部、各委員会の活動状況に経営統計を加え、また巻末には当院の活動の様子をわかりやすく、写真にて掲載しており、当院の活動のすべてが凝縮されておりますので、ご一読いただき理解を深めるツールとしてご利用していただければ幸いです。

年報は一年間の諸活動を振り返り、課題を確認し、さらには他医療機関皆様から評価をいただくことで、外部評価の資料としても重要な位置付けとされております。発行の意義は大きく、継続して発刊していくことが大切でありますので、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

当院は今後も地域の皆様とともに発展を続け、引き続き、良質な医療を提供していけるよう、職員全員で弛まぬ努力を重ねてまいります。

病院誌「やちぼうず」編集委員会
委員長 磯部 正則

病院誌「やちぼうず」編集委員

磯部 正則
吉野 康之
小林 良充
石川 隆壽
佐々木 育緒
鎌下 英人
田川 雅敏
本間 正志



独立行政法人 労働者健康安全機構
釧路労災病院

〒085-8533
 北海道釧路市中園町13番23号
 電話 (0154)22-7191(代表)
 F A X (0154)25-7308
<http://www.kushiroh.johas.go.jp/>

交通アクセス

- JRで来院される場合
 釧路駅より車で15分
- バスで来院される場合
 - くしろバス
 南北線、労災病院正面玄関横下車
 - 阿寒バス
 新橋大通大曲バス停にて下車
 (徒歩10分)
- 飛行機で来院される場合
 たんちょう釧路空港から
 連絡バスにて30分
 新橋大通大曲バス停下車
 (徒歩10分)



最新の知識と技術に基づき、
良質で信頼される医療を実践します。

